

令和3年度

研究紀要

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～



新宿区立四谷小学校

目 次

はじめに	校 長 石井 正広・・・・・・・・・・1
I 研究の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
II 各学年の実践	
◆低学年分科会（生活科）	
○第1学年	
单元名 「みずであそぼう」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
○第2学年	
单元名 「つながる広がるわたしの生活」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
○低学年分科会の成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
☆児童の学びを深める社会科掲示物を目指して①（専科分科会）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
◆中学年分科会（社会科）	
○第3学年	
单元名 「新宿区の移り変わり」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
单元名 「火事から地域を守る」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
○第4学年	
单元名 「地震から人々の暮らしを守る」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
○中学年分科会の成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
◆高学年分科会（社会科）	
○第5学年	
单元名 「くらしと産業を変える情報通信技術」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
○第6学年	
单元名 「大陸に学んだ国づくり」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
单元名 「明治の新しい国づくり」	・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
○高学年分科会の成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
☆児童の学びを深める社会科掲示物を目指して②（専科分科会）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
III 研究のまとめ	
○児童のアンケート分析	・・・・・・・・・・・・・・・・・・111
○研究の成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
おわりに	副校長 田内 利美
研究に携わった教職員	

はじめに

東京都において、令和5年度に全国小学校社会科研究協議会を開催する予定であり、本校が本大会の第一会場が本校となっています。

そこで、今年度から、東京都小学校社会科研究会の研究主題及び副主題「社会とつながり未来の社会を創る子供の育成～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～」を本校においても同様に掲げ、令和5年度の全国大会を目指し研究をスタートしました。

さて、今改訂により教科書が新しくなりましたが、若手の教員から「教材研究は難しい」「授業をどのように進めたらよいかよく分からない」という声が聞こえてくることが多い教科として社会科が挙げられます。また、令和2年6月に『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』が発行され、3観点での学習評価の取組がスタートしています。特に、これまでになかった「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けては、授業そのものが変わっていく必要を誰もが感じているところだと思います。

このような中、本校では、令和元・2年度の2年間にわたり、国立教育政策研究所教育課程研究指定校（小学校社会）として、社会科の実践研究を積み重ねてきました。学習指導要領で示された「学びのプロセス」に即して、社会的事象の見方・考え方を基に教材分析し、「問い」を吟味し、「学び方カード」を活用して学びを振り返る授業を目指してきました。その研究成果を継続し、今年度は以下の4点を手だてとして8本の授業実践を行いました。

- 見方・考え方・問い・資料・知識から教材を分析して単元を構想する。
- 主体的に問いを追究する工夫を行う。
- 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動を工夫する。
- 子供の学びを確かにする学習評価を工夫する。

本紀要において、実践授業の様子や研究成果の一端を紹介させていただきました。これから、社会科の授業実践に取り組まれる先生方、に何か一つでも参考となることをお届けできれば幸いです。

結びに、本校の研究にご指導いただきました、国士舘大学教授 澤井陽介先生、文部科学省教科調査官 小倉勝登先生、元聖徳大学大学院教授 廣嶋憲一郎先生、その他ご指導いただきました全ての先生方、そして、酒井敏男教育長はじめ新宿区教育委員会の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

令和4年3月 石井 正広

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

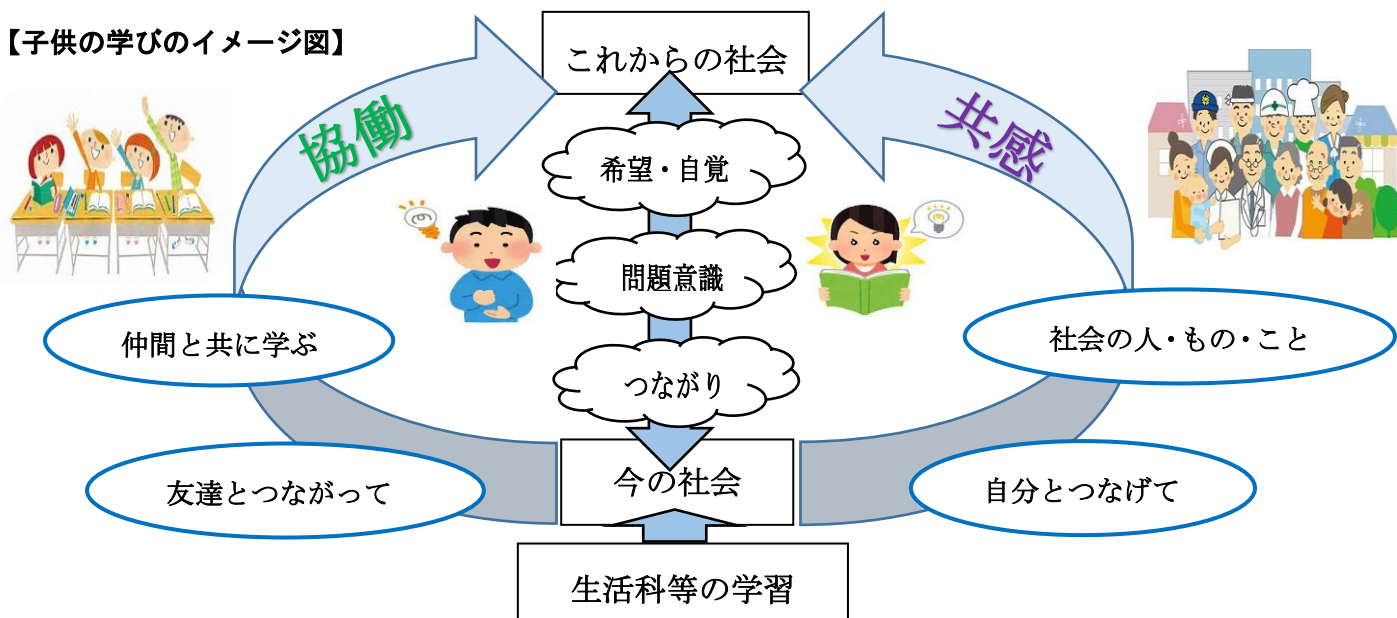
(1) 研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成
～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

(2) 研究主題設定の理由

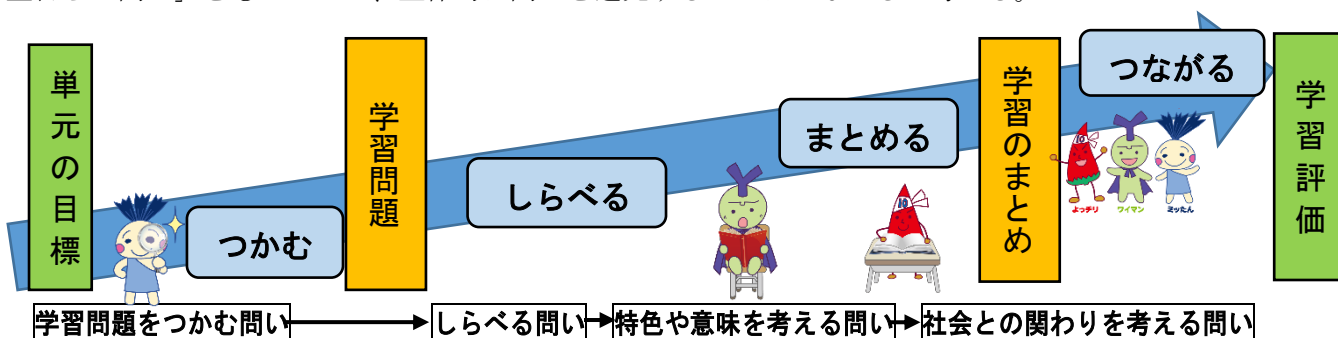
グローバル化や技術革新により急激に変化し予測困難な時代だからこそ、よりよい社会の在り方について考え続け、様々な立場の人々と協働し、その実現に向けて主体的に参画しようとする「社会とつながり未来を創る子供」を育てたい。本校では、社会科に限らず、生活科、総合的な学習の時間など教科横断的に多岐に渡って四谷の地域の方々と関わりをもてる機会があり、学習したことを交流したり、発信したりする活動を通して社会とのつながりがある。このような学習を通して、現実社会に見られる課題の解決を考えるなど、よりよい社会の在り方を考えていこうとする児童を育てたいと考える。「未来を創る」とは、現在、明日から、数年後、大人になってからの地域、日本、世界における人々と共に生きる社会を描き、その社会の一員としての生き方を考えていくことであり、未来への希望や社会の一員としての自覚をもつことであると考えた。

【子供の学びのイメージ図】



(3) 研究副主題について

問題解決的な学習に即して、単元の学習問題と学習問題を解決するために必要な「問い」について、着目する視点や考える方法を踏まえて想定し、実際の授業では、児童の思考に合わせて「問い」を修正していく。本校で考える「問い」は、社会的事象との出会いから生まれた疑問をもとに視点に着目することで児童がつかむ、具体的な事実を追究する「問い」、社会的な事象の特色や意味を考える「問い」、社会に見られる課題やその解決方法を考えたり自分の関わり方を考えたりする「問い」であり、その役割を意識しながら構成していくとともに、児童自ら「問い」をもつことが、主体的に問いを追究することにつながると思う。



(4) 研究構想図

＜四谷小学校教育目標＞

◆自ら学び、よく考える子 ◆豊かな心を持ち、思いやりのある子 ◆最後までやりぬく、たくましい子

社会的な背景

GIGAスクール構想での1人1台タブレットの配布、グローバル化や急激に変化し予測困難な時代こそ、他者と協働して課題を解決していくことや、よりよい社会の在り方について考え続け、その実現に向けて主体的に参画しようとする子供を育てたい。

研究の成果と課題

- 社会的事象の見方・考え方を働かせることができる教材開発
- 児童の学びが深まる問題解決的な学習過程と「問い」の構成の工夫
- 主体的に取り組む態度を育成する工夫
- 子供の主体的な学びの充実
- 協働的な学習の充実と個に応じた指導の充実
- 発達段階に応じた学び方カードの活用方法

児童の実態

- 学習に対する関心が高く、自分の考えをもち、知識が豊富
- 学習を振り返る力は付いてきた。
- 自分の考えに根拠をもち、伝えたり、つないだりして、相手に表現する力
- 学習計画を立て見通しをもつ活動
- 既習を活かし、社会とのつながりや関わりを考える学習活動の工夫

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

四谷小の目指す子供像

生活科	社会科（中学年）	社会科（高学年）
社会とのつながりを実感し、生活を豊かにしようとする子供	地域と共に考える子供	社会とつながり未来を創ろうとする子供

研究仮説

社会的事象の見方・考え方や獲得させたい知識、そのための問いや資料との関係を吟味して教材研究を行った上で単元を構想し、子供が社会的事象の見方・考え方を働かす学習活動を工夫し、学びを確かにする評価方法を工夫することにより、子供が主体的に問いを追究する学習が実現し、社会とつながり未来を創る子供が育つだろう。

【研究の内容①】

主体的に問いを追究する工夫

- もんだいいしき
社会的事象と出合って、問題意識が高まり、問いが生まれる。
- みとおす
予想をして、調べることを明確にして、学習の見通しを立てる。
- えらぶ
児童が資料から情報を選ぶ、学習方法を選ぶ、時間や学習形態を選ぶ、課題や問いを選ぶ。
- ふりかえる
学習問題をふりかえる。予想、計画をふりかえる。調べて分かったことや調べる方法や進め方をふり返る。

【研究の内容②】

見方・考え方が働く学習活動の工夫

- 広がりで見ると
位置や空間的な広がりから、資料を読み取り、見学・調査活動で調べる。
- 時間で見る
時間の経過で、資料を読み取り、見学・調査活動で調べる。
- 比較・分類・関連付け・関係・総合して考える
比較・関連・相互関係から、関係性などを資料から読み取り、見学、調査活動で調べ、考えて高め合う。
- 活用する
伝え合い、議論する中で、切実感や社会の参画意識をもてる。

【研究の内容③】

子供の学びを確かにする評価の工夫

- 児童が学びに生かす評価
問題解決の段階ごとに、学び方カードを活かして、自分自身の学びを振り返る。
- 教師が学びに生かす評価
ゴールの子どもの姿を具現化して、子供の表現活動を予想して、見取り指導に生かす。

生活科

主体的に学ぶ問い

- 問いが生まれる具体的な活動、体験を意図的に授業に入れる。

生活科

見方・考え方を生かす学習活動

- 視点に着目した学習活動を取り入れ、体験し表現する。

生活科

学びを確かにする評価

- 主体的に学習に取り組む態度の評価生活科

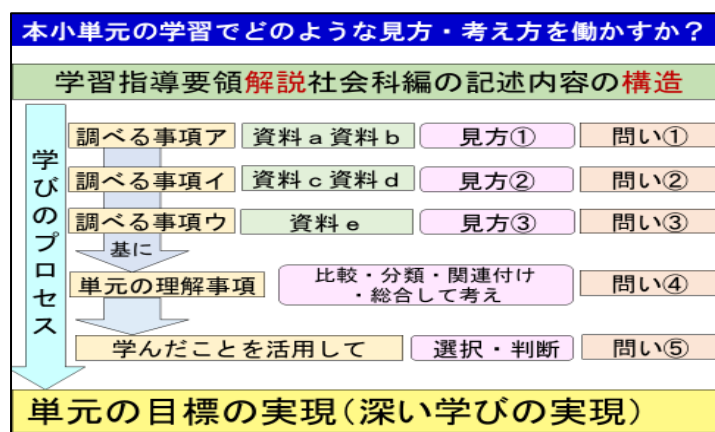
II 社会科の教材研究授業づくり

1 教材開発の工夫

本校の社会科では、以下の5つを教材開発のポイントに基づいて、事例や教材を選択し、子供たちに出わせている。

- ①社会とのつながりを意識できる教材
- ②問題意識をもち追究意欲を高める教材
- ③東京らしさやよさを感じ、都民の誇りがもてる教材
- ④人の営みや働きに共感できる教材
- ⑤時間的、空間的、相互関係的な視点に着目できる教材

学習指導要解説では、内容について、小学校学習指導要領社会科の解説は、下図のように「調べる事項・理解事項」「資料」「見方」「問い」から記述内容を構造的に分析できる。本校では、上記の5つのポイントで選択した事例や教材をこの4つの観点から以下の順序で、分析していく。



教材分析する際は、

- ①どのような単元の理解事項の獲得が必要か。
- ②単元の理解事項を獲得するためには、どのような調べる事項が必要か。
- ③そのためにはどのような思考が必要か。
- ④調べる事項について調べるためにどのような見方・考え方を働かすか。
- ⑤見方・考え方を働かせて調べる際には、どのような資料が必要となるか。

上記のように教材分析をした結果を活用して、子供の学びのプロセスに即して下図のように単元を構想していくことで、学習指導要領の趣旨を適切に実施していくことができると考えた。その際、子供の主体的な学びを想定したり、社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動を想定したりすることで、その後作成する単元指導計画・評価計画がより確かなものにすることができると考えた。

学習指導案の単元の構想図

学習過程	問 い		見方・考え方		資 料・活 動	獲得する知識
つかむ	学習問題をつかむための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	単元の学習問題 「○○○○○○○○○○○○○○○○○○」					
しらべる	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	調べるための問い	←	着目する視点	→	資 料	調べる事項
	特色や意味を考えるための問い	←	考える方法	→	活 動	単元の理解事項
まとめる (つなぐ)	(発展を考えるための問い)		着目する視点		活 動	社会的態度
	(関わり方を考えるための問い)		考える方法			
単元を通して育成したい「社会とつながり未来を創る子供」の姿						

2 主体的に問いを追究する工夫

中教審答申において、「学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる主体的な学び」と説明している。社会科においては、次の4点に集約できる。

- 社会的事象に対する疑問をもち、関心を高め、問題意識をもつこと。
- 学習問題を予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決への見通しをもつこと。
- 学習したことを振り返り、自分の学びや変容を自覚したり、学習成果を吟味したり、新たな問いを見いだしたりすること。

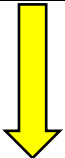
○学んだことを基に、自らの生活を見つめたり、社会生活に向けて生かしたりしようとする事。

(1) 「問い」の構成

問題解決の段階や学習活動に応じて「問い」を吟味していくことが大切である。本校では、「つかむ・調べる・まとめる・つなぐ」という学習過程で授業展開を構想している。

「問い」は、学習問題を中心に、「学習問題を把握する問い」、学習問題や学習計画に即して「事実を追究し捉える問い」、社会的事象の「特色や意味を考える問い」、学んだことを基に「社会との関わり方考える問い」などの役割を意識しながら、【見方・考え方＝視点や方法】を児童が働かすことができるような「問い」を以下のように構成することが、主体的に問いを追究する子供を育てることにつながる。

(3年「地域に見られる販売の仕事」の例)

社会と出会う問い	私たちは、どこでどのような物を買っているのだろう。 【消費者の願い】 【商店の分布】
単元の学習問題	A店にたくさんの人が買い物に来るひみつは何だろう？
 事実を追究し捉える問い	A店ではどのような売り方の工夫をしているのだろう。 【販売の仕方】
	A店ではたくさんの人に来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。 【販売の仕方】
	A店の商品はどこから来ているのだろう。 【他地域や外国との関わり】
特色や意味を考える問い	A店の人気のひみつは何だろう。種類ごとに分けて考えよう。 【分類する】 お店の人の工夫は買い物客の願いとどうつながっているのだろう。 【関連付ける】 A店以外のスーパーでも同じような工夫をしているのだろう。 【比較する】
社会との関わりを考える問い	お店のよさを買い物する人にどう伝えとよいのだろう。 【総合する】 私たちはどのように買い物をしていくとよいのだろう。 【生活との関連】

(2) 社会との出合いを工夫し、問題意識をもつ

学習問題とは、社会的事象との出合いから生まれた児童の問題意識や追究意欲を継続させ、学習を方向付け、社会生活についての理解を深め、単元の目標に迫る学習の問題である。このように追究された学習問題は次のような条件をもっている必要がある。

- ①「この勉強をすることはおもしろそうだ」と興味・関心を高めるもの。
- ②「この問題を解決することは価値あることだ」「必要なことだ」と切実感をもつようなもの。
- ③子供たち自身によって解決への見通しがもてるようなもの。
- ④学習も目標に方向付けられている（追究することで目標が達成できる）もの。
- ⑤子供の力で学習問題について調べることができるもの。

社会的事象と出合い、問題意識を高め、学習問題をつかむ様々な資料提示のパターンを以下の図にすることが主体的に問いを追究する子供を育てることにつながる。

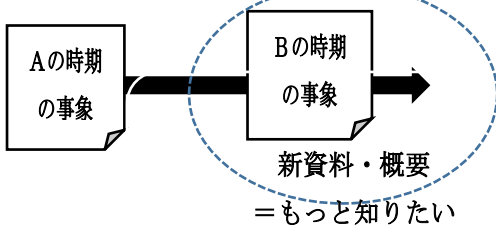
ブラックボックス型

資料Aと資料Bとの間にある謎を活かす。AとBの変化に着目し、「その間に何ががあったのか」という疑問をもたせる。



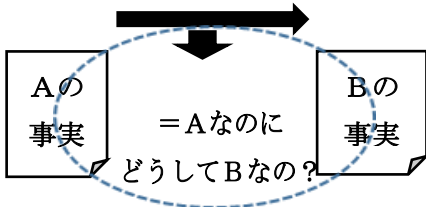
時間経過型

既習の資料Aから時間が経過した新資料Bを簡単に（概要）を提示する。「新資料Bの社会がどんな様子だったのか」より詳しく知りたいと切実感をもたせる。



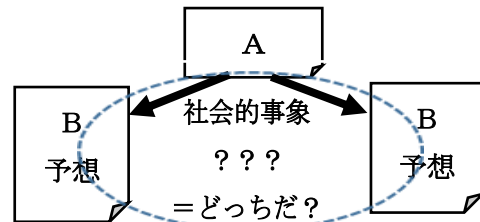
矛盾型

資料Aと資料Bとの間にある矛盾を活かす。「AであるのにどうしてBなのか?」という問題意識をもたせる。



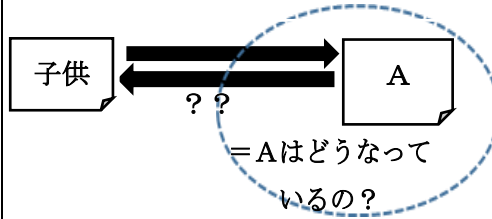
予想対立型

学習問題は一般的には、多様な予想が生まれるほうがよい。ただし、このタイプの場合は、予想があまり多岐にわたらないような資料の方がよい。



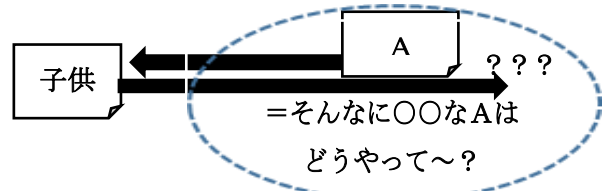
子供の常識と異なる型

子供や世間の一般常識とはかけ離れて、説明がつかないような資料Aを提示する。「Aは一体どうなっているの?」という問題意識をもたせる。



圧倒驚き型

子供が予想するよりはるかに〇〇な資料Aを提示する。〇〇には、圧倒的に大きい、少ないなどの具体物や数量の提示が効果的。「そんなに〇〇なAはどうやって〜?」という疑問をもたせる。

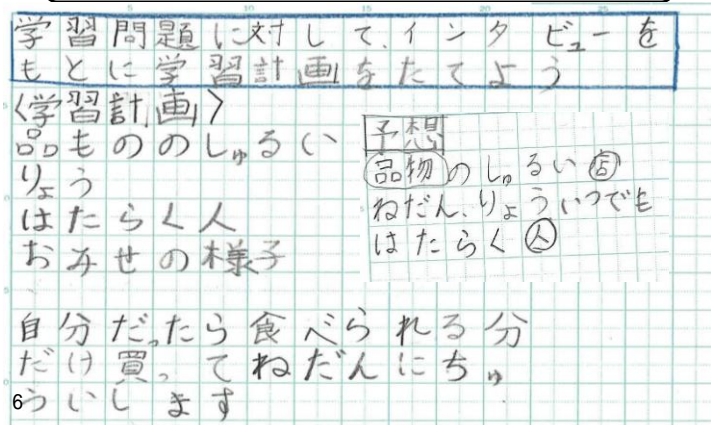
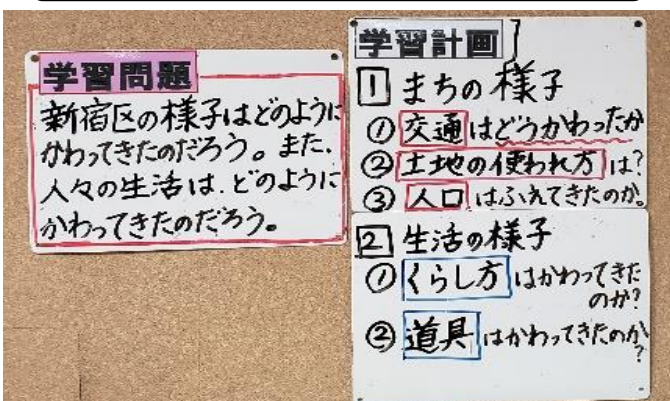


(3) 見通しをもち、学習計画を立てる

設定した学習問題解決の為に何を調べるのか話し合い、学習計画を立てて見通しをもつ工夫や学習計画を見直したり調整したりする工夫をすることが、主体的に問いを追究する子供を育てることにつながる。

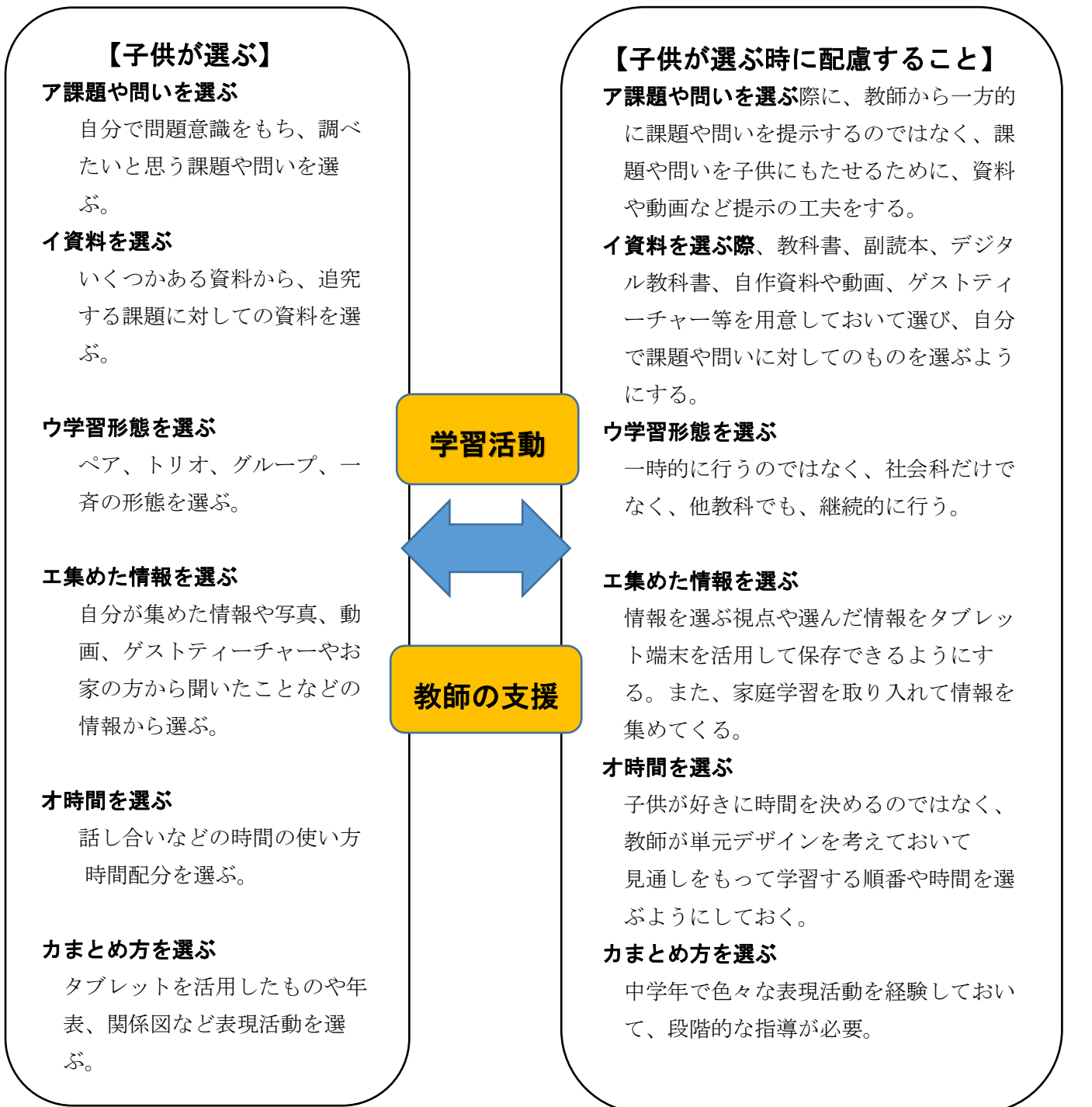
教室の常時掲示ボードを教室掲示する

子供が見通しをもち学習計画をノートに書く



(4) 子供が自分で選んで学習をする

子供が問いを主体的に追究するためには、問題意識をもち、学習問題の追究・解決への見通しをもつことに加えて、子供自身が方法を工夫して仲間と協働して、問題解決を粘り強く進めていくことが求められる。そのためには、教師に敷かれた追究の道筋の上を歩くのではなく、自分たちの経験を生かして、解決に向けて問いや資料、学習方法などを選び、粘り強く取り組む経験を重ねていくことが大切である。



【学級経営】

- 話し方や聞き方
- ノート of 書き方
- タブレットPCの使い方
- 教科書や副読本、資料などの使い方

- 発表の仕方
- 質問の仕方
- グループの話し合いの進め方
- 学級での討論の進め方

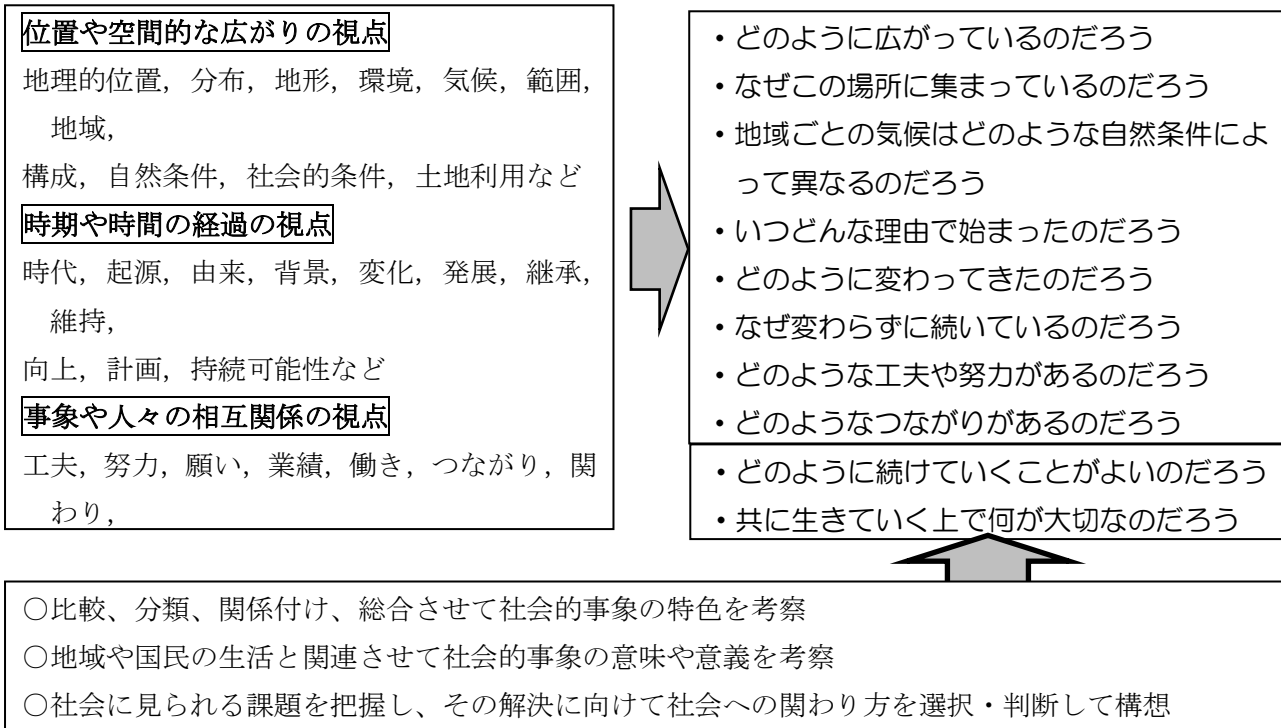
(5) 友達と協働的に学ぶ

社会的事象の見方・考え方を働かせるためには、一人の見方・考え方で結論を導くのではなく、集団思考が働く協働的な学習活動を通して理解を深めていきたい。本校では、学習過程に即して以下のように整理していく。

学習過程における協働的な学習場面		協働的な学習活動の例
つかむ	○思いや疑問、調べたいことを表出し合い共有する場面	◆ <u>ペア（二人）で話し合う。</u> ・短時間で、疑問に思ったことや気付いたこと、考えたことや感想をお互いに言葉やノートなどで紹介し合う。
調べる	○気付いたことや調べたことを共有する場面 ○比較や関連付けて特色や意味を考え合う場面	◆ <u>グループ（4人程度）で話し合う。</u> ・問いについて、分かったことや考えたことなどを紹介し合い、思考ツールやホワイトボード、付箋などを活用して、比較・分類・関連付けなどして情報を整理して考えを深めたり広げたりする。 ・ホワイトボードや短冊などを活用して話し合ったことを関連付けたり総合したりして文章などにまとめていく。
まとめる	○まとめた作品や文等を使って考えたことを説明し合う場面 ○新たな問いについて話し合い考えを深める場面	◆ <u>学級全体で話し合う。</u> ・立場を明確にしたり友だちの発言とつなげたり、資料やICTを活用して視覚的に伝え合ったりして話し合う。
つなぐ	○学んだことを活用して社会の発展や自分の関わり方について話し合う場面	◆ <u>社会生活を営む人と対話的に学ぶ</u> ・直接聞き取りしたり手紙やメールで質問したりする。

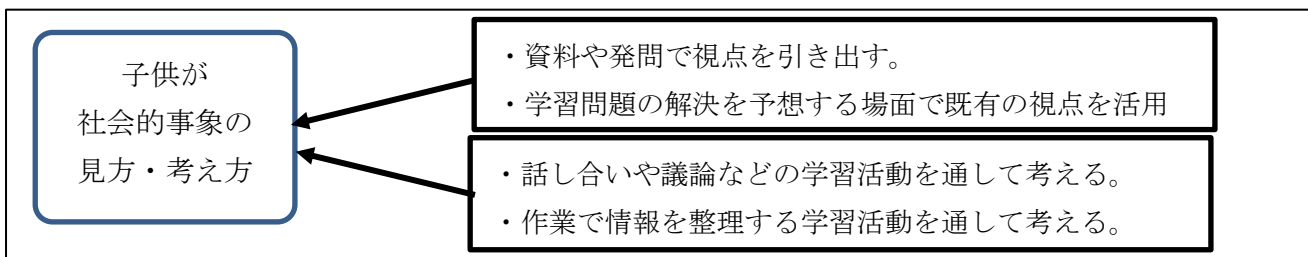
3 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

① 3つの大きな視点と考え方



② 子供が見方・考えを働かせる学習活動

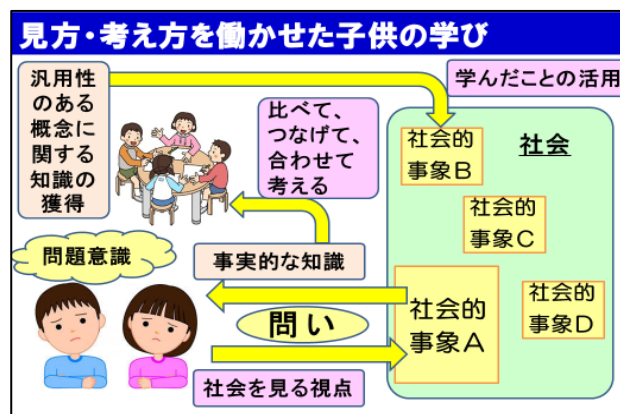
このような社会的事象の見方・考え方は、資料を活用したり学習活動を通したりして、子供が自然と働かせていくものであり、教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計資料など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切である。



③見方・考え方が働く主な学習場面

見方・考え方を働かせた子供の学びを図式化すると、右図のようになる。児童の学びの中で見方・考え方が発揮されやすいのは次の3つの場面だと考えられる。

- 社会的事象に対して社会を見る視点に着目して問いを追究する場面
- 問いを追究する中でつかんだ事実に知識を比べたり、つなげたり、合わせたりして、社会的事象の特色や意味を考え、概念に関する知識を獲得する場面
- 獲得した知識や概念など学んだことを活用して社会生活を見直したり、他の社会的事象を見たりしていく場面



4 子どもの学びを確かにする評価

(1) 学習過程における評価場面を設定する

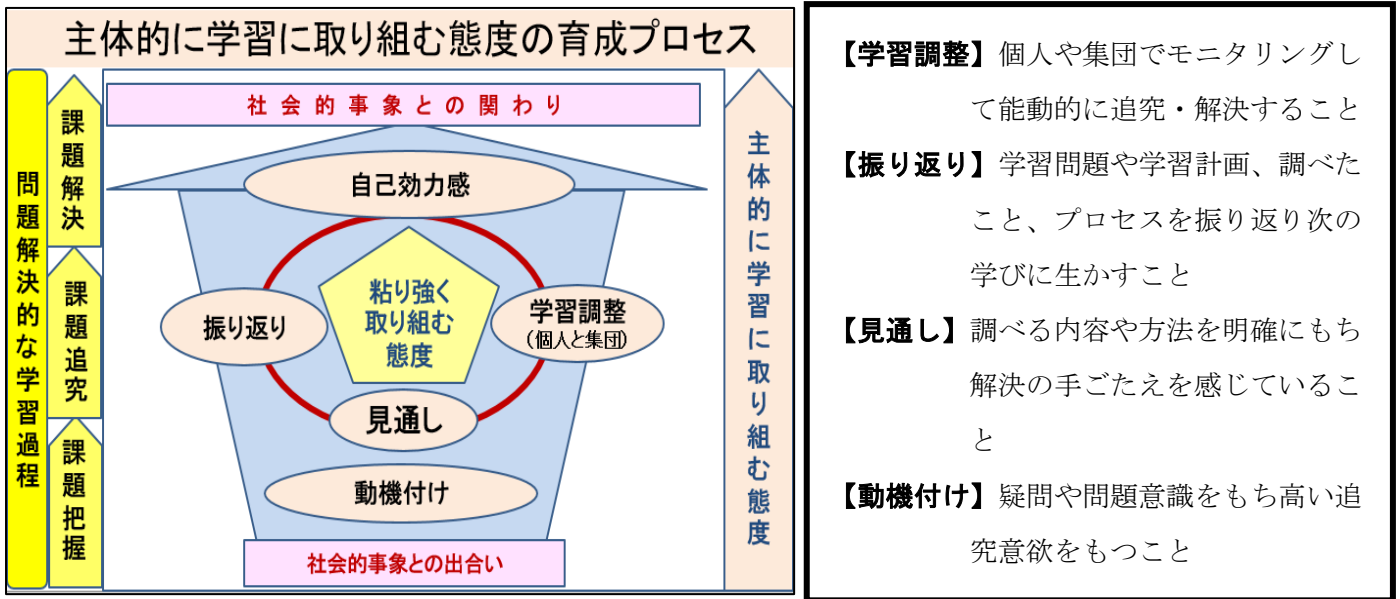
評価の目的の一つは指導に生かすことにある。一方、指導した結果として児童の学習状況を記録に残し、総合的に評価して通知表や指導要録に記載する必要がある。下図のゴシックの観点が記録に残す評価であり、まとめる段階での表現活動が重要である。単元によっては、調べる段階の単元展開によって主体的に学習に取り組む態度①の評価場面が設定されることがなかったり、「いかす段階」がない場合には、主体的に学習に取り組む態度②の評価場面がなかったりすることがある。

	評価規準の観点	評価方法の工夫と指導上の留意点
つかむ	思考・判断・表現 ①	○評価活動：社会的な事象との出会いから見出した疑問や問いを記述する活動 ・留意点：事実に基づいて疑問を記述できるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度①	○評価活動：学習問題の解決を予想したり学習計画を立てたりする活動 ・留意点：調べることや方法の見通しをもてるようにする。
調べる	思考・判断・表現 ①	○評価活動：問いについて考えたことを記述する活動 ・留意点：比較・分類・関連付けして考えられるようにする。
	知識や技能①	○評価活動：見学・調査して読み取った情報を記述する活動 ・留意点：社会的な事象の様子が具体的に捉えられるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度①	○評価活動：学習問題の解決に向かっていくか学習の進め方を振り返る活動 ・留意点：学習計画の実現状況や学習問題の解決ができそうか判断を促す。
まとめる・つなぐ	知識や技能②	○評価活動：調べたことを整理して分かったことを記述する活動 ・留意点：まとめる活動を通して理解目標について到達できるようにする。
	思考・判断・表現 ②	○評価活動：整理したことから学習問題の結果を考察する活動 ・留意点：比較・分類・関連付けして考えられるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度②	○評価活動：社会の発展や自分の関わり方を考える活動 ・留意点：学んだことを基に考えて表現できるようにする。

(2) 発達段階に応じた学び方カードの作成と活用

主体的な学習に取り組む態度は、問題解決的な学習の過程に即して次の図のようなサイクルの中で育成されていくものと捉えている。図の中で使用する用語の意味は次のように考えた。

【主体的に学習に取り組む態度のイメージ図】



- 【学習調整】** 個人や集団でモニタリングして能動的に追究・解決すること
- 【振り返り】** 学習問題や学習計画、調べたこと、プロセスを振り返り次の学びに生かすこと
- 【見通し】** 調べる内容や方法を明確にもち解決の手ごたえを感じていること
- 【動機付け】** 疑問や問題意識をもち高い追究意欲をもつこと

児童が学習を振り返ったり見直したりする姿を振り返る項目として問題解決の学習過程に即して整理して作成したものが下図「社会科学び方カード」である。

【主体的に問題解決に必要な学び方を明記する】

身に付けたい学び方を明記することで、児童が問題解決の過程や望ましいと考える学習の進め方を意識することができる。

【学び方の自覚を促す】

学習を進める途中で項目が達成できたら○印、もっとよくできたら◎印をする。マークを記入することで、項目を手掛かりに自己の学びをモニタリングする。

社会科学び方カード 学年 () 5年組 番 ()

身に付けたい学び方	学習マーク	ふりかえり
気付いたことや疑問・調べたいことを考えられた。		
気付いたことや疑問を話し合っ、みんなで学習問題をつくった。		
予想をもとに学習計画を立てて、これから調べる見通しがもてた。		
学習計画とてらし合わせて、調べることをはっきりさせて調べた。ねばり強く調べた。		
資料の大切なところに気を付けて読み取れた。大切なことや人や出来事の関係が分かるようにノートに書いた。調べたことを友だちと話し合い、確かめ合うことができた。		
キーワードや「つまり」や「例えば」という言葉をうまく使って、学習問題を解決することができた。		
学んだことを次の学習や生活に生かすことができそう！または、生かしていきたい！		
【今回の自分の学習の進め方はどうだったかな。～自分がとくにがんばったことやできるようになったことをふりかえろう！】		

【振り返り場面の焦点化】

毎時の終末に本時の問いについてのまとめと学習の振り返りを記入する時間を確保することは難しいことから、「つかむ、調べる、まとめる」の各段階の終了後と単元を総括して振り返りを記入していく。

【学びの成果を次の単元につなげる】

単元全体の学習を振り返って自由に記述する。できるようになったことや、次の学びに生かせることに目を向けさせていく。

3年「新宿区の様子」学び方カード

～できたかどうか、記号でふり返ろう～ ○できた・もちよっとできそう ◎ちっとできるようになった △うまくできなかった		ふり返ろう・いかそう	
つかむ	?(はてな)を見つけて、みんなで話し合っ て学習問題をつくることができたかな。	○	学習問題をつくるのができた。
	予そをたてたり、学習計画をたてたりする ことができたかな。	△	予そをたてたりすることができた。
しらべる	学習計画とてらし合わせて調べていくことが できたかな。	○	学習計画とてらし合わせて調べていくことができた。
	自分で見てさがしたり、人に問いたり、し料で さがしたりして調べることができたかな。	◎	自分で見てさがしたり、人に問いたり、し料でさがしたりして調べることができた。
	調べたことを友だちと話し合い、たしかめ合 うことはできたかな。	◎	調べたことを友だちと話し合い、たしかめ合うことができた。
まとめる・いかす	はじめにつくった学習問題をかいけつするこ とができたかな。	◎	はじめにつくった学習問題をかいけつすることができた。
	学んだことを次の学習や生活に生かせそう! 生かしていきたい!	◎	学んだことを次の学習や生活に生かせそう! 生かしていきたい!

【今回の自分の学習の進め方はどうだったかな。】単元を通して自分がとくにがんばったこと・できるようになったこと・学んでよかったこと・役に立つと思ったこと など

地図をみると新宿区はサイのえうな形をしていることに気がついた。
し料や地図をみて新宿区をのりかると本でし料するときは新宿区
ののりかえの地いさをしらべてみた。

新宿区には公共施設がたくさんある。
ところがあるが地図をのりかるとし料するときは新宿区
ののりかえの地いさをしらべてみた。

地区やのりかえの地いさをしらべてみた。

地区やのりかえの地いさをしらべてみた。

(3) まとめをイメージした表現活動での子供の姿を想定する

「指導と評価の一体化」と言われるように、評価の目的の一つは指導に生かすことにある。一方、指導した結果として児童の学習状況を記録に残し、総括的に評価して通知表や指導要録に記載する必要がある。まとめる段階での表現活動も重要である。記録に残す評価場面での学習活動の工夫を教師が意識して、単元をデザインしていく必要がある。またGIGAスクールにより、タブレット端末を活用した表現活動も実践していく。

学習問題
私たちが出したごみは、だれがどのようにして処理しているのだろう

予想・学習計画

- ごみの収集はどのように行われているのだろう
- 燃やすごみはどのように処理されるのだろう
- 燃やさないごみや粗大ごみはどのように処理されるのだろう
- 資源はどのように再利用されるのだろう
- うめ立て処分場ではどのようにごみを処理しているのだろう
- ごみ処理の仕方はどのように変わってきたのだろう

まとめ
どうしてこんなにたくさんの人でごみの処理をしているのだろう

つながる
地域では、ごみを減らすためにどのようなことに取り組んでいるのだろう
ごみを減らすために、私たちはどのようなことに協力していくとよいだろう

【関係図を基に考えたこと】
清掃工場のない新宿区は他の区と協力してごみを燃やしてもらっていた。私たちの健康と安全を守るために区をこえて大勢の人たちが協力して計画的にごみを処理している。

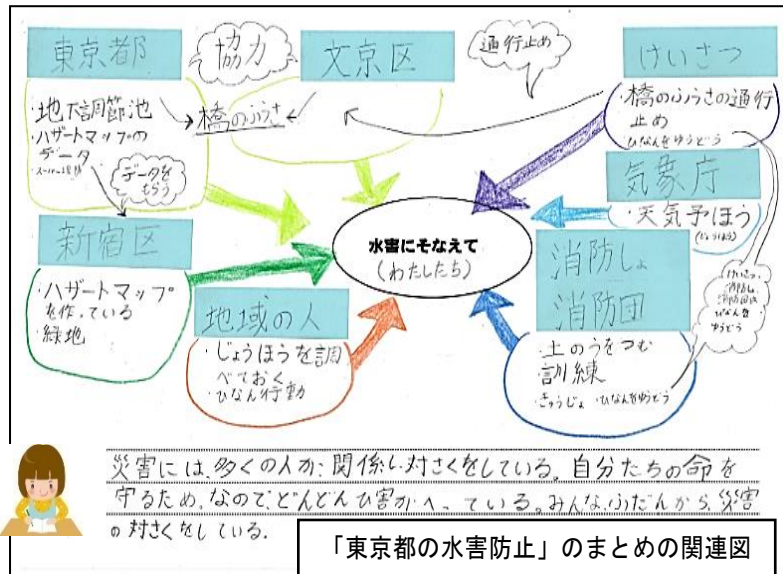
(4) 表現活動を通じた学習評価の実際

一つの作品でも複数の観点で評価することがある。一つの評価規準に対して評価する学習活動を必ず一つ設定し、どのようなことができればよいか具体的な評価方法を用意する。なお、主体的に学習に取り組む態度②は、選択・判断や発展を考える場面が設定される単元で重点的に評価する。

具体的事例として、第4学年「東京都の水害防止」のまとめの段階といかず段階で見えていく。

まず、まとめる段階では、3つの学習活動を通して関連図を作成していく。

- 水害から生活を守るための様々な立場の人の取組について調べたことを関連図に整理する。
- 関係図に整理した取組の相互の関連についての説明を関連図に追記する。
- 学習問題について関連図から分かったことを自分の言葉で文章にまとめる。



←技能②(記録)

調べたことを関連図に整理する活動を通して、情報をまとめる技能を発揮できているかどうかを作品や活動の様子から評価する。Bに満たない評価の児童には、例えば、友達の間連図を紹介し作成するよう助言する。

←思考力・判断力・表現力等②(記録)

調べて整理しことを矢印でつなげることを通して、どのような関連を考えて表現しているかを評価する。Bに満たない評価の児童には、例えば、ノートを見直しつつ繋がっていることに着目するよう助言する。

←知識②(記録)

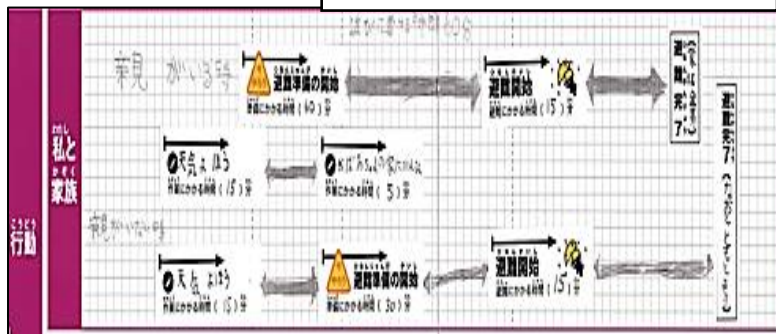
関連図のまとめの文から、様々な立場の人が協力して対策していることを理解できているかを評価する。Bに満たない評価の児童には、それぞれの取組の目的を考えるように助言

活用
して

次に、いかず段階では学習したことを基に東京マイタイム・ラインを作成する。

- 神田川が氾濫したことを想定して東京マイタイム・ラインを作成する。

「東京マイタイム・ライン」の行動計



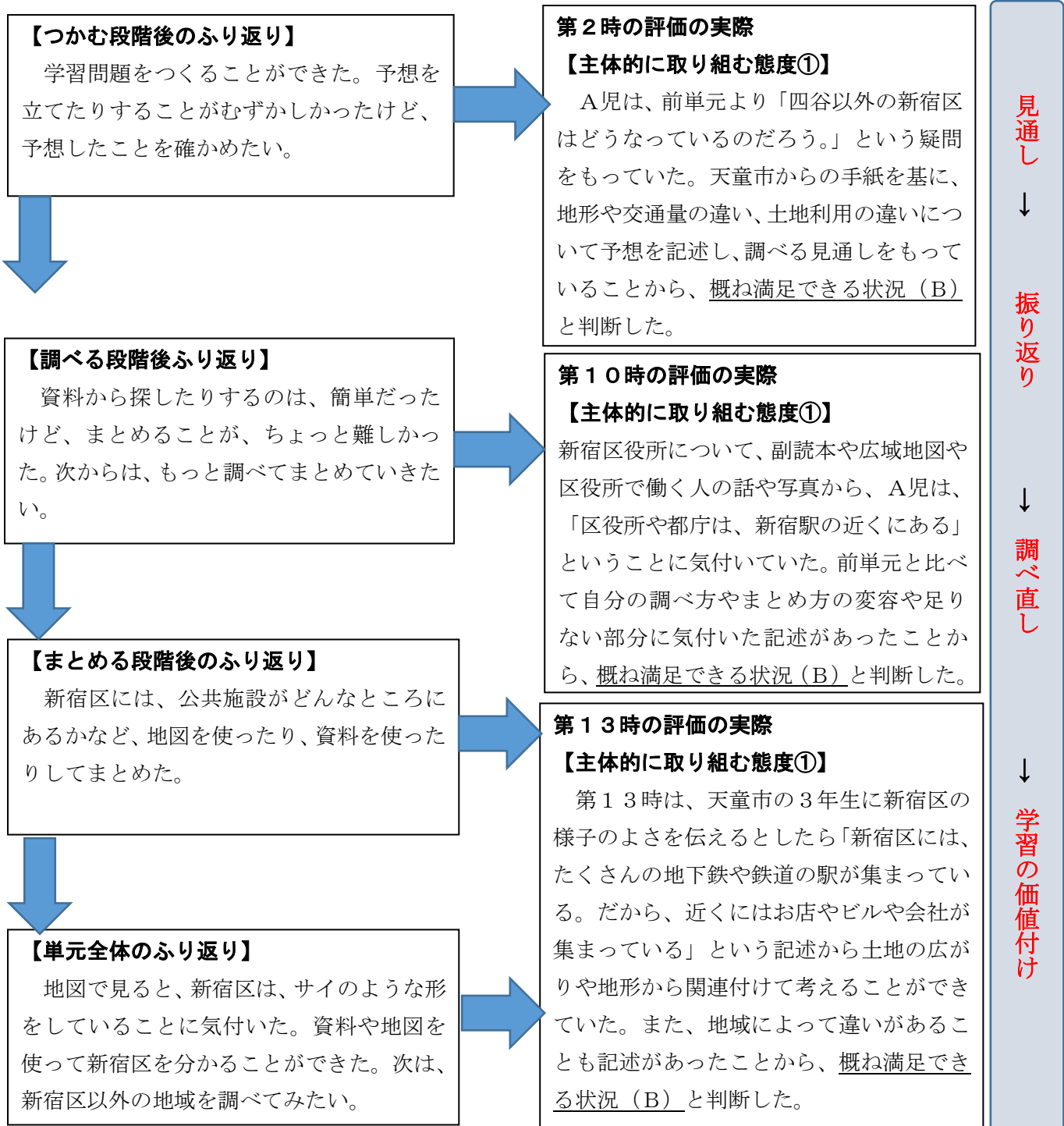
←思考力・判断力・表現力等②

学習したことをもとにして、時間の経過ごとに、すべきことを考え表現しているかを評価する。Bに満たない評価の児童には、例えば、学習したことを根拠に東京マイタイム・ラインをつくるよう助言する。

←主体的に学習に取り組む態度②(記録)

自分の安全と社会の人々の取組をつなげ、どのようなことをすべきか判断しているかを評価する。Bに満たない評価の児童には、自分の行動の社会的意味を考えるよう助言する。

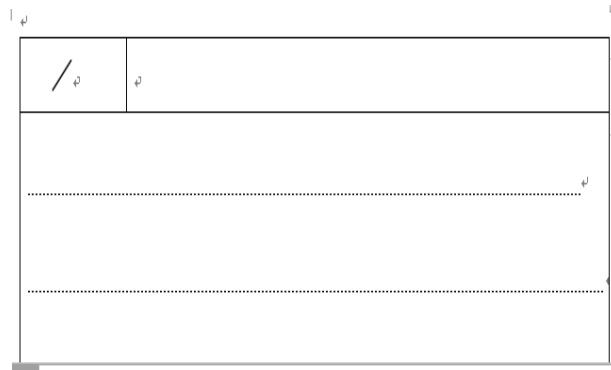
(5) 児童の振り返りの記述の評価の実際



1年
「なつがやってきた」ふり返しカード



2年
「まちたんけん」ふり返しカード



【出会う】

チームでお話をつくるのが楽しみです。
色水を作るのを楽しみにしています。
色水をれいぞうこに入れて、どうなっている
のか楽しみです。



【かかわる】

あきようきを上むきにして、水を出してみ
たいです。あきようきにあなをあけてやっ
てみたい。水てっぽうをしたいな。
水たまりを作りたいな。



【広げる】

水てっぽうをやってみたい。お話をもう少
しもってきて、いろいろな色を作りたいで
す。

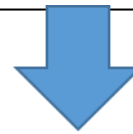
【出会う】

コモレの中のサッカーじょうに行ってみ
たいです。ケンタッキーのおもちゃを見
てみたいです。



【かかわる】

ZOOのすてきは、店員さんが、毎日ペッ
トを育てているところです。友だちのすて
きは、自分よりくわしくおしえてくれると
ころです。



【広げる】

たとえば「たいやきわかば」とかです。た
いやきわかばは中のいろいろを教えてくれ
ました。コモレのサッカーじょうに行きた
いです。

願い→活動→振り返り→気づき→願いの活動サイクル

5 四谷スタイル「自分発—みんな経由—自分行き」の1単位時間の授業構成

深い学びは単元を通して実現していくものだが、1時間ごとの学びの積み重ねの上に深い学びも実現する。本校では、下図のような1時間に協働的な学習時間を組み込んだ授業構成を基本としている。

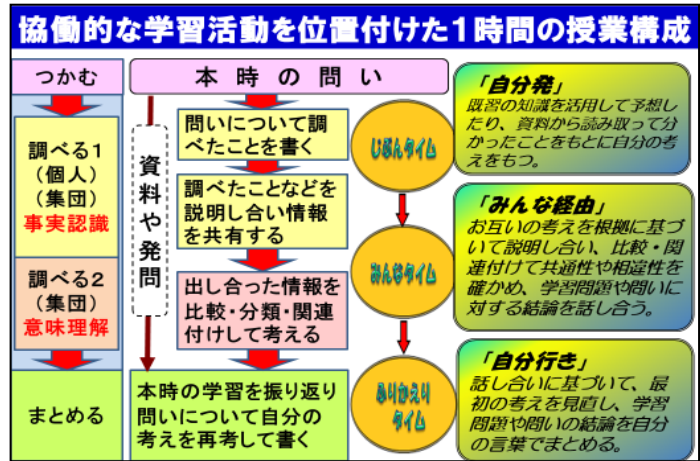
課題把握 (つかむ) 本時の問いを把握

じぶんタイム (調べる1) 自分で調べる

みんなタイム (調べる1) 調べたことを共有
(調べる2) 比較・分類・関連付けて考える

ふりかえりタイム (まとめる) 考えをまとめる

みんなタイムでは、調べた事実を確かめる時間から特色や意味を考える時間へと学習内容の深まりを保証し、ふりかえりタイムでは、本時の問いのまとめと学び方を振り返る。



このような四谷スタイルの授業をつくるための手だてを出し合い下のように整理した。

四谷スタイルの授業づくりを実現するための「四つのや」

	主な学習活動	教師の問いかけ		
つかむ	○その時間のめあてや問いを明確にし、追究の見通しをもつ。	T 今日は何を学習しますか？ T 学習計画で確かめよう。 T 前時の振り返りを見よう。	1の矢 見通しをもつ 本時の問いやめあてを明確に意識できる指導	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を高める導入 問いを生む資料の工夫 ICTの活用 課題設定、学習計画 発問
じぶんタイム	○疑問や予想をノートや短冊などに記述する。 ○問いについて調べたことをノートなどに記述する。 ○問いに対して考えたことを記述する。	T 疑問や予想をノートにできるだけたくさん書こう。 T 資料で大事なところに下線や丸印をつけよう。 T 分かったことをノートに簡条書きで書こう。 T 考えたことを書き、理由や根拠を用意しよう。		
みんなタイム	○一人一人の疑問や予想を出し合ってグループや学級で共有する。 ○調べたことや考えたことをグループや学級で話し合って共有し、ノートなどに追記する。 ○疑問を分類・関連付けて学習問題を設定する。 ○予想を分類して学習計画について話し合う。 ○調べて分かったことを比較・分類関連付けて特色や意味を考えて話し合う。	T グループで出し合ってホワイトボードに書きそう。 T 学級で出し合あって書いていないことをノートに書きたそう。 T タブレットPCでみんなの意見を確かめてみよう。 T 板書の中で問いの解決に大切なことに下線を引こう。 T 出された意見を比べて仲間分けしてみよう。 T 出された意見を線や矢印でつないで考えよう。 T 大事なことをキーワードにまとめてみよう。	3の矢 友達と学ぶ 調べたことや考えたことを共有し、協働的に考えを広め深め合う指導	<ul style="list-style-type: none"> 学びが見える板書掲示 ペア学習やグループ学習 思考ツールの活用 ICTの効果的な活用 発問や問い返し 教師の個別支援
ふりかえりタイム	○学習したことを振り返り、問いについて自分の言葉でまとめる。 ○自分の学習の進め方を振り返り、次の時間に向けてのめあてを記述する。	T 板書を見て大事なことは何か考えてみよう。 T 問いについての結論を自分の言葉でノートに書こう。 T 今日の学習を振り返り、よくできたと思うことを学び方カードに記入しよう。		

学びの基本 (授業を支える土台)

- 話し方 ○聞き方 ○ノートの書き方 ○一人学習の仕方 ○グループ学習の仕方
○発表の仕方 ○質問の仕方 ○話合いの仕方 など

Ⅲ 生活科の授業づくり

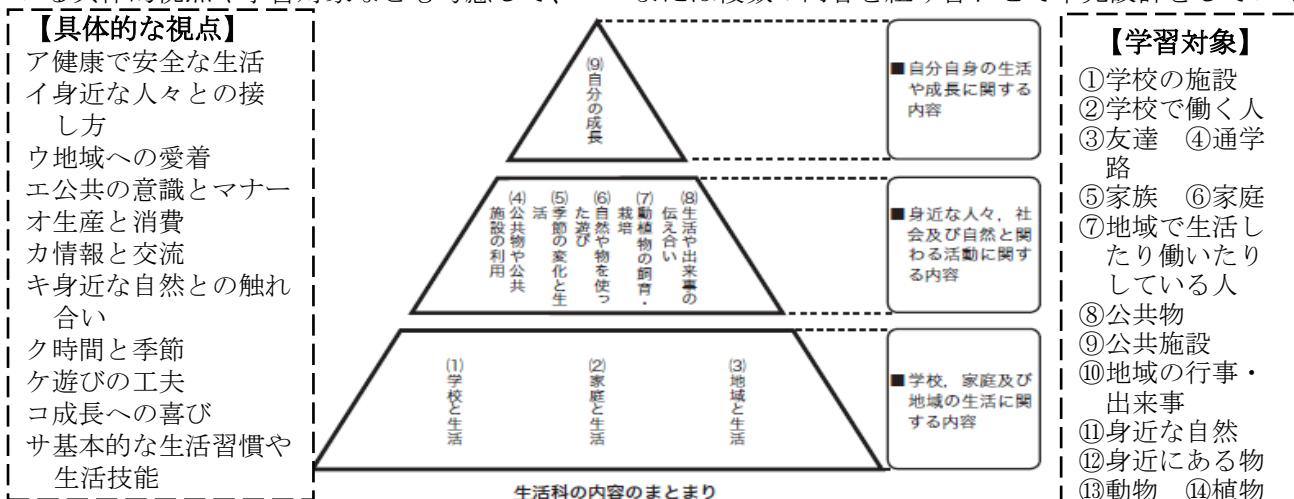
1 生活科の目標と特質

生活科の目標は以下のような構造となっている。本校では、「幼児期に育てたい10の姿」と生活科の特質を踏まえて次のように低学年生活科で育てたい子ども像を設定している。



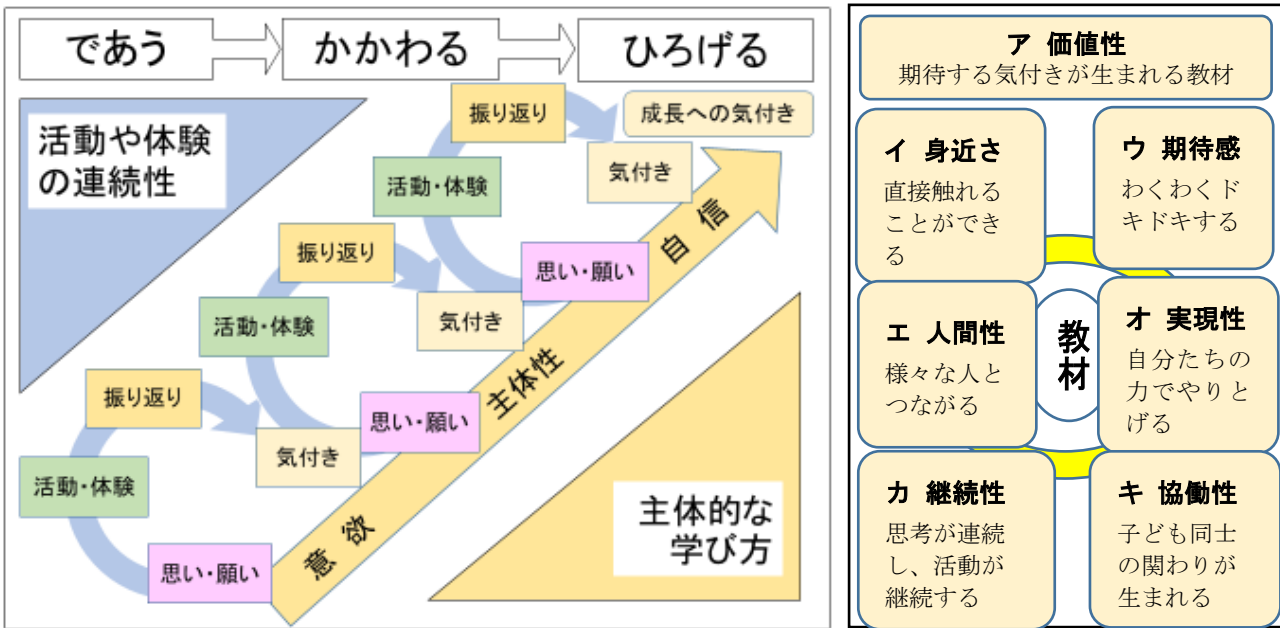
2 生活科の内容構成

生活科の内容は9つの内容があり、大きく3つの階層に整理されている。本校では、解説に示されている具体的な視点や学習対象なども考慮して、一つまたは複数の内容を組み合わせて単元設計をしていく。



3 生活科の単元展開のイメージ

生活科では、下図のような「①思いや願いをもつ、②活動や体験をして感じ考える、④学びを振り返る、⑤気づきを表現し交流する、⑥新たな思いや願いをもつ」というプロセスが繰り返され、学習が展開していく。本校では、学習過程を「**であう**→**かかわる**→**ひろげる**」として、社会科の問題解決的な学習過程との接続を意識している。また、このように活動が連続し、主体的な学びを展開するために、下のような7つの教材化の視点を持ち、身近な教材の開発と活動や体験の工夫を進めている。

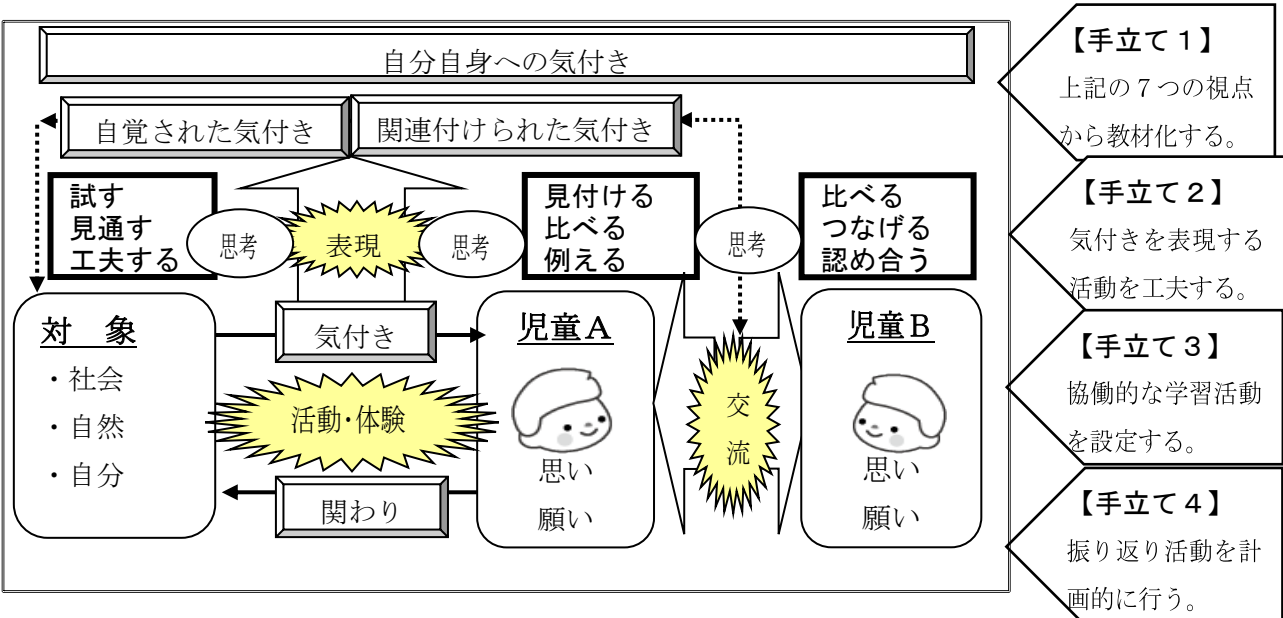


4 気づきの質を高める

生活科での気づきは、一人一人の認識であるのに対して、社会科での知識は、社会的事象に基づいた事実に客観的な認識である。深い学びを実現するためには気づきの質が高まることが重要であると考えた。

生活科における気づき	社会科における知識
対象に対する一人一人の認識であり、子どもの主体的な活動によって生まれるものである。知的な側面と情意的な側面があり、次の自発的な活動を誘発するものでもある。 ①「無自覚な気づき」から「自覚された気づき」へ ②「一つ一つの気づき」から「関連付けられた気づき」へ ③「対象への気づき」から「自分自身への気づき」へ	知識は、地域や我が国の地理的環境、地域や我が国の歴史や伝統と文化、現代社会の仕組みや働きを通して、社会生活についての総合的な理解を図るためのものである。 ○「具体的知識」から「概念的知識」へ

本校では気づきの質が高まる学習のイメージを下図のように描いている。気づきを表現する際に、「見付ける・比べる・例える・試す・見通す・工夫する」という6つの考える方法を意識して表現活動をしたり、他の児童とも気づきを交流したりして気づきの質を高めていく。4つの手だてから授業実践を行う。



V 各分科会研究の内容

(1) 研究主題に迫るために、今年度は、3つの研究内容の柱を通して実践研究に取り組んでいく。

	研究内容①	研究内容②	研究内容③
生活科	<p>主体的に学ぶ問い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象に直接働きかける活動を重視する。 (見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど) ○活動の楽しさや気付きなどを多様な方法によって表現する場を設定する。 (言葉、絵、動作、劇化など) 	<p>見方・考え方を生かす学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視点に着目して考える学習活動を工夫する。 (様々な関わり、気付きの共有) 	<p>学びを確かにする評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長を実感できる振り返り活動を繰り返し設定する。 (できることや活動の範囲の広がりの実感)
社会 (中学年)	<p>主体的に問いを追究する工夫に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の問いをうむ資料の選定や吟味をする。 ○児童が自ら調べるための学習計画の見通しを工夫する。 (教師側が児童のゴールをイメージしておく) 	<p>見方・考え方が働く学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人から学び、調べる学習活動の工夫をする。 ○自分の考えを伝え、友達と共に考えを伝えるみんなタイムの充実を図る。 	<p>子供の学びを確かにする評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な表現活動に取り組み、学びにつながる評価の工夫をする。 ○学び方カードをもとに学習計画を振り返り、自分の学びを振り返る。
社会 (高学年)	<p>主体的に問いを追究する工夫に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人々の気持ちに共感できる資料を活用する。 ○ねらいを達成するために意図的な資料を作成する。 ○単元構想図を作成する。 	<p>見方・考え方が働く学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な見方のできる資料を組み合わせることによって、複数の見方・考え方を働かせられるようにする。 ○単元構想図で必要な学習活動を計画的に位置付けていく。 ○単元構想図で必要に応じて「生かす」を設定する。 	<p>子供の学びを確かにする評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学び方カード」を活用し、子供が自分の学びを振り返ることができるようにする。また、子供の学習の様子を把握し、指導に生かしていく。 ○学習を振り返る活動を繰り返すことで、次の学びに生かせるようにする。



社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して

社会とつながり未来を創る子供の育成

(2) 専科部会の取組について

専科部会では、生活科・社会科の基礎的な知識の定着を図る掲示物の作成を進めた。



四谷のまち (江戸～現在)



時代とともに変わる四谷のまち

Ⅱ一① 低学年分科会の実践

第1学年 生活科学学習指導案

令和3年9月22日
1年4組 28名
授業者 大木 雅也

1 単元名 「なつが やってきた」(8時間)

小単元名 「みずであそぼう」(6時間)

2 小単元の目標と観点別評価基準

(1) 小単元の目標

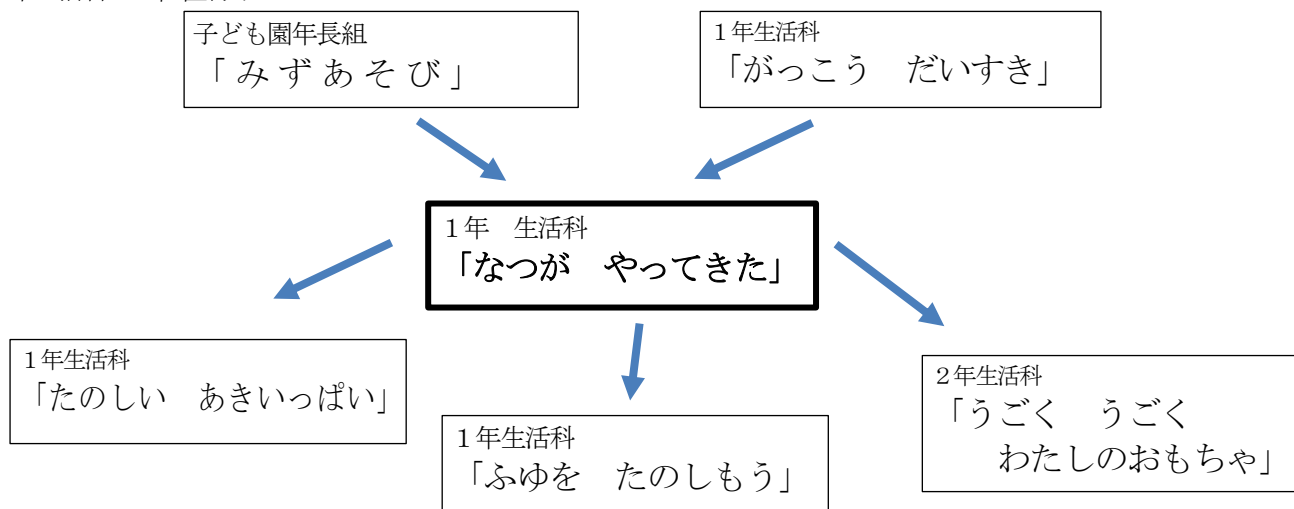
身近な自然である水を使った遊びや遊びに使う物を工夫して作りながら、その面白さや不思議さに気付き、友達と遊びを楽しむことができる。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びを創り出すことの面白さに気付いている。	・これまでの経験から、自分のおもちゃの動きや遊び方を想像し、いろいろな遊びを工夫して楽しんでいる。	・夏の自然と関わりたいという思いを持ち、いろいろな遊びを繰り返し、夏の自然を楽しもうとしている。

3 単元について

低学年生活科との位置付け



(2) 本単元の教材について

本小単元は、単元「なつがやってきた」の小単元「みずであそぼう」として構成されたものであり、学習指導要領(6)を受け、設定している。身近な自然である水に直接触れたり、身近にある物を使ったりして遊びを工夫してつくり出す楽しさや友達と関わって遊ぶ楽しさを十分に味わわせることをねらいとした単元である。遊びの活動を通し、その面白さや自然の不思議さに気付き、遊び方や遊びに使う物を工夫してつくる経験を繰り返すことで、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうと活動を深めたり、広げたりしていくことができると考える。試行錯誤しながら十分に遊ばせることで、自分のやってみたいという思いや願いを実現しようとする活動に広がっていくと考える。

身近な自然として夏という季節にふさわしい水を取り上げる。水遊びに限定することで追究する要素が絞られ、気づきの共有化が図りやすいと考える。生活科では、児童が入学して初めての物作りの活動になる。この試行錯誤する活動を経験することで、2学期後半の「たのしい あき いっぱい」のおもちゃ作りに生かされると考える。

(3) 児童の実態

本学級の児童は、外で遊ぶことや、はさみやのりを使って物を作る活動が大好きである。休み時間はやりたい遊びに積極的に参加したり、好きな遊びに没頭したりしながら過ごしている。生活科「こうていで、くさばなやむしをさがそう」では、校庭に咲いている花や虫を観察し「土に空いている穴はなんだろう。」「セミの抜け殻があったよ。」「花にチョウがとまっているよ。」など、虫や花に興味関心をもちながら触れたり探したりする様子が見られた。しかし、自然の不思議さに気付いたり、友達とのかかわりのなかで遊びを工夫したり、自分の思いや願いをもって活動するまでには至っていない。そのため、おもちゃ作りを通して繰り返し遊ばせる中で、「先の形を変えると遠くまでとんだね。」「柔らかい容器のほうがいっぱい水がでたね。」など思い通りのおもちゃを作るために必要なことに気付かせたり、互いのおもちゃで遊ぶ活動を通して、「遠くに飛ばせるか競争しよう。」「みずの出方が面白いね。」など、友達と遊びを作り出す喜びを味わわせたりしたい。

(4) 指導の工夫

① 気付きの質を高める工夫

自分の想像したものを形にしていく経験が少ない。そのため、遊びに使う身の回りの物を選び出し、試行錯誤しながら作ったおもちゃで遊ぶ時間を十分に確保したい。遊びの中で自分の想像したおもちゃにしていくために必要なことや工夫に気付かせたい。また、想像したおもちゃの設計図を作ったり、実際にそのおもちゃでどのように遊べたかのかタブレットを使って動画を見合ったりする活動を通して、自分の想像したおもちゃに近づけるための気付きにつなげていきたい。


② 思いや願いを自分たちの力で実現させる単元構成

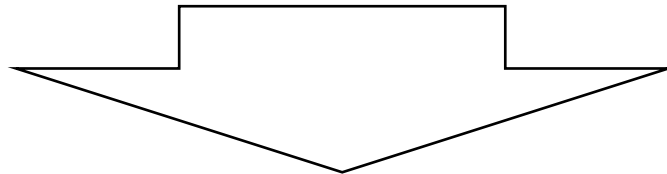
作りたいおもちゃに合わせてグルーピングをし、遊び方やおもちゃの作り方を工夫していく。その際に、どのようなおもちゃを作りたいかを明確にし、おもちゃの設計図をタブレットを使用し作成する。そのおもちゃが思い通りに作れたかを、実際につくったおもちゃで遊び、動画にとることで、設計図と動画を見ながらおもちゃを作ることにとどまらず、遊び方やおもちゃの作り方の工夫を改善できるようにする。この流れを繰り返すことで、思いや願いを実現させ、自分たちでやり遂げる達成感を味わわせたい。



③ 振り返り活動の充実

毎時間振り返りカード（あのねカード）を用いて振り返りを行うことで、児童の気付きの質を高めるとともに、児童の思いや願いを大切に学習を展開していきたい。振り返りカードには教師もコメントを書いたり、友達の記述を紹介したりすることで、児童の気付きを学習につなげていけるようにしたい。




4 小単元の指導計画(全6時間)





過程	時配	○主な学習活動 ●評価の活動	【児童の学び】	◎教材・資料 ☆指導の工夫 【観点】評価（方法）
	前小単元から	<p>【なつがやってきた】</p> <p>○夏だなあと感じることを出し合う。</p> <p>○校庭で草花や虫を探そう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>せみがいたよ。 草がたくさん生えてたよ。 暑いから顔を水でぬらしたいな。</p>  </div>		<p>☆夏と感じることを出し合わせ、季節への関心を高める。</p> <p>・校庭で見つけた物を「あのねカード」に書いて集める。</p>



であう	1	<p>○夏に遊んだことを振り返り、どのような水遊びをしたか発表する。</p> <p>○学校でやってみたい水遊びを発表する。</p>	<p>☆前時で夏だなあと感じることの中から出た、水に関することを振り返る。</p> <p>☆夏に水遊びをしたことを思い出させ、水遊びへの活動意欲を高める。</p>
		<p style="text-align: center;">みずであそぼう</p> <p>○安全面などについて約束を確認する。</p> <p>○自分たちが準備した道具を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ビニル袋に入れて触ると気持ちいいな。 穴をあけるとシャワーになるよ。 水鉄砲で遊ぶと楽しいな。 もっと遠くにとばしたいな。</p>  </div> <p>○水を触ったり、容器に入れたりして自由に遊ぶ。</p> <p>○友達と関わりながら、比べたり、見立てたりして遊びを広げる。</p> <p>●あのねカードに振り返りを記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>もっと遠くに飛ばすおもちゃをつくりたい。 遠くにとばすゲームがしたい。 強く押すとすごく速い水が出て、よくとんだよ。</p>  </div>	<p>☆楽しく遊ぶために「人に水をかけない、遊んだ水は飲まない、水を大切に使う。」などの約束を確認する。</p> <p>☆色々な遊びを思いつくように、たらいやビニル袋、ペットボトルなど多様な容器を用意する。</p> <p>☆児童との対話の中で児童の気づきを言語化することで価値付け、全体に広める。</p> <p>☆「ぐによぐによ動く」などのつぶやきを紹介し、水の面白さ不思議さに気付かせる。</p> <p>☆硬さ、形など異素材のボトルなどを用意し、比べながら遊べるようにする。</p> <p>☆様々な遊びを称賛し、活動意欲を高める。</p> <p>☆いろいろな容器で遊ばせることで、「もっと～したい!」という思いをもたせる。</p> <p>【知技】 水を使って遊びを創ることの面白さに気付いている。</p> <p>【態度】自分たちで集めた空き容器に関心を持ち、それらの特徴を生かした水遊びの道具を作りたいという思いをもっている。(あのねカード・発言)</p>

か	2	○前時の振り返りカードの内容を聞く。	◎前時で使用したあのねカード（振り返りカー
---	---	--------------------	-----------------------

かわる	<p>○振り返りカードに書いたことを確認し、やってみたいことを考える。</p>	ド)
	<p>ともだちももっとたのしくあそべるくふうをはなしあおう</p>	
<p>○やってみたい遊びの似ている児童をグループに分ける。</p> <p>○前時の遊びの体験から、水を使った遊びをもっと楽しくするためにはどうすればよいかグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の願いに合った設計図や遊び方を考える。(自分タイム) ●作りたいおもちゃを設計図に描いたり、遊び方を書いたりしてグループで工夫や気づきを伝え合う。(みんなタイム1) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>穴は小さいほうが飛んだよ。 マヨネーズの入れ物が飛ばしやすい。 上に向けると噴水みたいだった。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>遠くの的と近くの的で点数を変えたらいいかも。 ルールが少し難しいほうが面白そう。 誰が一番遠くまで飛ぶかとぼっこをしたい</p>  </div> <p>○グループで伝え合ったおもちゃや遊び方についてクラスに紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●考えた設計図を次時の活動の資料にする。 ●あのねカードに今日の振り返りを書く。 	<p>☆前時のあのねカードからやってみたい遊びの似ている児童同士をグループ化して工夫しやすいようにする。</p> <p>☆もっと～したいという思いを実現させるにはどうすればよいか出させることで、工夫の視点に目を向けさせる。</p> <p>(容器の素材や扱い方、穴の数や大きさ、遊び方など)</p> <p>☆使ってみたいおもちゃの素材を選び、設計図に自分の工夫を書かせる。</p> <p>☆設計図をもとにすることで、工夫や気づきを友達に伝えやすいようにする。</p> <p>☆話し合いの仕方など事前に指導する。</p> <p>みんなで同じ意見を目指すのではなく、自分の考えを伝えたり、友達の意見と比べたりする。分からないときは確かめてみるとよいことを伝える。</p> <p>☆図にかくことで、めあてに沿ってどんな工夫ができるか見通しをもった話し合いをさせる。</p> <p>☆遊びをクラスに紹介することで、ほかの遊びもやってみたいという思いをもつ。</p> <p>【思考】作りたいおもちゃの工夫や水遊びに必要な材料を考え設計図やあのねカードに表現している。</p> <p>【態度】もっと～したいという思いやみんなで遊びたいという思いをもち、水であそぶ活動を楽しもうとしている。</p> <p>(設計図・あのねカード)</p>	
<p>3</p> <p>○前時の設計図を確認して、おもちゃのイメージをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>おもちゃをつくってあそぼう①</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●設計図を見ながらおもちゃをつくる。 ○出来上がったおもちゃを写真に撮る。 <p>○グループで関わりながら水遊びの準備をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>的は大きいものと小さいものを作ろう。 穴の開け方は大きいものと小さいものと比べてみよう。</p>  </div> <p>○正しい道具の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あのねカードに振り返りを書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>友達の考えたやり方と自分の考えたやり方で、どちらが遠くに飛ぶか試したいな。</p> </div>	<p>☆前時の設計図を基にすることで、おもちゃの工夫や遊び方の工夫に見通しをもって活動させる。</p> <p>☆道具の使い方について、教科書などを活用して指導し、安全面に十分配慮する。</p> <p>【態度】思いや願いをもって、遊びや遊びに使う</p>	







		<p>物をつくらうとしている。 (行動、あのねカード)</p>
4	<p>おもちゃをつかってあそぼう②</p> <p>●もっと楽しくなるよう試行錯誤し、遊びの活動を繰り返しながら、遊びや遊び方を工夫する。</p> <p>●あのねカードに振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>的に当たって楽しかった。 友達と一緒に遊べて楽しかった。 水を使って違う遊びも考えたいな。 友達の作った方がよく飛んだよ。ちがったところは穴の大きさが友達の方が小さかった。</p>  </div>	<p>☆道具を使う場と遊び場と分けて安全に配慮した活動をする。 ☆おもちゃ作りや遊び方の工夫についてつぶやいている児童の発言を取り上げて、グループで共有したり全体に紹介したりして水の面白さに気付かせる。 ☆児童の活動や工夫を教員が記録し、次時の遊びの紹介の資料にする。 【思考】試行錯誤したり比べてみたりして遊びの活動を繰り返しながら、遊びや遊び方を工夫することができる。 (行動、ビデオ、あのねカード)</p>
5 本 時	<p>○おもちゃで遊んだ時の動画を見たり、あのねカードを見て振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>チームのわくわくをつたえよう</p> </div> <p>○グループに分かれ、発表の準備をする。 ○グループの遊びで工夫してうまくいったところを話し合う。 ○グループで話し合ったことを全体に向けて紹介する。</p> <p>●あのねカードに振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>他のグループの遊びもやってみたいな。 水が少なかったのかな。もう一度試したいな。</p>  </div>	<p>☆あのねカードを見ながら、前時のおもちゃ遊びでうまくいったことや気づいたことなどを思い出させる。</p> <p>◎前時に撮影した動画や設計図。 ☆設計図や動画を見ることでうまくいったところを考えさせる。 ☆紹介する際の視点を確認する。(遊び方・遊び道具など) ☆紹介後の質問など交流の場を設ける。 ☆他のグループの発表を聞くことで、他の遊びもやってみたいという願いをもたせる。 【知技】おもちゃやあそびを創り出す楽しさに気付き、友達に伝えることができる。 (あのねカード・発言)</p>
ひろ げ る	<p>6</p> <p>もっとみずであそぼう</p> <p>○グループで前半チームと後半チームに分かれて、遊び道具や遊び方について説明する。 ○遊びたいおもちゃで遊ぶ。 ●おもちゃで遊んでみたり、遊んでもらったりして気付いたことをあのねカードに振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>友達と点数を競争すると楽しかったよ。 水のトンネルをくぐって遊んだよ。 シャワーで虹ができたよ。 今度は川をつくってみたいな。</p>  </div>	<p>☆一人で遊んでいる児童に声をかけたり、一緒に遊んであげたりする。</p> <p>【態度】自分で作ったおもちゃで遊んでもらうことに喜びを感じ、友達と関わることでさらに楽しもうとしている。</p>



5 本時の指導 (5/6時)

(1) 本時のねらい

おもちゃ遊びの楽しさに気付き、友達に伝えることができる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎教材 ☆指導上の留意点 ・【評価】
導入 (8)	<p>○前時のおもちゃ遊びを振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>みんなで遊べて楽しかった。またやりたい。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>やっぱりペットボトルの穴はちいさいほうがよくとんだよ。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 100px; margin-top: 10px;"> <p>チームのわくわくをつたえよう。</p> </div> <p>○本時のめあてをワークシートに書く。</p> <p>○前時のおもちゃ遊びの動画を見たり、ワークシートで描いた設計図を振り返ったりして、楽しく遊べたところを考える。</p>	<p>◎教材 ☆指導上の留意点 ・【評価】</p> <p>◎前時で使用したあのねカード (振り返りカード)</p> <p>☆あのねカード (振り返り) を見ながら、前時のおもちゃ遊びの気付いたこと、分かったことを発表させる。</p> <p>◎前時に撮影した動画</p> <p>☆ワークシートで描いた設計図での工夫や実際におもちゃで遊んだ動画を見ることで楽しく遊べたところを考えさせる。</p> <p>☆楽しく遊べた→「わくわく」 全体で紹介する視点を確認する。</p>
みんなのタイムI (10)	<p>○おもちゃで友達と楽しく遊べたことをグループで発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>的あての的は、大きいほうがよくあたって楽しかったよ。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>誰が一番水を飛ばせたかが分かりやすくなると、もっと楽しいと思う。</p>  </div>	<p>☆1人1分で発表し、ワークシートを見せたり、作ったおもちゃを動かしたりして発表するよう伝える。</p> <p>◎ワークシート、作ったおもちゃ</p> <p>☆途中でグループの話し合いを取り上げ、グループで紹介する視点再度確認する。</p>
みんなのタイムII (20)	<p>○グループで話し合ったことを全体へ向けて紹介する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>水をたくさん入れて、強くおしたら遠くまでとびました。</p>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>的あてでは、遠くの的に当てたら点数を高くしてあげたらもっと面白くなると思います。</p>  </div>	<p>☆グループごとに指名して紹介させ、「もっと楽しく」という目的で、様々な工夫が考えられたことを価値づける。</p> <p>☆紹介後に質問などによる交流の場を設ける。</p> <p>【知技】おもちゃ遊びの楽しさに気付き、友達に伝えることができる。 (ワークシート・あのねカード、動画)</p>

振り 返り (7)	<p>○あのねカードに本時の振り返りを記入する。</p> <p>この前は水が少なかったのかな。わたしももう一度試してみたいな。</p> 	◎あのねカード (振り返り)
	<p>他のグループのおもちゃでも遊んでみたい。自分のおもちゃも友達にやってもらいたい。</p> 	<p>☆次時に何をするのかを見通しをもたせ、次時の学習につなげる。</p>

(3) 本時の板書計画

みずであそぼう！

チームのわくわくをつたえよう！

おすすめかた

- ① じぶんのわくわくをつたえる。
- ② ともだちのはなしをきく。
- ③ グループでまとめる。
- ④ はっぴょう。

動画

↓

ワークシートの写真
(グループ)

あそびかた	おもちゃ
<ul style="list-style-type: none"> ・まをつくるとたのしい。 ・どっちがとおくへとばせるかが、おもしろかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つよくおすと、よくとんだよ。 ・あなをたくさんあけたらシャワーになったよ。

ほかのあそびもやってみたい

6 参考資料

ハリケーン

○ペットボトルの先から水を出しながら、回転する。



せいめいのみず

○相手に向けて、水をかけ合う。



まとあて

○吊るした的をめがけて、水を飛ばす。



レインボーカーニバル

○容器の先から出た水の下側を通る。



おえかき

○容器の先から水を出し、その水で絵を描く。



水とばせ

○水を遠くに飛ばす。



7 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆めあて【】評価規準	観察対象児童の学習記録		教師による考察
		A児	B児	
1時	<p>○夏に遊んだことを振り返り、どのような水遊びをしたかを発表する。</p> <p>○自分たちが準備した道具を確認し、校庭で水遊びをする。</p> <p>◆水であそぼう。</p> <p>○水に触ったり、容器に入れたりして自由に遊ぶ。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>【知技①】 【態度①】</p>	<p>・「夏休みに公園で水遊びをして楽しかった。」と反応。</p> <p>・ペットボトルを使って、友達と「どちらがぬれるかゲーム」をしたい。</p> <p>・「楽しかったけど、もっと遠くに飛ばしたい。次は友達とバトルしたい。」と振り返った。</p>	<p>・「公園の噴水で友達と水遊びをした。またやりたい。」と反応。</p> <p>・ビニール袋に穴を開けてから水を入れて地面に絵を描いてみたい。</p> <p>・「あまり水が出なかったから、穴を大きく空けたい。次は人がくぐれるかゲームをしたい。」と振り返った。</p>	<p>・夏に水遊びをしたことを思い出させたことで、水遊びへの活動意欲を高まった。</p> <p>・自分たちが準備した道具以外にも色々な容器で遊ばせることで、「もっと楽しくしたい」という思いをもたせることができた。</p> <p>・振り返りの際は、「今日の活動の感想」「次にやりたいこと」の2つの観点を明確にすることで、児童が振り返りやすくなった。</p>

<p>2時</p>	<p>○前時で振り返りカードに書いたことを確認し、もっと楽しくするにはどうするか考える。</p> <p>◆もっと楽しく遊ぶために工夫しよう。</p> <p>○遊びの似ている児童をグループに分ける。</p> <p>○作りたいおもちゃを設計図に描いたり、必要な材料や遊び方を考える。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>【思考①】 【態度②】</p>	<p>・「水をもっと遠くに飛ばすために、マヨネーズの入れ物を使いたい。」と発言。</p> <p>・「○○君みたいにペットボトルの先にたくさん穴を開けたい。遊び方もかんがえなとなあ。」と呟いていた。</p> <p>・「どこに穴を空けるか、頭を使った。設計図を書くのが楽しかった。」と振り返った。</p>	<p>・「穴を大きく空けて、絵を描いて模様をつけた。リボンを付けて飾りをつけたい。」と反応。</p> <p>・「ペットボトルに水をたくさん入れて、強く押すと勢いよくでるかなあ。マヨネーズの容器かケチャップの容器を持ってこよう。」と呟いていた。</p> <p>・「楽しかったけど、いっぱい頭を使った。早く作りたい。」と振り返った。</p>	<p>・前時の振り返りから、やってみたい遊びの似ている児童同士をグループ化することで、同じグループの友達と工夫しようとする姿が見られた。</p> <p>・「もっと楽しくしたい」という思いを実現するにはどうすれば良いかを児童から出させることで、工夫の視点に目を向けさせることができた。</p> <p>・使ってみたいおもちゃの素材を選び、設計図に自分の工夫を書かせることで、見通しをもっておもちゃを作る活動へとつながった。</p>
<p>3時</p>	<p>○前時の設計図を確認して、おもちゃをつくるイメージをもつ。</p> <p>◆おもちゃをつくってあそぼう①</p> <p>○遊びの似ているグループで関わりながらおもちゃをつくる。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>【態度③】</p>	<p>・「小さい穴を2つ空ける。」</p> <p>・「マヨネーズの容器を使う。」</p> <p>・「水をたくさん入れて、ななめにふり下ろす。」と設計図に記す。</p> <p>・「みんなでチーム名を考えたい。」と発言</p> <p>・「手から離れないようにペットボトルに滑り止めをつけた。デザインも考えた。つぎは友達とバトルしたい。」と振り返った。</p>	<p>・「ペットボトルのキャップに小さい穴を開ける。」</p> <p>・「人が水の下をくぐる。水をとばす人は、容器の下の方をもって上に向けておす。」と設計図に記す。</p> <p>・「みんなで話し合っ、チーム名はレインボーカーニバルに決まった。」と発表。</p> <p>・「マヨネーズの容器に水をたくさん入れられるようにした。絵を描いて模様をつけた。リボンでかわいい飾りをつけた。早く遊びたい。」と振り返った。</p>	<p>・遊びの似ている児童をグループに分けることで、同じグループの友達と工夫しようとする姿が見られた。</p> <p>・グループのチーム名を決めたことで、グループへの愛着が深まった。</p> <p>・振り返りの時は、「今日の活動の感想」「次にやりたいこと」の2つの観点を明確にすることで、学習のめあてにつながる思いや願いをひき出すことができたのではない。</p>
<p>4時</p>	<p>○グループに分かれて水遊びをする。</p> <p>◆おもちゃをつくってあそぼう②</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>【思考②】</p>	<p>・「ともだちとバトルするのが楽しかった。また水遊びをしたい。次は違う友だちとバトルしたい。」と振り返った。</p>	<p>・「レインボーカーニバルチームのみんなで遊ぶのが楽しかった。またレインボーカーニバルチームで遊びたい。マヨネーズの容器の模様をかえてみたい。」と振り返った。</p>	<p>・道具を使う場と遊び場と分けて活動を行うことで、児童が繰り返し作りながら遊ぶ様子が見られた。</p>

<p>5時</p>	<p>○前時で振り返りカードに書いたことを見て、振り返る。 ◆チームのたのしかったことをつたえよう。</p> <p>○グループに分かれて、楽しかったことを話し合い、ワークシートに書く。 ○グループで全体に向けて発表する。 ○振り返りを書く。</p> <p>【知技②】</p>	<p>・「他のチームのことがわからないから、ほかのチームにやり方、ポイントを教えてあげる。」と呟いていた。</p> <p>・「ペットボトルを重ねて使ったのが楽しかった。壁を作ってよかった。協力したのとバトルが楽しかった。」と発表。 ・「早くまた水遊びをしたい。今度はハリケーンチームで遊びたい。またせいめいの水チームでも遊びたいです。」と振り返った。</p>	<p>・「振り返りカードには同じ「～したい」でも、前にやった時と違うことをやりたいとか、変えてみたいとかでみんな違う。」と発言。 ・「人が水の下をくぐるのが楽しかった。でも難しかった。なぜかというと水がよくでる人とでない人がいたから。」と発表。 ・「<u>他のチームのことが知れてとてもよかった</u>です。でもやっぱり<u>また自分の今のチームをもう一回やりたいです。</u>」と振り返った。</p>	<p>・A児の振り返りを取り上げ、「～したい」という思いを表出させたことで、本時のめあてが定まった。 ・グループの全体発表の前に、前時に撮影したグループごとの動画を見せることで、他のチームの遊びのイメージをもたせることができたが、話し合いの場の前にも動画を見せたほうが有効的だった。 ・児童の実態を考慮し、話し合いではなく、振り返りを参考に、伝え合うことに重きをおくべきだった。 ・振り返りの観点は、パターン化せず、めあてについての振り返りが必要だった。</p>
<p>6時</p>	<p>◆もっと水であそぼう。</p> <p>○グループを前半チームと後半チームに分け、遊び道具や遊び方について説明する。 ○遊びたいおもちゃで遊ぶ。</p> <p>【態度④】</p>	<p>・「ハリケーンチームの容器のほうが水がよくとんで楽しかった。<u>ルールもちゃんとあって面白かった。自分のチームもルールをちゃんと決めて遊びたい。</u>」と振り返った。</p>	<p>・「<u>色々なチームの水遊びができて楽しかった。また自分のおもちゃを作り直したい。他のクラスの人とも遊んでみたい。</u>」と振り返った。</p>	<p>・一人で遊んでいる児童に声をかけたり、グループに入り一緒に遊んだりしたことで、児童の「次も作って、遊びたい。」という発言から、次の単元への活動意欲へとつながられた。</p>

考察

- ・低学年では、「社会とのつながりを実感し、生活を豊かにしようとする」を目指す児童像としている。まず、「社会とのつながりを実感すること」を身近な人やもの、自然などに思いを巡らせることとした。次に「生活を豊かにしようとする」では学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していこうとすることと考えた。A児は、「友だちとバトルするのが楽しかった。また水遊びをしたい。次は違う友だちとバトルしたい。」B児も「レインボーカーニバルチームのみんなで遊ぶのが楽しかった。またレインボーカーニバルチームで遊びたい。」のように、おもちゃの工夫から人と関わりをもつことに関心が広がっていった。さらに、B児が「色々なチームの水遊びができて楽しかった。また自分のおもちゃを作り直したい。他のクラスの人とも遊んでみたい。」のように、遊びを繰り返しておもちゃの改良を重ねることや他クラスへの関心をもつことがこれにあたる。また、A児が「ルールもちゃんとあって面白かった。自分のチームもルールをちゃんと決めて遊びたい。」といったように、ルールを決めて遊ぶことは日常の生活とつながり、よりよい生活を創ろうとする姿がこれにあたる。
- ・目指す児童像の実現の背景にある指導のポイントは、以下の通りである。
 - ①児童にとって身近な自然である「水」を教材にし、小さいころから親しんだ水鉄砲などのおもちゃ遊びを繰り返すことで、遊びを発展させることができた。
 - ②似た遊びをしている児童を同じグループにすることで、友達と関わりながら、さらにおもちゃの工夫をしたり、遊び方の工夫をしたりして楽しさを味わうことができた。
 - ③振り返りの観点に「～したい」という思いを書かせることで探究心もち続け、遊びの工夫につなげることができた。児童の発達段階から、振り返りや学習カードを文章だけでなく、絵を描かせるようなカードも用意することで自由に表現することができた。

第2学年 生活科学学習指導案

令和3年12月15日

2年2組 27名

授業者 首藤 祥野

1 単元名「つながる広がるわたしの生活」(13時間)

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

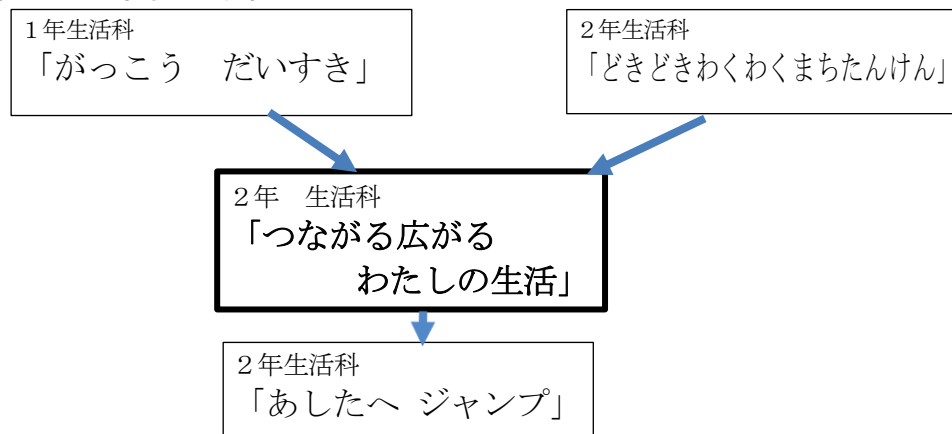
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりして、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで友達や地域の方々、保護者と触れ合い交流しようとするができるようにする。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付いている。	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々に親しみをもち、進んで触れ合い、交流しようとしている。

3 単元について

(1) 低学年生活科における本単元の位置付け



(2) 本単元の教材について

本単元は、今までの学習を振り返り、気付いた地域の良さについて伝え合う活動を行い、互いの考え、思いや願いを理解し合ったり、対象に心を通わせたりして関わることの楽しさを実感し、身の回りの人々と進んで交流できることを目指している。

生活科の学習としては、2学期までに学区内の様々な場所を探検してきた。一連の町探検を通して、自分たちが住んでいる地域について知り、関心をもったり地域にあるお店や人の魅力的な点に気付いたりすることができた。このように学習の対象と深く関わった経験を通して、「他の人に伝えたい」という気持ちが高まっていった。そこで、今までの学習を振り返り、自分の心に残った地域のお店や人との出来事などについて感じたことや気付いたこと、もっと知りたいと思ったことなどを自分なりの方法でまとめ、保護者など様々な人々に伝える活動を行う。学習の各段階で、友達と交流する活動を取り入れ、互いのよいところを認め合ったり助言し合ったりすることで、自分の思いを自信をもって表現したり進んで交流したりすることができるようになると思う。

(3) 児童の実態

児童は、生活科の時間を楽しみにしている。春から学習してきた「まちたんけん」では、実際に学校の外に出かけることを楽しみにし、行った先でも様々な気付きを表現している児童が多い。また、探検後のまとめでは、自分なりに考えた方法で見つけたことをまとめたり伝えたりすることができた。情報活用を行いながらその表現を工夫していく姿もあった。しかしながら、まとめる段階になって、「何を伝えたらよいのか」で迷ってしまう児童もいる。学習の対象を自分のこととしてとらえ、自分が知りたい、伝えたいという思いを大切にし、自分の思いを自信をもって表現することができるよう取り組んでいるところである。

グループ (人数)	店名	人数 (人)	店名	人数 (人)
① (5人)	はなまるうどん	3	ナカ薬局	2
② (4人)	もつやき のんき	2	大久保碁盤店	2
③ (4人)	ANTENDO	2	金駒	2
④ (4人)	たい焼き わかば	2	丸正本店	2
⑤ (5人)	坂本屋	3	ZOO	2
⑥ (4人)	ANTENDO	2	肉の竹井	2

(4) 指導の工夫

① 気付きの質を高める工夫

「より多くの人に伝えたい」からこそ「そのためによく調べたい」と児童は考える。このような児童の思いや願いの醸成に丁寧に寄り添うようにする。児童の具体的な姿を具体的な言葉で価値付け、集団としての学習意欲を高める。

〈本単元で児童に期待する気付きの例〉

- 手紙を出すときは丁寧な言葉で書くといいね。
- 忙しい中手紙の返事を書いてくれてうれしいな。
- 何度も見てもらえるように、ポスターにまとめて伝えたいな。
- 伝えた相手に喜んでもらえてうれしいな。


② 思いや願いを自分たちの力で実現させる単元構成

児童が直接学習の対象に働きかけたり、対象から働き返されたりしながら活動が継続してくよう、友だちやお店の人、保護者などと繰り返し関わる体験を位置付ける。相手意識を大切に、特に単元後半において保護者や地域の人々への発信でのかかわりだけでなく、姉妹校の同学年児童などへの発信や地域の行事への参加などのかかわりをもてるようにする。これにより、思いや願いを実現させ、自分たちでやり遂げる単元構成となる。




③ 振り返り活動の充実





毎時間振り返りカードを用いて振り返りを行い、児童の気付きを表出するだけでなく、授業の導入で活用することで児童の思いや願いを大切に学習を展開していく。教師のコメントや友達の記述の紹介等を行うことで、指導の工夫①②につなげる。





4 単元の指導計画(全13時間扱い)

過 程	時 配	○主な学習活動 児童の学び ●評価の活動	◎教材・資料 ☆指導の工夫 【観点】評価(方法)
	前 単 元 か ら	<p>【どきどきわくわくまちたんけん】</p> <p>○町探検でわかったことを紹介し合う。</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私の調べた「たい焼きわかば」の店員さんも優しかったけど、友だちの調べた「肉の竹井」の店員さんも優しかったみたいだよ。四谷にはすてきな人がたくさんいるんだね。 </div>	<p>☆全グループの発表を振り返る時間を設け、児童の発言やつぶやきなどから、その気持ちの良さを認め、価値付ける。</p> <p>【思考】自分や友達に関わった人々の地域に寄せる思いから共通点を見出し、地域の人々のよさについて話している。</p>



で あ う	1	<p>町たんけんを振り返ろう。</p> <p>○発表を振り返り、友だちと交流する良さを し合う。</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からたくさんほめてもらえてよかったよ。 ・質問されて話すのが楽しかったよ。 ・もっと他の人にも町のすてきを伝えたいな。 </div> <p>○町のことを誰に伝えたいか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お家の人に、四谷のすてきを伝えよう。</p> </div> <p>●これからやりたいことを振り返りカードに 記入する。</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>お家の人に、「たい焼きわかば」のことを伝えたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お家の人に、何を知っているか聞いてみよう。 </div>	<p>◎前単元のワークシート</p> <p>☆「よかった。」「楽しかった。」などの発言を受けて問い返すことにより、友だちと交流して気付いた良さを詳しく言語化させる。</p> <p>☆保護者以外にも伝えたいという児童の思いや願いも受け止め、「まずは、お家の人に」と共通の相手に集約し、多様な思いや願いは単元の終末で実現できるようにする。</p> <p>【態度】地域で関わった人のことをお家の人に伝えたいという思いをもっている。</p>
か か わ る	2	<p>○伝えるためにやりたいことを出し合う。</p> <p>お家の人に伝える計画を立てよう。</p> <p>●何を伝えるのか、グループで話し合う。</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>お家の人はまだ知らない、「たい焼きわかば」のおいしさのひみつを伝えたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ詳しく分からないことは、もう一度お店の人に聞きたいな。 </div>	<p>☆今までの学習を想起させ、「調べる、まとめる、伝える」の大きく3ステップがあることをおさえ、まず調べる必要に気付かせる。</p> <p>☆何を伝えたいか、何を知っているのかを話し合い、全体で共有していく。</p> <p>【態度】地域で関わった人のことを伝えたいという思いをもち、もっと詳しく調べようとしている。</p>

3 本 時	<p>手紙の書き方を考えよう。</p> <p>○調べ方には、どんなものがあるか、出し合う。</p> <p>●どんな手紙にするか、自分で考えたり、友だちと交流したりして下書きを書く。</p> <p> ・たい焼きの、あんこはどうやって作っているのか、教えてください。僕は、豆においしさのひみつがあるのかなと思っています。</p> <p>・友達のアドバイスから、絵も手紙に入りたいな。</p>	<p>☆前時までに話し合ったことや本時で話し合うことを整理する時間を設け、学習の見通しをもたせる。</p> <p>☆事前にお店と連絡を取り、インタビュー、手紙、電話、メールなど、どんな関わりが可能かを確認しておく。</p> <p>【思考】 お店の人のことを想像しながら、手紙の内容を考えている。</p>
4 5	<p>もっとくわしく調べよう。</p> <p>●話し合っただけの調べ方に沿って、さらに詳しく調べる。</p> <p> ・質問が一緒にならないように手紙を見せ合おう。</p> <p>・丁寧な文字や言葉で書いているか確かめよう。</p> <p>●調べて気付いたことを振り返りカードに記入する。</p> <p>・手紙に丁寧に答えてくれてうれしいな。</p> <p>・あんこをおいしくするには、火の強さやこね方を工夫していることが分かったよ。</p>	<p>☆グループで決まった調べ方を最終確認し、同じ方法で調べるグループがあれば情報交換しながら進められるにする。</p> <p>☆尋ねて分かったことは整理し、まとめておくよう、「あらかじめ全体で確認しておく。</p> <p>【知技（習慣や技能）】 地域の人に連絡をする際、手紙や電話を適切に使っている。</p> <p>【知技】 身近な人々と関わることのよさに気付いている。</p>
6	<p>○各グループの発表から、もっとわかりやすくするために必要なことを出し合う。</p> <p>伝えたいことをまとめよう。</p> <p>●伝えたいことを整理し、どんな方法で伝えたいか話し合う。</p> <p> ・写真を貼ったら、行ったことのない人にも、覚えてもらえそうだね。</p> <p>・たい焼きができるまでを順番に並べて説明したら、分かりやすいと思うな。</p>	<p>☆児童の発言を「伝えたいことの仲間分け」「伝える順番」「写真や絵」「話し方」などに整理して板書する。</p> <p>☆詳しく調べたことを自分たちの力で整理できるよう、付箋を活用する。</p> <p>☆グループでまとめたものを全体場で紹介し合い、感想や質疑応答なども行えるようにする。</p> <p>【思考】 伝えたいことが相手に伝わるかどうかを予想しながら、伝え方を選んでいる。</p>
7 8	<p>伝える準備をしよう。</p> <p>●調べてまとめたことについて、伝える準備をする。</p> <p> ・写真だけでなく少し言葉も入れると、たい焼きを作る途中の写真だとわかりやすくなるね。</p> <p>・自分たちで撮った写真を見せながら話すと、分かりやすいって言ってもらえたよ。</p>	<p>☆新聞やポスター、タブレットを活用した伝え方などの中から児童が選択できるようにする。</p> <p>☆グループ間や全体で交流したり、それを基に伝え方を工夫したりする時間を十分に確保する。</p> <p>【知技】 伝える相手に応じた伝え方があることに気付いている。</p>
9	<p>他のクラスに伝えてみよう。</p> <p>○グループでまとめたことを他のクラスに伝え、感想を聞いてくる。</p> <p>●これからやりたいことを振り返りカードに記入する。</p>	<p>☆本番に向けてリハーサルをしたいという児童の思いを受けて、他のクラスに伝えて、アドバイスをもらうという本時の目的を共有する。</p> <p>☆事前にクラス間で連携を図り、児童がグル</p>

		<p>●伝えた相手から受けた感想や質問を全体で共有する。</p>  <p>・「知らなかった。よく調べたね、」と、たくさんほめてもらえてうれしかったよ。</p> <p>・顔を見ながら話すの良いと教えてもらったよ。</p>	<p>ープに分かれて活動できるようにしておく。</p> <p>【知技】 交流することで、互いの気持ちがあつながら心地よさに気付いている。</p>
	10	<p>発表の仕方を見直そう。</p> <p>○よりよく伝えるための視点を共有する。</p> <p>●よりよく伝えるための準備をする。</p>  <p>・相手の顔を見て話せるように、できるだけ言うことを覚えておこうよ。</p> <p>・友だちと役割を分担したら話しやすくなるかな。</p>	<p>☆「資料の見せ方」「話し方」「グループの役割わり分担」などの改善の視点を板書に整理する。</p> <p>☆前時の発表の様子を動画に収めておき、必要に応じて児童が振り返れるようにする。</p> <p>【思考】 伝える相手によりよく伝わる伝え方を考えている。</p>
	11	<p>おうちの人を招待して町のすてきを伝えよう。</p> <p>○お家の人に町のすてきを伝える。</p> <p>●振り返りカードに記入する。</p>  <p>・お家の人笑顔になってくれてよかった。</p> <p>・知らないことがたくさんあったと言ってもらえたよ。</p> <p>・今度の休みには家の人をお店に案内したいな。</p> <p>・もっと他の人にも伝えたいな。</p> <p>・お世話になったお店の人に、お礼がしたいな。</p>	<p>☆教室の前方後方でブースに分け、発表後に感想や質問を受ける時間を確保する。</p> <p>☆全体で大まかな流れを確認し、児童の様子を見守りながら必要に応じて助言する。</p> <p>☆振り返りでは発表を終えた児童の充実感に寄り添い、今後を進んで交流していこうという意欲を引き出す。</p> <p>【態度】 身近な人々と関わることのよさを実感し、これからも進んで身近な人々と関わろうとしている。</p>
広 げ る	12	<p>お店の人にありがとうの気持ちを伝えよう。</p> <p>●お世話になった地域の人に、お礼の手紙を書き、自分が見つけた地域の良さを伝える。</p>  <p>何回も私たちの質問に答えてくれてありがとうございました。教えてもらったたい焼きの作り方をお家の人に伝えると、とてもびっくりしていました。今度は家族でたい焼きを買いに行きますね。</p>	<p>☆前時の発表の充実感を振り返り、町探検からたくさん関わったお店の人への感謝の気持ちを引き出す。</p> <p>☆数種類の便せんを用意し、児童が自分の伝えたい内容に応じて選べるようにする。</p> <p>【思考】 手紙の相手との関わりを思い出し、自分の思いが伝わるように、表現している。</p>
	13	<p>もっとたくさんの人に町のすてきを伝えよう。</p> <p>○自分がビデオレターを届けたい相手を決める。</p> <p>○伝えたいことを録画し、ビデオレターを完成させる。</p> <p>○伝えたい相手ごとのグループに分かれて、メッセージカードを書く。</p>	<p>☆ビデオレターという形で児童一人ひとりの多様な思いや願いの実現を目指す。</p> <p>☆伝える相手に合わせて、言葉や伝え方を工夫するよう助言する。</p> <p>【態度】 身近な人々と関わることのよさを実感し、これからも進んで身近な人々と関わろうとしている。</p>






5 本時の指導 (3/13時) <2組>


指導者 首藤 祥野

(1) 本時のねらい

友達と考えを伝え合う活動を通して、お店の人のことを想像しながら手紙の内容を考えている。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◎教材・資料☆指導の工夫◆評価【観点】(方法)
導入 8分	<p>○前時の振り返りから、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">手紙に書くことを考えよう。</div> <p>○書く内容には、どんなものがあるか、出し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問を書くといいよ。 ・ 丁寧な言葉で書きたいな。 ・ 絵や色を塗ると知りたい気持ちが伝わるね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">どんな手紙にするか、下書きを書こう。</div>	<p>☆前時を振り返り、本時のめあてを共有する。</p> <p>◎前時の振り返りカード</p> <p>☆個人で考える時間を取り、一人一人の考えを表出させる。</p> <p>☆生活経験を基に考えられる手段を整理していく。</p>
自分 タイム 10分	<p>○手紙の内容を考え、ワークシートに書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ たい焼きの、あんこはどうやって作っているのか、教えてください。 ・ はじめに聞く理由をしっかりと書きました。 </div>	<p>☆前時のワークシートや、導入の話し合いを基に書く内容を決めていけるようにする。</p> <p>☆机間指導を行い、まだ出ていない工夫をしている児童をみんなタイム②で紹介する。</p>
みんな タイム I 10分	<p>○考えたことをグループで共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  <p>僕は、こんな手紙を書こうと思います。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧な言葉で書かれていていいね。 ・ 絵はあるとわかりやすいと思うよ。 ・ 最後にかわいく色を付けてもいいね。 </div>	<p>☆伝える際は、今書いたことだけでなく、これから書こうと思っていることや、迷っていることも伝えていいことを確認する。</p> <p>☆聞いているときは、それぞれの考えの良さを見つけたり、考えを迷っている児童の想いに寄り添い、助言したりするとよいことを全体で共有する。</p> <p>☆各グループの活動中は、停滞や進捗に応じて見守ったり助言したりする。</p>
みんな タイム II 8分	<p>○グループで話し合ったことを発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  <p>みんな丁寧な言葉で手紙を書けていてよかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞く理由を書いている人がいて、分かりやすかったです。 ・ 話をしている、絵を描くと質問したいことが分かりやすくなるかなと思いました。 ・ 仕上げに色を塗ると、もらった人がうれしい気持ちになるお手紙になるとアドバイスがありました。 </div>	<p>☆グループでまとめたものを全体の場で紹介し合い、感想や質疑応答なども行えるようにする。</p> <p>☆児童のワークシートを投影しながら、全体で共有していく。</p> <p>☆手紙を書くときのポイントを端的にまとめ、すべてお店の人のことを思い浮かべて考えているということをまとめる。</p> <p>◆お店の人のことを想像しながら、手紙の内容を考えている。【思考】 (発言・ワークシート)</p>

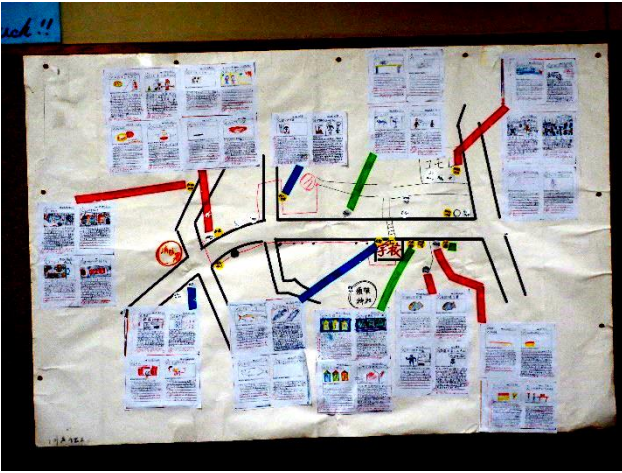
ふ り か え り 7 分	<p>○振り返りカードに記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人がうれしくなるように、絵を入れてかわいい手紙を書くことにしました。 ・次は、手紙を丁寧に書いて、お店の人に届けたいな。  </div>	<p>☆「今日考えたこと」「次やりたいこと」の2つの視点で学習を振り返るよう伝える。</p> <p>☆友達のアドバイスを受けて、自分のワークシートに書き込んでも良いことにする。</p>
---------------------------------	--	--

(3) 板書計画

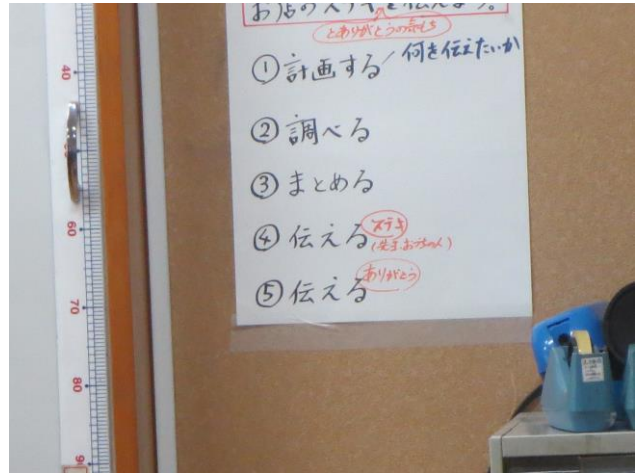
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手紙の書き方を、考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・しつもん ・おれい ・きくりゆう ・ていねいな言葉 ・絵 ・色ぬり 	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>どんな手紙にするか、 下書きを書こう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 20px; min-height: 150px;"> <p>児童のワークシートを投影する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お店の人のことを 思いうかべて 考えるといい。</p> </div> <p>流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分 ②グループ ③全体 <p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日考えたこと ・つぎやりたいこと
--	--	--

6 参考資料

前単元の町探検マップ



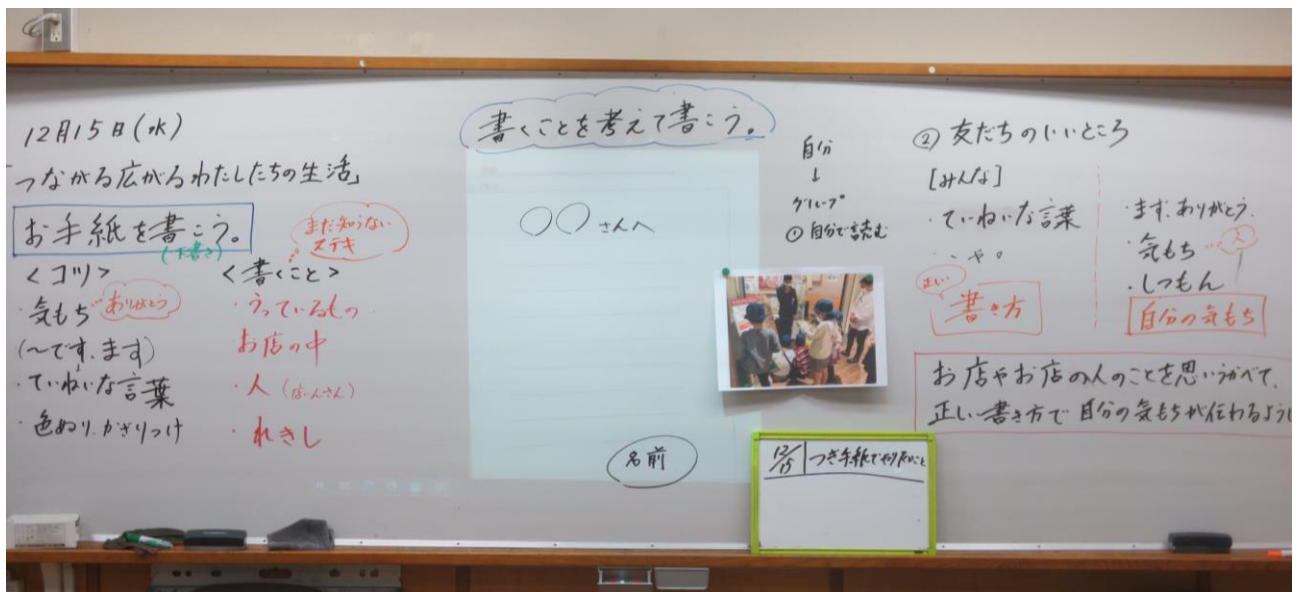
第2時で児童と立てた計画



本時の様子



本時の実際の板書



7 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆問い・めあて 【】評価規準	観察対象児童の学習過程		教師による考察
		A児 ナカ薬局	B児 大久保碁盤店	
1時	<p>○町たんけんを通して感じたことを出し合う。</p> <p>○発表を振り返り、伝えることで心を通わせた良さに気づく。</p> <p>◆だれに町のすてきを伝えたいだろうか。</p> <p>○振り返りに、これからやりたいことを書く。</p> <p>【態度】</p>	<p>・「薬の作り方のビデオを見せてもらえてうれしかった。」</p> <p>・「友達から聞かれてわからないこともあった。」</p> <p>・お家の人や妹に伝えたい。の意見に賛同。</p> <p>・また行ったり、もっと調べたりしてみたいです。<u>新しく分かったことも家の人に伝えてみたいです。</u></p>	<p>・「刀を見せてもらったのが一番驚いた。」</p> <p>・「ドキドキしたけど、発表ができてよかった。」</p> <p>・「校長先生に伝えたいな。」</p> <p>・町たんけんで見つけたすてきを先生たちに伝えたいです。先生たちはみんなが行ってきたところにあんまり行ったことがないからです。</p>	<p>・前単元の町たんけんから期間があまり空いていないことで、児童の発言を引き出しやすかった。</p> <p>・伝えたい相手が拡散してしまった。写真を提示して町たんけんに関わった人に焦点化する必要があると感じた。</p> <p>・振り返りの視点を「次の時間にまずやりたいこと」とすると、A児のような、学習計画につながる、思いや願いを引き出すことができたのではないか。</p>
2時	<p>○町たんけんを振り返り、計画→調べる→まとめる→伝えるという学習の流れを知る。</p> <p>◆今、知っていることは何かな。</p> <p>○知っていることの中から、特に伝えたいことを考える。</p> <p>◆もっと調べたいことは何かな。</p> <p>○今回は手紙を通して関わることを知る。</p> <p>○振り返りに手紙にどんなことを書きたいかを書く。</p> <p>【態度】</p>	<p>・「町たんけんの時は、お店で質問した後に、カードにまとめたよ。」</p> <p>・たくさん薬がある700年前からやっている。国のきまりによって薬の大きさは決まっている。</p> <p>・薬の種類をいろいろ知りたい。</p> <p>・手紙に関する友達の意見に耳を傾けていた。</p> <p>・薬がたくさんあることや、700年前からあることが分かりました。</p>	<p>・「町たんけんの時は、まずグループを決めて、質問したいことを話合ったよ。」</p> <p>・削るための刀がある。囲碁の碁石は、メキシコの貝や黒い石でできている。</p> <p>・なぜ、戦争のあと、四谷にできたのか。</p> <p>・「直接会いたい気持ちもあったけど返事が来たらうれしいな。」</p> <p>・なぜ戦争のあと、四谷にできたんですか。</p>	<p>・学習の計画を全体で話し合ったことは児童が学習の見通しをもつのに有効だった。</p> <p>・「知っていること」から「伝えたいこと」を選んでいくと、児童が活動しやすくなると感じた。(本時は混ざってしまい児童が混乱してしまった。)</p> <p>・児童の発言を、商品、お店の中、人、歴史に分類して板書したことは、まだ知らないことがあるという児童の気づきを引き出すために有効だった。</p>
3時	<p>○今までの経験を想起し、手紙を書く</p>	<p>・『ありがとうございます。』が書けると</p>	<p>・「～ですか。みたい</p>	<p>・前時まで「どうやって調べたいか」話し合った</p>

	<p>きのコツを出し合う。</p> <p>○手紙に書く内容について見通しをもつ。</p> <p>◆手紙に何を書こうかな。</p> <p>◆友達の下書きの良いところはどこかな。</p> <p>○手紙を書くときは、相手のことを思い浮かべて、書くときよかったことを振り返る。</p> <p>○手紙でやりたいことを振り返りに書く。</p> <p>【思考】</p>	<p>いいよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見に耳を傾けている。 ・ナカ薬局さんへアレルギーの薬はあるんですか。薬の種類がたくさん知りたいです。 ・ワークシートにメモを取りながら、友達の意見に耳を傾けている。 ・ほかの人の知っていることとかも、少し質問して知りたい。 	<p>うといいね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを振り返っている。 ・大久保碁盤店さんへお店のことをいろいろ教えてくれてありがとうございます。大久保碁盤店は戦争で燃えた後、なぜ四ツ谷にできたんですか。 ・いろいろ質問を書きたい。 	<p>ことで、それぞれの伝え方の特徴を理解しながら、手紙でどう表現するかという思考に焦点化できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の分類が、書く内容(質問)を考えていくうえで有効だった。板書に投影できると、よりよかった。 ・「何を伝えるか。」について前時までに質問内容を考えていたが、お礼を言いたいという思いも強く、質問が抜けてしまう児童もいたため、次時に「お店のすてきをよりよく伝えるためにわからないことを調べる。」という手紙を書く目的意識を再確認する必要性を感じた。
4時	<p>○手紙の清書を書けそうかどうか、理由とともに意見を出し合う。</p> <p>○お家の人や先生に、すてきを伝えるという学習目標を確認する。</p> <p>◆発表を通してどんな気持ちになってもらいたいのかな。</p> <p>◆そのために、聞きたいことは何かかな。</p> <p>○清書までにやりたいことをグループの友達に話す。</p> <p>【思考】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「まだ書けるか不安。何を聞きたいかまだまだ考えきれてないから。」 ・(ああそうだった。)と納得している様子。 ・「ナカ薬局の人はすてきだなって思っしてほしい。」 ・資料②参照 ・「<u>お家の人に3つくらいお店クイズを出してみようかな。</u>」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書けると思う。だって聞きたいことが決まっているから。」 ・友達の意見に耳を傾けている。 ・「お店のすてきを伝えた後に、大久保碁盤店と一緒に行って、将棋の駒を買ってあげようかなって思っほしい。」 ・資料②参照 ・「お母さんに大久保碁盤店のどんなこと知っているか、少し聞いてみようかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・A児の振り返りを取り上げ、一人一人に思いを表出させたことで、本時の目当てが定まった。 ・単元目標と単元計画を掲示していたことで、「お店のすてきを伝えたい。」そのために「もっと知りたいことを聞きたい。」という手紙を書く目的に立ち返ることができた。 ・お店ごとのグループで話し合ったことで、自分たちが知っていることと知らないことを改めて整理でき、質問したいことがまとまった。
5時	<p>○手紙を書くときのポイントを確認する。</p> <p>○手紙を通して、お店</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発言に耳を傾ける。 ・「手紙をもらってよかったな、また来て 	<ul style="list-style-type: none"> ・「です。ます。が使えるといいね。」 ・「質問に答えたいな、教えたいなっ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのワークシートをタブレットで共有したことで、スムーズに活動に取り組んでいた。

	<p>の人に伝えたい気持ちを出し合う。</p> <p>◆相手が喜ぶ、質問が伝わるお手紙を書こう。</p> <p>○これからやりたいことや楽しみなことを振り返りに書く。</p> <p>【知技】</p>	<p>ほしいなって思っ てほしい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書く。(資料参照) ・<u>新しい薬を知ることが楽しみです。</u>ほかの薬局さんも見たいです。 	<p>て思っしてほしい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書く。(資料参照) ・<u>僕は、大久保さんの手紙のお返事が楽しみです。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を通して感謝の気持ちと質問を伝えたいことを全体で確認したことで、一人一人が自分の考えをもって活動できていた。 ・タブレットで互いの手紙を見れるようにしたことで、より良いものにしようとする活動する児童もいた。
6時	<p>○各グループの発表から、調べたことを発表し、もっとわかりやすくするために必要なことを出し合う。</p> <p>◆自分が伝えたいことは、何かな。</p> <p>○これからやりたいことや楽しみなことを振り返りに書く。</p> <p>【思考】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナカ薬局には、アレルギーの薬もたくさんあることが分かったよ。」 ・薬の種類と題名をつけ、自分が調べたことを整理している。 ・伝えたいことは、決まったから、絵や言葉でまとめていくのが楽しみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の見解に耳を傾けている。 ・歴史や刀のことなど調べたことが多岐にわたり、まとめ方に悩んでいる。相談して「3つのひみつ」というタイトル決まった。 ・友達からもヒントをもらって、分かりやすくまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を「伝えたいことの仲間分け」「伝える順番」「写真や絵」「話し方」などに整理して板書したことで、工夫すべき4つの視点が明確になった。 ・グループでまとめたものを全体の場で紹介し合い、感想や質疑応答なども行えるようにしたことで、次時への見通しがもてた。
7時 8時	<p>◆わかりやすく伝えるためには、どんな方法がいいかな。</p> <p>○調べてまとめたことについて、伝える準備をする。</p> <p>○これからやりたいことを振り返りに書く。</p> <p>【知技】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の見解に耳を傾けている。 ・写真を見て思い出しながら、伝えたいことを大きく絵にかいている。その後、セリフを紙に書いて練習している。 ・<u>ほかの人がどんなことを言うのか知りたいな。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「せっかく写真をとったから、オクリンクを使いたいな。」 ・使いたい写真を選び、連続するスライドとしてまとめ、セリフを紙に書いて練習している。 ・<u>友達に伝えたり、友達の発表を聞いた</u>りしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やポスター、タブレットを活用した伝え方などを紹介し、その中から児童が選択できるようにしたことで、児童がまとめ方の見通しをもてた。 ・グループ間での交流の時間や交流を基に工夫する時間を交互に設けたことで、児童の協働的な学びにつながった。
9時	<p>○まとめたことを、他クラスの児童や先生と伝え合い、アドバイスし合う。</p> <p>◆自分の発表の良かったところや、もっとよくできそうな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表に感想を述べたり、自分へのアドバイスをメモしたりしている。 ・「声ははっきり出たことをほめられた。絵を指差して 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを取りながら、友達の発表に耳を傾けている。 ・「写真が分かりやすかったと言われた。友達に手伝ってもらおうといいよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するだけでなく、自分も聞く立場を経験したことで、相手意識をもった振り返りができた。 ・事前に先生方にも協力をお願いしていたことで、発表の改善点も見つ

	<p>ところはどこかな。 ○これからやりたいことを振り返りに書く。 【知技】</p>	<p>話すといいんだって。」 ・次は言うことを覚えて、写真を見せて話せるようにしたい。</p>	<p>とアドバイスをもらったよ。」 ・次は、友達と協力して、もっと伝わりやすい発表にしたい。</p>	<p>かった。 ・「資料の見せ方」「話し方」「グループの役わり分担」に視点を整理したことで、良い点と改善点が視覚的に理解しやすかった。</p>
10時	<p>○よりよく伝えるための視点を共有する。 ◆より良い発表にするには、どうしたらよいかな。 ○これからやりたいことや楽しみなことを振り返りに書く。 【思考】</p>	<p>・友達の意見に耳を傾けている。 ・紙芝居のように写真の裏にセリフを書いた紙をつけたり、何度も読んで覚えようとしていたりしている。 ・次はいよいよ発表です。<u>お家の人も喜んでくれるといいな。</u></p>	<p>・「僕は、資料の見せ方で友達に持ってもらうといいことが分かったよ。」 ・グループの友達と役割分担をし、繰り返し練習している。 ・本番はドキドキするけど、<u>友達とたくさん練習したから楽しみです。</u></p>	<p>・前時の発表の様子を動画に収めておき、必要に応じて児童が振り返れるようにしたことで、繰り返し発表を見直したり、新しく録音して比べたりする児童の姿が見られた。 ・前時にアドバイスし合う活動をしていたことで、本時でも互いの発表を見合う姿も見られ、おおいに価値づけた。</p>
11時	<p>◆お家の人に町のすてきを伝えよう。 ○発表してよかったことや、これからやりたいことを振り返りに書く。 【態度】</p>	<p>・家でも練習してきたこともあり、言うことを暗記して発表し、質問にも答えている。 ・お家の人から、「<u>知らなかった。</u>」と言われてうれしくなりました。<u>妹にも教えてあげたいし、ナカ薬局にお礼に行きたいです。</u></p>	<p>・少し緊張しながらも、堂々と発表している。友達との役割分担もうまくいき、満足げな様子。 ・発表がうまくいってよかったです。<u>今度はお家の人と一緒に大久保碁盤店に行って、将棋の駒を買ってみたいです。</u></p>	<p>・発表後に感想や質問を受ける時間をもっと十分に確保する必要があった。 ・振り返りでは発表を終えた児童の充実感に寄り添ったことで、今後を進んで交流していこうという意欲を引き出すことにつながった。</p>
12時	<p>◆お店の人にありがとうの気持ちを伝えよう。 ○お世話になった地域の人に、お礼の手紙を書き、自分が見つけた地域の良さを伝える。 【思考】</p>	<p>・発表ができたのは、<u>お店の人が優しくしてくれたおかげだから、お礼がしたいな。</u> ・発表している自分の姿を絵に描き、お礼の言葉を添えている。</p>	<p>・友達の意見に耳を傾けている。 ・僕は、大久保碁盤店の3つのひみつをお家の人に伝えました。<u>たくさん教えてくれてありがとうございました。今度はお母さんと行きます。</u></p>	<p>・前時の発表の充実感を振り返り、町探検からたくさん関わったお店の人への感謝の気持ちを引き出す。 ・数種類の便せんを用意したことで、児童が思い思いの表現で感謝の気持ちを伝えることができた。</p>
13時	<p>◆四谷のすてきをもっと伝えたい人は</p>	<p>・「<u>遠くに住んでいる、いとこにも伝えた</u></p>	<p>・友達の意見に耳を傾けている。</p>	<p>・ビデオレターや手紙という形で児童一人ひと</p>

<p>いないかな。 ○メッセージカードを書いたり、ビデオを撮影したりする。 【態度】</p>	<p>いな。」 ・友達と協力してビデオレターを撮影し、短い手紙を書いている。</p>	<p>・遠くの友達や家族に伝えたいという思いの基、小さな手紙をたくさん書いている。</p>	<p>りの多様な思いや願いを実現できた。</p>
--	--	---	--------------------------

考察

- ・低学年では「社会とのつながりを実感し、生活を豊かにしようとする子」を目指す児童像としている。低学年の児童にとっての社会とは、「家族」「学校」「地域」である。B 児は、手紙を通して、「大久保さんの手紙のお返事が楽しみです。」「たくさん教えてくれてありがとうございました。今度はお母さんと行きます。」と大久保碁盤店の人との関わりを実感していた。また、単元を通して、アドバイスを求めたり協力して練習したりするなど友達や先生、家族と自分から関わり、関わる良さを実感しながら自信を高めている姿も見られた。さらに、家族への発表を終えた後に、「今度はお家の人と一緒に大久保碁盤店に行つて、将棋の駒を買ってもらいたいです。」と記述し、授業外でも自分から思いや願いをもってお店や家族という身近な人々と関わろうとしていることから、学習を基にこれからの生活を豊かにしようとしていると判断した。
- ・目指す児童像の実現の背景にある指導は以下のポイントである。
 - ①「どうやって調べたいか」や「何を伝えるか」について話し合ったことで、手紙や電話、メールなどそれぞれの伝え方の良さを知ることができたとともに、お店の人に自分の思いを分かりやすく伝えたいという思いを引き出し、手紙を通して身近な人々と関わることの良さに気付くことにつながった。
 - ②児童の気付きを言語化や視覚化をして価値つけたことで、関わる相手を意識した表現をする児童の姿が増えたことから、「学校（友達や先生）」「地域（お店の人）」「家族」などの児童にとって身近な社会とのつながりを実感することにつながった。
 - ③活動と検証の時間を繰り返し、伝え方や関わり方をよりよくするための工夫を考えたり、振り返りに書いた思いや願いを可能な範囲で実現したりしたことで、思いや願いをもって身近な人々と関わるというサイクルが生まれ、単元の終末ではさらにかかわりを広げようとしたり、「お家の人をお店に連れていきたい。」「一緒に買い物をしたい。」など、これからの生活を豊かにしようとする考えにつながった。

前単元「どきどきわくわくまちたんけん」での探検の様子

ナカ薬局

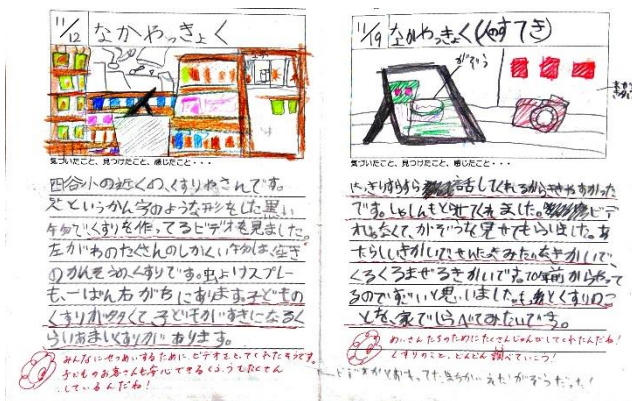


大久保碁盤店

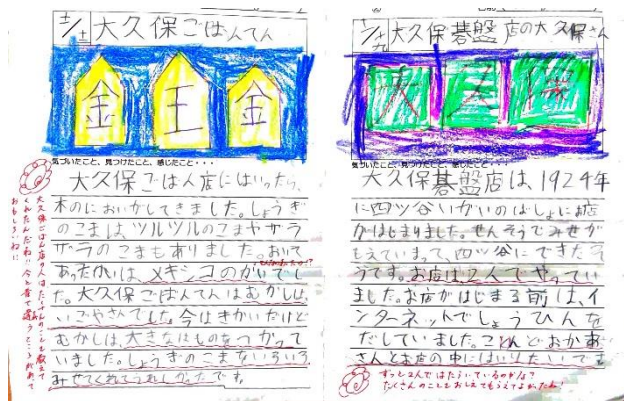


前単元「どきどきわくわくまちたんけん」の町のすてきカード

A児

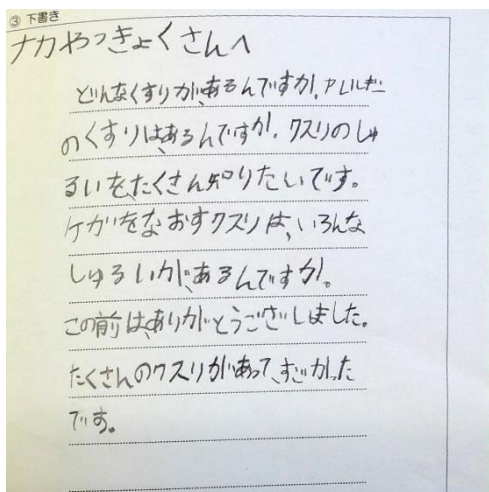


B児

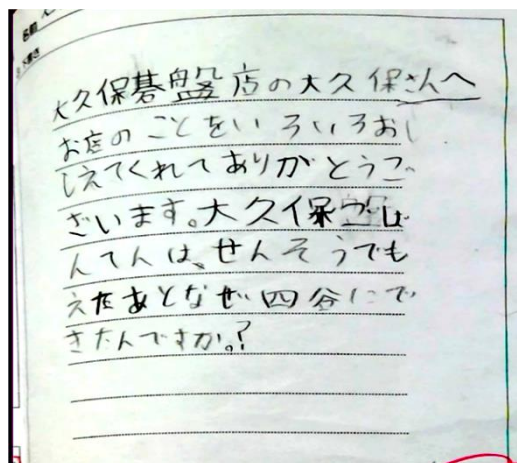


第3時の手紙の下書き

A児

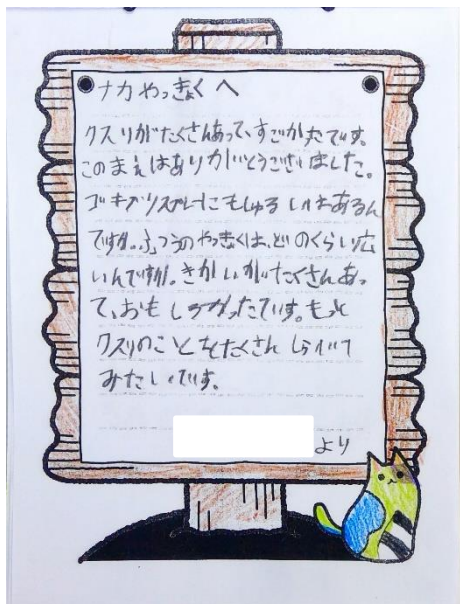


B児

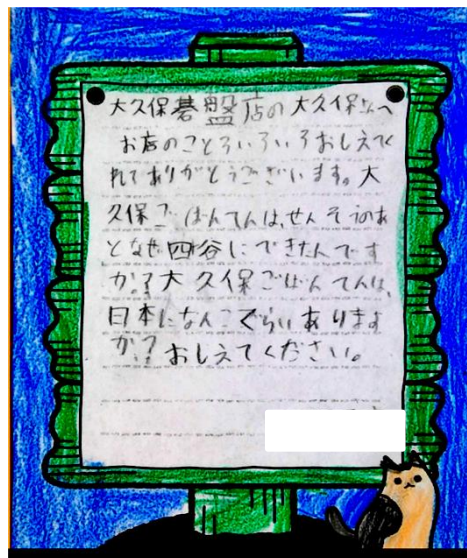


第5時 実際にお店に送った手紙

A児



B児



【低学年分科会の成果と課題】

目指す児童像 社会とのつながりを実感し、生活を豊かにしようとする子供			
研究内容	①主体的に学ぶ問いを追究する工夫	②見方・考え方を生かす学習活動の工夫	③学びを確かにする評価の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ○対象に直接働きかける活動を重視する。 (見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど) ○活動の楽しさや気付きなどを多様な方法によって表現する場を設定する。 (言葉、絵、動作、劇化など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○視点(身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのか)に着目して考える学習活動を工夫する。 (様々な関わり、気付きの共有) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長を実感できる振り返り活動を繰り返し設定する。 (できることや活動の範囲の広がりの実感)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○対象に直接働きかける活動を重視することで、児童は「もっと～したい」という思いや願いをもつことができた。 ○活動の楽しさを様々な方法で表現するための場を設定し、場に応じて図や手紙のワークシートを用意することで、児童は分かりやすく伝えることができるようになった。 ○「友達に伝えたい」や「お礼も言いたいし、もっと話したい」などの主体的に学ぼうとする姿が生まれ、社会とのつながりを意識させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の思いや願いに合わせたグループ分けを行うことで、自然(水)や身近な人々と社会(店と店に携わる人)などについて自分との関わりでとらえることができた。 ○児童の気付きの言語化、視覚化による価値付けや振り返りの内容を紹介することで、視点を意識して取り組めるようになった。 ○「スマイルクラブにお世話になった」→〈ものだけでなく人に着目したことによる学びの広がり〉や「相手の気持ちがよくなるように」→〈自分の気持ちだけでなく相手の気持ちにも着目したことによる学びの広がり〉など、生活を豊かにしようとする意識を醸成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動と振り返りの時間を繰り返し、よりよくするための工夫を考えたり、次にやってみたいことなどを振り返ったりすることにより、児童は自身の成長を実感し、次単元への期待をもつことができた。 ○発達段階に応じて、振り返りカードの内容を検討、設定することにより、児童はできることや活動の範囲の広がりをもっと明確に実感することができた。 ○自分自身の成長の確かな実感により、身近な人やもの、自然などに思いを巡らせ、学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していかうとする態度の育成を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的に学ぶための学習対象との関わりについて、より質の高い気付きが生まれるよう、活動によって整理していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●見方・考え方を生かしている児童の具体的な姿を単元別に具体化し、年間を通して系統的な活動を積み重ねていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分自身の変容の記述については、発達段階に関係なく個人差があるため、概ね満足できるようにする手立てについて考える必要がある。

II-② 中学年分科会の実践

第3学年 社会科学習指導案

令和3年11月26日

3年2組41名

授業者 松木 貴太

1 単元名 「新宿区の移り変わり」(16時間)

2 単元の目標

新宿区の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して問いを見出し、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、比較したり関連付けたりして変化の傾向を考え、適切に表現することを通して、新宿区や人々の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、新宿区の移り変わりについて、主体的に学習問題を解決しようとし、区民の一人として新宿区の発展を考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして情報を集め、読み取り、区や人々の生活の移り変わりの様子について理解している。 ②調べたことを年表にまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	①駅周辺による違いに着目して、問いを見出し、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、区の移り変わりや人々の生活の移り変わりの様子について考え、表現している。 ②調べたことを相互に関連付けたり、区の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして区全体の変化の傾向を考えたり、学習したことを基に、区の発展を考えたりして、表現している。	①区の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②新宿区や人々の様子の移り変わりについて学んだことを基に、区民の一人として区の発展について考えようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、学習指導要領に第3学年の内容(4)に基づいて設定する。

(4)市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

アの(ア)市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

アの(イ)聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イの(ア)交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

(2) 教材について

本単元では、社会科の歴史的な内容を扱う最初の学習である。交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなどの視点から具体的に区や人々の生活の様子の変化(移り変わり)を捉えさせたい。その上で区全体の変化の傾向を考え、表現することを通して、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解することが大切である。そのため、第1単元で学習した区の様子を基に、時間の経過により変化して現在の区の様子につながっていることを捉えることが有効である。時期の区分では、昭和などの元号も用い、公共施設を取り上げる際には、租税の役割についても触れるようにしたい。

単元の導入では、第1単元で学んだことを生かせるように構成する。現在の新宿駅周辺は昔と今では違っていることが捉えられるようにする。さらに、様子が変わっているのは、新宿駅周辺だけなのか、他の地域はどうかなど児童から疑問が生まれるようにしていく。調べる段階では、副読本を中心に、違いを比較する視点ごとに移り変わりを調べるとともに、人々の生活の様子も変わってきたことに気付くことができるよう、当時の様子を地域の人に聞き取り調査したり、新宿歴史博物館に見学に行き、調べる活動も取り入れたい。まとめる段階では、区や人々の生

活の様子の変化を関連付けて年表にまとめる。学んだことを生かしながら、区民の一員として、区の発展や未来を考える活動を設定し、将来を担う区民の一人としての自覚と愛情をもてるようにする。

5 単元構想

【本単元につながる児童の学習経験】

前小単元「地域の生産の仕事」では、働く人へのインタビューやグラフや資料の読み取りなど、地域の生産の仕事について調べていく中で、社会的事象についての調査方法を学んできた。また、本単元のつかむ過程では、第一単元「新宿区の様子」で学んできた様子や調べる視点や作成した新宿区地図を活用して、時間の経過とともに変わってきた区の様子や人々の生活に着目できるようにしたいと考える。

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫	子供の主体的な問題解決の側面から			
	過程	想定される「問い」	子供に働かせたい 見方・考え方	
<p><もんだいいしき></p> <ul style="list-style-type: none"> 新宿区ができたころと東京オリンピックがあったころと現在の新宿駅前や人々の様子を比べて気付いたことを話し合うことを通して、問題意識を高めるようにする。 <p><みとおす></p> <ul style="list-style-type: none"> 予想から調べることを整理して、学習計画を立て学習計画ボードを常時掲示する。その際、第1単元「新宿区の様子」で学んだことを活かし、予想や調べたいことを明確にして見通しを立てる。 <p><えらぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史博物館の見学を設定し、児童が一人一台タブレットを活用して、必要な情報を選んで写真や動画を資料ボックスに入れて紹介し合う。 これからの新宿区について、区長や区民の願いを基に、考えた未来の新宿区の姿を選択し「新宿区未来プロジェクト」として、地域協働学校の〇議員さんに伝える。 <p><まなびあう></p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットで撮った写真を送り合ったり、全体の前で共有したりして、追究意欲を高められるようにする。 自分たちが新宿区の未来に向けて考え、話し合い、考えたことを発信して、自分の考えを高められるようにする。 	つかむ	<p><学習問題をつかむ問いの例> 新宿駅あたりはどのようにかわったの だろう。</p> <p><学習問題をつかむ問いの例> 新宿区の他の地域の様子はどのよう なだろう。</p>	<p>← 駅前の様子や 地域の様子の 違いに着目し て →</p>	
	学習 問題	私たちの住んでいる新宿区の様子は、		
	し ら べ る	<p><しらべる問い> 交通はどのように変わってきたの だろう。 土地の使われ方はどのように変わ ってきたのだろう。 公共施設の場所や数はどのように 変わってきたのだろう。 新宿区に住んでいる人の数はどの ように変わってきたのだろう。</p>	<p>← 交通や土地 の使われ方 や公共施設 や人口の違 いに着目し て →</p>	
		<p><特色や意味を考える問い> 3つの時期の区の様子は、それぞ れどのような様子なのだろう。</p>	← 事象を相互に 関連付けて考 えて →	
		<p><しらべる問い> 人々のくらしはどのように変わ ってきたの だろう。 洗濯板はどのように使うの だろう。 生活の道具はどのように変わ ってきたの だろう。</p>	← 人々の生活や 道具の使い 方と家賃の 違いに着目 して →	
	ま と め る	<p><特色や意味を考える問い> 3つの時期の人々のくらしの様 子は、それ どのような様子なの だろう。 わたしたちが生活する新宿区 の様子や人々の くらしは、どの ように変わ ってきたの だろう。</p>	生活の様子 の変化を区 の様子の 変化と 関連付 けて考 えて →	
	つ な が る	<p><社会に見られる課題をつかむ 問い> 新宿区への願いは今と昔では どのように 変わった の だろう。 <発展や関わり方を考える 問い> これからの新宿区は、どの ように 変わっ てい くの だ ら う。</p>	区長や区民 の願いに 着目して 比較 して考 えて →	
	子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価			

【研究内容指す子供像】 子供の学びを確かめる評価の工夫 ○事象を相互に関連付けて	○1 時間ごとの問いについて分かったことや考えたこと、次の学習に向けて必要なことを振り返る ○新宿区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを学び方カードを活用し、主体的に追究する姿に照らして自身の学び方を振り返り、学習段階ごとに振り返る機会を設け、次の段階への見通しをもち、学習を進める ○時代ごとの区の様子を考えたり、分区の様子の変化と人々の生活の様子の変化を関連
付て、時期ごとの様子を比較して、区全体の変化の傾向を考えたりしている子供。 ○学んだことを基に、区民の一人として区の発展について考えようとする子供。	

社会生活の確かな理解の側面から	
見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
・新宿駅周辺の3つの時期の写真・交通の写真(昭和22年)	新宿駅周辺は時間の経過とともに合わせまちの様子(交通、建物)が変わってきた。
・戸塚・落合地区の変化の写真 ・昔の生活の再現映像	他の地域のまちの様子も変わってきた。

どのように変わってきたのだろう。

・3つの時期の交通網の地図、 ・3つの時期の四谷新宿通りの写真・米世さんの話(動画)	路面電車がなくなり、地下鉄や電車、道路が作られて、交通の様子も変わり、まちの様子も変わってきた。
・3つの時期の土地利用の地図 ・3つの時期の土地利用の写真	工場が減ったり、住宅地や商業地になったりして土地の使われ方が変わり、まちの様子も変わってきた。
・3つの時期の小中学校分布地図 ・2つの時期の区役所と四谷小学校の写真	土地の使われ方や交通の様子の変化にもなって、区役所が税金を使って、学校などの公共施設が作られた。そして、まちの様子も変わってきた。
・新宿区の人口変化のグラフ、 ・外国人人口変化のグラフ	人口は、オリンピックのころまでに急増して、その後も増えている。特に外国人の人口も増えた。人が増えると、住宅地、学校が増え、まちの様子も変わってきた。
・新宿区の年表(ワークシート)	新宿区の様子は、交通網が広がり、人口が増えて住む人が増えた。だから学校や公共施設も増えた。最近では、外国人も増えている。
・歴史博物館展示の写真、再現映像、絵、学芸員の話	新宿区ができたころから電化製品が広まってきた。今は、インターネットも広まり、さらに便利になってきている。
・洗濯板、たらい、洗濯板の使い方(資料)	洗濯板は人の力で汚れを落とす。昔の人の知恵による。しかし、力も時間も必要である。昔の家事は今と比べて時間がかった。
・照明器具や洗濯の道具の変化の写真、くらしの様子の絵	生活の道具は、電気力を使って、人の力も少なく、楽に、便利になってきた。

新宿区は、交通網が広がり、住宅がふえて、新宿駅の前は人でにぎわい、最近外国人もふえました。それに合わせて道具や区民のくらしも変わってきました。この70年くらいで、みんなが住みやすく、くらしやすい世の中に大きく変わってきました。

・「新宿区ができた当時の区民や区長の願い」(文章)「大新宿区の歌」(歌詞)、新宿区総合計画と区役所の人の話	これからの新宿区はもっと外国人が増え、にぎやかになっていくと思います。日本人も外国人もみんながなかよく笑顔でくらすような新宿区になってほしいです。
・新宿区の移り変わり年表、「大新宿区の歌」(歌詞)	みんなの願いがつながってきて新宿区が発展したのだと思いました。新宿区がどのように変わるか楽しみです。

【研究内容2】 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【経過で見ると】
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前や交通、公共施設、人口の様子の違いに着目できるよう3つの時期の写真や地図、グラフなどを比べて気付いたことを話し合う活動を行う。 ・人々の生活の違いに着目できるように、生活の再現動画や博物館の人へのインタビューで調べる活動を行う。 ・生活の道具の違いに着目できるように、年表に整理し、過去の道具をタブレットで写真を撮って、道具の移り変わりを視覚化する活動を行う。 ・交通の違いや公共施設の違いに着目できるように、3つの時期の交通網の地図や小中学校分布の地図や写真からどこに着目したかが分かるように丸印を書き込んだり数を比べたりする活動を行う。

【つながりで見ると】
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの時期の区の様子を年表にまとめ比較することで、くらしの移り変わりにもつながっていることを視覚的に捉えられるようにする。

【比較・分類・関連・総合して考える】
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの時期の違いを区の様子の変化と生活の様子の変化の違いを比較して考え、関連付けて年表にまとめる。 ・全体の区の様子の変化と生活の変化を話し合い、関連付けて年表に付け加える。 ・区長や区民の願いを調べ、比較し、話し合う活動を行う。

指導と評価の一体化を図る(教師が指導に生かす) 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの振り返りの記述から毎時知識の獲得状況を見取り、学び方カードによる振り返りの記述から主体的に学習を進めていこうとする態度を見取る。 ・最後に年表を教師が作り、変化についての理解状況を具体化することで、概念的知識の獲得状況を評価する。

6 単元の指導計画 (全16時間)

過程	ねらい	主な学習活動 (○) 評価につながる学習活動 (●) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
つ	新宿区ができたころと東京オリンピックがあったころと現在の新宿駅前の様子を比べて気付いたことを話し合うことを通して、新宿駅前の様子が変わってきたことを理解する。① (本時)	○現在の新宿駅の写真から「区の様子」の学習を振り返る。 ◆新宿駅あたりはどのようにかわったのだろう。 ○現在、区ができたころ、東京オリンピックのころの新宿駅周辺の写真を比べて気付いたことを話し合う。 ・新宿駅あたりは、どんどん建物がが増えて高層ビルが建った。様子が変わってきた。 ●疑問や知りたいことをノートに書く。 ・70年でこんなに変わったなんてびっくりした。ほかの場所はどのようなだろう。	◎新宿駅周辺の3つの時期の写真 (昭和22年、昭和39年、現在)、 □1学期に行った「新宿区の様子」の学習を振り返る。現在と比べてどうかから考え始め、どの時期と比べてどうなのか分かるよう板書する。 【知技①】 駅前の建物や人の様子について調べ、新宿駅周辺の変化の様子について理解している。(ノート)
か む	ほかの地域の様子や人々のくらしの変化に気付き、疑問に思ったことをもとに学習問題を設定する。②	◆新宿区以外の地域の様子や人々のくらしはどうだろう。 ○他の地域の様子や人々のくらしの変化について調べる。 ・新宿区に畑があるとは思わなかった。 ・子供の遊びや服装や家の様子もちがう。 ●疑問をノートに書き、学習問題を設定する。	◎戸塚・落合地区の写真(昭和33年と現在)、昭和33年頃がわかる再現映像、新宿区の地図、遊ぶ子供たちの写真 □児童の疑問を分類してキーワードを出して学習問題をつくるようにする。
		わたしたちの住んでいる新宿区の様子は、どのように変わってきたのだろう。	【思考①】 駅周辺の様子の時期による違いに着目して、区や人の移り変わりについて問いを見出している。(ノート)
調 べ る	第一単元で区の様子をまとめた地図を基に学習問題について予想するとともに、予想を分類して何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。③	○区の様子で学習したことを生かして予想する。 ・家や店が多くなったのは、【土地利用】 ・学校も増えたのではないか。【公共施設】 ・地下鉄や電車がなくなったはず。【交通】 ○予想を分類し、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。 ●つかむ段階の学習を振り返りカードに記入する。 ・くらしがどう変わったか、おばあちゃんに聞いてみたい。また、歴史博物館で調べたい。	◎現在の新宿区の写真と地図 □前時に作成した疑問や学習問題はカード化して、予想に生かせるようにしておく。 【態度①】 学習問題について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。(学び方カード)
調 べ る	新宿区内の主な鉄道や道路の時期による違いについて地図など資料を使って調べ、交通の様子の変化について理解する。④	◆交通はどのように変わってきたのだろう。 ○新宿区内の交通の変化について調べる ・昭和22年は道路に線路があった。(都電) ・地下鉄など線路が増えた。 ●交通の変化についてのまとめをノートに書く。 ・電車や道路が作られて交通の様子も変わり、みんなが使うようになってまちの様子も変わってきた。	◎3つの時期の交通網の地図 ◎3つの時期の四谷通りの写真 □3つの時期の交通網の地図や新宿駅の写真には、どこに着目したかが分かるように丸印などの書き込みをさせるようにする。 【知技①】 交通の時期による違いについて地図などの資料から情報を集め読取って、新宿区交通の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
調 べ る	新宿区内の土地利用について地図など資料を使って調べ、土地利用の様子の変化について理解する。⑤	◆土地の使われ方はどのように変わってきたのだろう。 ○新宿区内の土地利用について調べる。 ・昭和22年に比べて駅の周りには店が増えた。 ・昭和39年に比べて駅の周りに建物が増え交通網が広がった。 ●土地利用の変化についてのまとめをノートに書く。 ・工場が減ったり、住宅地や店が多い地域に変わったりして土地の使われ方が変わり、まちの様子も変わってきた。	◎3つの時期の土地利用の地図や写真 □地図や写真に気付いたことを書き込みながら、3つの時期を比べて変化を捉えるようにする。 【知技①】 土地利用の時期による違いについて地図などの資料から情報を集め読み取って、新宿区土地利用の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
調 べ る	区内の公共施設について地図など資料を使って調べ、新宿区の公共施設の分布の変化について理解する。⑥	◆公共施設はどのように変わってきたのだろう。 ○主な公共施設の分布や数の変化について調べる。 ・昭和22年は学校が少なかったけれど、昭和41年には増えている。そして、また少し減っている。 ●公共施設の変化についてのまとめをノートに書く。 ・学校などの公共施設はだんだん増えていき、平成から数が減った。区役所では住みやすいように税金によって賄われている。	◎3つの時期の小中学校分布の地図 区役所と四谷小学校の今と昔の写真 □地図から小中学校の数を比べて、分布の傾向を捉えるようにする。 【知技①】 公共施設の分布の時期による違いについて地図などの資料から情報を読み取って、公共施設の分布の移り変わりの様子を理解している。(ノート)
調 べ る	新宿区の人口の変化について棒グラフなどの資料を使って調べ、人口の移り変わりの傾向を理解する。⑦	◆新宿区に住んでいる人の数はどのように変わってきたのだろう。 ○新宿区の人口や外国人人口の変化について調べる。 ・オリンピックのころが一番多い。 ●人口の変化についてのまとめをノートに書く。 ・人口は、オリンピックの頃に急に増えて一度減ったけれどまた増えている。外国人も増えてきた。	◎新宿区の人口の棒グラフ ◎外国人人口のグラフ □グラフに矢印や丸印を書き込み、人口の増減や一番多い時期などを捉えるようにする。 【知技①】 人口の時期による違いについてグラフなどの資料から情報を読み取り、人口の移り変わりの様子を理解している。(ノート)

調べる	調べたことを年表にまとめ、時期ごとの新宿区の様子相互に関連付けて移り変わりを考える。⑧	◆3つの時期の区の様子は、それぞれどのような様子なのだろう。 ○3つの時期ごとの区の様子について、交通、土地利用、公共施設、人口について、分かったことを年表に整理する。 ○年表を振り返って、他にも変わったことはないか考える。 ・使っている道具やくらしも変わっていきそう。 ●同じ時期の出来事に関連付けてその時期の様子を考える。	◎新宿区の年表（ワークシート） □これまでの学んだことをもとに年表（ワークシート）にまとめる。 【思考①】時期ごとの様子を比較し、時期ごとの新宿区の様子の特徴を考え、新宿区が移り変わってきたことを考えている。（年表・ノート）
調べる	人々の生活について写真や再現映像などで調べ、生活の様子の変化を捉える。⑨⑩	◆人々のくらしはどのように変わってきたのだろう。 ○くらしの変化の様子について歴史博物館の方の話を聞いたり、資料を使ったりして調べ、くらしの変化について話し合う。 ●人々のくらしはどのように変わったかをノートに書く。 ・オリンピックのころに電化製品が広まったことで、みんなが使い、便利になり始めた時期だと分かった。 ・学習計画を見直している。	◎当時を再現した映像や写真、現在のくらしの絵、歴史博物館の方の話（GT） □歴史博物館の見学を行う。古い道具の観察や学芸員の方へ質問により調べる。 【知技①】生活の様子の違いについて写真などから情報を集め読み取り、人々の生活の移り変わりの様子について理解している。（ノート）
調べる	洗濯板を使う体験を通して、気付いたことを話し合い、くらしの変化について調べる計画を立てる。⑪	◆洗濯板（古い道具）はどのように使うのだろう。 ○洗濯板を使ってみて、気付いたことを話し合う。 ・ギザギザのところがすごい。今はやっぱり楽だ。 ●道具の変化はどのように調べられそうかを考え、学習問題を見直す。 ・おばあちゃんに聞いてみたら使っていたときの様子がもっとわかりそうです。	◎洗濯板、洗濯板の使い方カード □体験したことも生かし、道具の変化をどのように調べたら解決できそうかを学級全体で話し合う。 【態度①】道具の変化について学習を振り返ったり、学習問題を見直したりしている。（ノート）
調べる	生活の道具の移り変わりに関して資料や聞き取り調査をもとに調べ、生活の道具の変化を理解する⑫	◆生活の道具はどのように変わってきたのだろう。 ○いくつかの古い道具の変化について資料をもとに調べ、くらしの変化について話し合う。 ●生活の道具がどのように変わったかを年表に整理する。 ・昔の道具はかなり人の力が必要だった。今は、ご飯を炊くのも、洗濯も自動。電気の手も大きい。	◎道具年表、道具の変化の写真（明かり、洗濯機）、古い道具の実物 □昔と比べて今の時代に合ったよさがあるかを考えるようにする。 【知技①】生活の道具の違いについて資料や聞き取り調査から情報を集め、生活の道具の変化を理解している。（ノート）
まとめる	時期ごとの道具と生活の変化を年表で比較することで、道具と生活の様子の変化について考える。⑬	◆3つの時期の人々のくらしは、それぞれどのような様子なのだろう。 ○区の変化や人々のくらしの変化の様子について調べたことを年表にまとめる。 ●年表にまとめたことから人々の生活の移り変わりについて分かったことをノートに書く。	□生活の様子の変化を区の様子の年表に合わせて、道具の移り変わりを位置付け関連付けるようにする。 【思考①】年表の時期ごとの様子を比べ、道具やくらしの変化を考える。（年表・ノート）
まとめる	まとめた年表をもとに、学習問題に対して自分の考えをまとめる。⑭	◆わたしたちが生活する新宿区の様子や人々のくらしは、どのように変わってきたのだろう。 ○まとめた年表をもとにしながら、学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 ●新宿区や人々のくらしがどのように変わってきたかをノートに書く。 ・新宿区のまちの様子や人々のくらしは、この70年くらいで大きく変わった。みんなが住みやすく、くらしやすい世の中になってきた。	◎新宿区や人々の生活の年表、写真、「大新宿区の歌」（歌詞） □これまで調べた変化の様子をまちの様子や人々のくらしと関連付けたり比較したりして考えるようにする。 【思考②】区の変化と道具の変化の様子を関連付けて変化の傾向を考え、表現している。（ノート） 【知技②】区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、大都市へと移り変わってきたことを理解している。（ノート）
つなげる	区ができた頃の区民や区長の願いと現在の区が目指すまちの姿を比較し区発展を考えることができる。⑮	◆新宿区への願いは今と昔ではどのように変わったのだろう。 ○「大新宿区の歌」や総合計画に込められた願いを考える。 ・昔も今も区をよりよくしていきたいという願いがある。 ○人口の変化や国際化、区の施策などから新宿区がどのように変わっていきそうかを話し合う。 ・今後も新宿区に住む外国人は増えるから国際化する。 ●区がどのようになってほしいか、自分の考えをまとめる。 「これからの新宿区はもっと外国人が増え、にぎやかになっていくと思います。日本人も外国人もみんながなかよく笑顔でくらすような新宿区になってほしいです。」	◎「新宿区ができた当時の区民、区長の願い」（文章資料）、「大新宿区の歌」（歌詞） ◎新宿区総合計画、区役所の人の話 □区の施策を知り、これまでの学んだことを生かして、これからの新宿区の様子を考えるようにする。 【思考②】学んだことを基に、区発展を考え、表現しようとしている。（ノート）
つなげる	「大新宿区の歌」の5番を考えることを通して、区発展について区民の一人として願いをもち、協力していこうとすることを話し合い、区議会議員Oさんに伝える。⑯	◆これからの新宿区は、どのように変わっていくのだろう。 ○「大新宿区の歌」の続きを考え、発表し合う。 ・「世界」や「にぎやか」という歌詞は入れたい。なぜなら外国人の人口も今後も増えていくだろうから。 ○考えたことを区議会議員Oさんに伝える。 ●学び方カードに単元の振り返りを記入する。 ・新宿区はみんなの願いによってつながってきたのだと思いました。新宿区がどのように変わるか楽しみです。	◎新宿区の移り変わり年表、 ◎「大新宿区の歌」（歌詞） □区歌の続きとして「キーワード」を考えるようにする。考える際には、なぜそれを選んだかを説明できるようにする。 【態度②】学んだことを基に、区民の一人として区発展を考えようとしている。（ノート・学び方カード）

7 本時の学習 (1/16時)

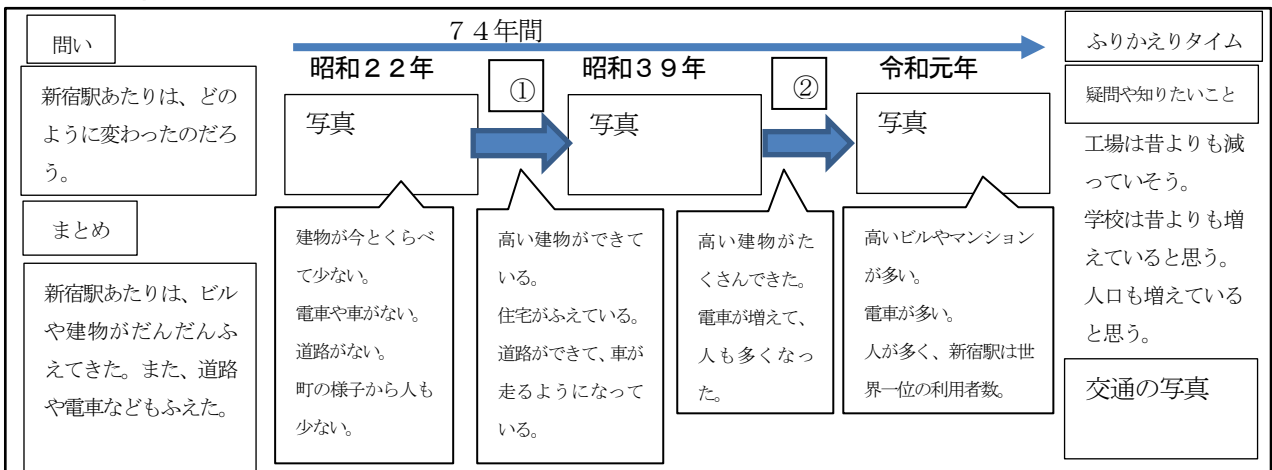
(1) 本時のねらい

新宿区ができたころと東京オリンピックがあったころと現在の新宿駅前の様子を比べて気付いたことを話し合うことを通して、新宿駅前の様子が変わってきたことを理解する。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入 (5)	<p>○現在の新宿駅の写真から「区の様子」の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビルや建物がたくさんある。 ・人がたくさん集まる。→ギネス世界一の乗車駅 ・電車やバスがとても多い。 ・今と昔では、町の様子が違うかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">新宿駅あたりは、どのように変わってきたのだろう</div>	<p>◎現在の新宿区の写真</p> <p>□1学期に行った「新宿区の様子」の学習を振り返るために、建物や交通の様子が分かる資料を提示する。</p> <p>□今と昔の町の様子がちがうことに関心をもたせるために、区ができたころの資料を提示する。</p>
自分タイム (10)	<p>○現在の新宿駅周辺と区ができたころの新宿駅周辺の写真を比べて気付いたことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなビルや建物が今と比べて少ない。 ・道路がなく、車も通っていない。 ・電車は、路面電車で今よりも電車に乗る人が少ない。 	<p>◎新宿駅周辺の2つの時期の写真(昭和22年、現在)</p> <p>□2つの時期の変化を捉えるために、昭和22年の写真と現在の写真を比べるように伝える。</p>
みんなタイム (10)	<p>○現在の新宿駅周辺と区ができたころの新宿駅周辺の写真を比べて気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビルや建物が少ない。 ・電車が今よりも少なく、路面に電車が走っていた。 ・2つの時期の間にも何か変化がありそう。 	<p>◎新宿駅周辺の2つの時期の写真(昭和22年、現在)</p> <p>□写真のどこを見て考えたのか全員が理解できるように写真を投影する。</p> <p>□2つの時期の変化が分かるように板書する。</p>
みんなタイム (15)	<p>○東京オリンピックのころの写真と区ができたころや、現在の新宿駅周辺の写真を比べて気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いビルができてはじめています。 ・道路ができて、車が多く走っている。 ・高いビルやマンションが多くなった。 ・電車が増えて、便利になったことで人も増えた。 	<p>◎新宿駅周辺の3つの時期の写真(昭和22年、昭和39年、現在)</p> <p>□ここでは、①②と順番に比較する。</p> <p>□写真のどこを見て考えたのか全員が理解できるように写真を投影する。</p> <p>□3つの時期の変化が分かるように板書する。</p>
ふりかえりタイム (5)	<p>○新宿駅周辺の変化の様子のまとめについてノートにまとめ、さらに疑問や知りたいことを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">新宿駅あたりは、ビルや建物がだんだんふえてきた。また、道路や電車などもふえた。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は昔よりも増えていると思う。 ・外国の人をまちで見かけるから、人口も増えていると思う。 	<p>【知技①】3つの時期の新宿駅周辺の建物や人の様子について調べ、新宿駅周辺の変化の様子について理解している。(ノート)</p>

(3) 本時の板書計画



8 参考資料

【第1時資料】3つの時期の写真

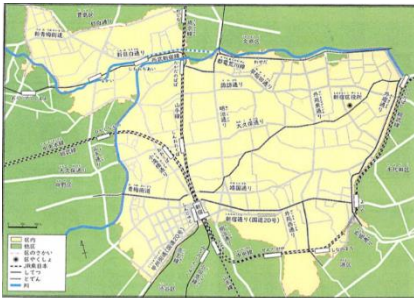


昭和22年(1947年)
新宿区ができたころ

昭和39年(1969年)ごろ
東京オリンピック

現在(令和元年・2019年)

【第4時資料】新宿区の交通の様子の変化の資料



昭和22年(1947年)新宿区ができたころ

昭和39年(1969年)ごろ東京オリンピック

【第8時の年表】3つの時期を比べて新宿区の移り変わりの様子を年表にまとめる

項目	昭和22年(1947年)	昭和39年(1969年)	現在(2019年)
人口	246,972	412,016	270,048
人口密度	約1,000人/ha	約1,500人/ha	約1,800人/ha
産業	主に農業・林業	小売業・サービス業	金融・情報産業
交通	徒歩・自転車	バス・電車	電車・バス・タクシー
生活	自給自足の生活	消費生活	高度消費生活

項目	昭和22年(1947年)	昭和39年(1969年)	現在(2019年)
人口	246,972	412,016	270,048
人口密度	約1,000人/ha	約1,500人/ha	約1,800人/ha
産業	主に農業・林業	小売業・サービス業	金融・情報産業
交通	徒歩・自転車	バス・電車	電車・バス・タクシー
生活	自給自足の生活	消費生活	高度消費生活

【第13時の年表】3つの時期の道具と生活の変化を比べて年表にまとめる

項目	昭和22年(1947年)	昭和39年(1969年)	現在(2019年)
照明	電球	蛍光灯	LED
衣	綿織物	化学繊維	機能性繊維
食	自給自足	加工食品	外食・冷凍食品
住	木造住宅	コンクリート住宅	高層ビル

項目	昭和22年(1947年)	昭和39年(1969年)	現在(2019年)
照明	電球	蛍光灯	LED
衣	綿織物	化学繊維	機能性繊維
食	自給自足	加工食品	外食・冷凍食品
住	木造住宅	コンクリート住宅	高層ビル

9 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆問い 【】 評価規準	観察対象児童の学習過程		教師による考察
		A児	B児	
1時	<p>○今の新宿区周辺と昭和22年の写真を比べる。</p> <p>◆新宿駅のまわりは、今と昔でどのようにちがうのだろう。</p> <p>○昭和39年、現在の新宿区西口の駅の移り変わりの写真を比べる。</p> <p>○まとめと振り返りを書く。</p> <p>【知技①】</p>	<p>・「昭和22年と令和元年はぜんぜんちがう。」</p> <p>・「大きなビルや建物ができた。」</p> <p>・新宿駅のまわりは、昔は、たて物が少なかったけど、今は大きなビルやたて物がとても多くなった。</p>	<p>・「令和元年は建物が敷き詰められているけど、昭和22年は、建物と建物の中に隙間がある。」</p> <p>・「交通がすごく少ない。」</p> <p>・新宿駅のまわりは大きな建物ができた。</p>	<p>・資料を3つの時期の写真に絞り、1枚ずつ比較したことで、児童が考えやすく、様々な考えを児童が記述することができた。</p> <p>・タブレットで資料を配布したことで、3つの時期を並べることができ、左右に新宿駅前の様子の移り変わりを動かしやすいので、資料が比較しやすくなった。</p>
2時	<p>◆ほかの地いきの様子は、今と昔でどのようにちがうのだろう。</p> <p>○四谷地域、落合地域、牛込地域の様子をそれぞれ比べて資料から読み取り調べ、ノートに書く。</p> <p>○調べたことを基に、話し合い、学習問題をつくる。</p> <p>【思考①】</p>	<p>・今の四ツ谷駅には電車がたくさん通ってるけど、昭和22年は、路面電車がなかった。</p> <p>・学習問題をつくる際に、「今と昔のちがいがいい」と発言。</p> <p>・学校や公共施設が昔よりもふえていると思う。</p>	<p>・「落合地域は、今と比べて、田んぼや緑がたくさんあった。」</p> <p>・人が多くなったと思う。</p>	<p>・前時の新宿駅のまわりの学習から、「ほかにもかわったことがありそう」「変わったのは新宿駅のまわりだけではなさそう」という児童の発言から本時の学習に入ることができた。</p> <p>・副読本の資料の他の地域（四谷、落合、牛込）の移り変わりを調べる学習は、児童の疑問だけでは補完できない観点を出すためにとても有効であった。</p>
3時	<p>◆学習問題について予想してみよう。</p> <p>○区の様子で学習したことを生かして予想する。</p> <p>○予想を分類し、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。</p> <p>○つかむ段階の学習を振り返りカードに記入する。</p> <p>【態度①】</p>	<p>・「建物や大きなビルが増えたから、人もとても多くなったんじゃないかな。」</p> <p>・新宿区は今と昔で街の様子が変わっていることが分かった。もっとくわしく調べてみたい。</p>	<p>・「大きなビルだけではなく、お店が増えたと思う」</p> <p>・今と昔でまちの様子がぜんぜんちがった。</p>	<p>・第1時で、他にも変わったことはないか、記述していたため、児童は学習問題に対する予想をたくさん書くことができていた。</p> <p>・オクリンクで過去の資料を容易に振り返ることができるため、タブレットでの新宿区の移り変わりの資料配布はとても有効であった。</p>
4時	<p>◆新宿区の交通は、今と昔でどう変わったのだろう。</p> <p>○新宿区内の交通の変化について調べる</p> <p>○交通の変化についてのまとめをノートに</p>	<p>・「昭和22年は、地下鉄はなかったけど、昭和39年には地下鉄の駅ができた。」</p> <p>・新宿区の交通はどんどん進化している。</p>	<p>・「今は、車や電車がたくさん走っているけど、昭和22年は車や電車はとても少なかった。」</p> <p>・高速道路が増え、地下鉄が追加された。</p>	<p>・授業の最初に、現在の新宿区の交通について振り返ることで、昔の電車、バス、道路、車などの様子を調べる必要性がでて、交通の変化に着目することができた。</p>

	書く。 【知技①】	例えば、バスや車が 多くなったことで 高速道路ができた ことです。		
5時	◆新宿区の土地の使われ方は、今と昔でどう変わったのだろう。 ○新宿区内の土地利用について調べる。 ○土地利用の変化についてのまとめをノートに書く。 【知技①】	・「昭和22年よりも昭和39年は、たて物やアパートが増えた。」 ・新宿区の土地の使われ方は、何かが増えたり減ったりしている。例えば、昭和22年には、建物が少なかったけど、昭和39年には、多くなってるし工場が多くなったのが少なくなったりするから、ずっと新しいものができるわけではない。	・「お店が新宿駅のまわりにかたまっている。」 ・「工場が昔は散らばっていたけど、だんだんまとまってきた。」 ・新宿区は、昔は広がっていた工場が今はまとまった。	・授業の最初に、現在の新宿区の土地の使われ方について、副読本の地図を使って確認することで、昔のお店・住宅・公園・工場などの様子について調べることができた。 ・第1単元「新宿区の様子」の学習で、落合地域や牛込地域に工場が多いことを学習していたため、昔の地図でも2つの地域の工場の分布について重点的に見ている児童が多かった。
6時	◆新宿区の公きょうしせつは、今と昔でどう変わったのだろう。 ○主な公共施設の分布や数の変化について調べる。 ○公共施設の変化についてのまとめをノートに書く。 【知技①】公共施設の分布の時期による違いについて地図などの資料から情報を読み取って、公共施設の分布の移り変わりの様子を理解している。(ノート)	・「学校の数は、昭和41年には、増えて現在は減っている。」 ・公共施設(学校)は増えたり減ったりしている。	・「学校の数は今は減っている。」 ・昭和41年に学校が増えて、令和元年には、学校が減った。	・3つの時期の学校の数を数える活動があることで、公共施設の違いを把握しやすくなった。 ・児童が学校の増減について理解を深められたことで、「人の数が関係ありそう」という発言をした児童がおり、人口の学習の必要性を生み出すことができた。
7時	◆新宿区の人口は、今と昔でどう変わったのだろう。 ○主な公共施設の分布や数の変化について調べる。 ○公共施設の変化についてのまとめをノートに書く。 【知技①】	・「新宿区の人口が増え始めたのと同時に、外国人の人口も増えてきている。」 ・新宿区の人口は、外国人の人口とちがって、増えたり減ったりしている。	・「新宿区の人口は昭和40年が一番多い。」 ・新宿区の人口は、増えたり減ったりしている。	・公共施設の学習で、人口についても触れていたため、児童は人口の増減から人口の移り変わりの傾向を、理解がしやすかったように感じた。
8時	◆3つの時期の区の様	・仕事などで、いろい	・昭和から令和まで、交	・3つの時期ごとの区の様

	<p>子は、それぞれのような様子なのだろう。</p> <p>○3つの時期ごとの区の様子について、交通、土地利用、公共施設、人口を関連付けて考え、分かったことを年表に整理する。</p> <p>○年表を振り返って、他にも変わったことはないか考える。</p> <p>【思考①】</p>	<p>ろな場所に行ったりして、高速道路や駅もたくさんできた。</p>	<p>通、土地、公共しせつがたくさんふえて、はってんした。</p>	<p>子についてまとめる際に、同じ年表を投影して、年表の見方を指導したことで、ほとんどの児童はまとめをスムーズに書くことができていように感じた。</p> <p>・いくつかの視点を関連付けてまとめを書くことが初めてだったので、個別に指導が必要であると感じた。</p>
9・10時	<p>◆人々のくらしはどのように変わってきたのだろう。</p> <p>○人々の生活について、写真や再現映像などで調べ、生活の様子の変化を捉える。</p> <p>○人々のくらしはどのように変わったかをノートに書く。</p> <p>【知技①】</p>	<p>・昔の文字は複雑。荷物を運ぶときは、馬で運んでいた。畑は昔のほうが断然多い。昔はちえをはたらかせて道具を作っている。</p>	<p>・昔の家は小さくてたたみがひいてある。電車には、今と同じでつりかわがある。キッチンが玄関の近くにあって、今よりもせまかった。</p>	<p>・歴史博物館で、実際に道具を見たり、体験したり、当時の資料を見たりする機会はとても重要であると感じた。見学前に、見学の視点を伝えることで、今と昔の違いに注目して見学できて、生活の様子と道具の変化を捉えることができた。</p>
11時	○歴史博物館の見学			
12時	<p>◆生活の道具はどのように変わってきたのだろう。</p> <p>○いくつかの古い道具の変化について資料をもとに調べ、くらしの変化について話し合う。</p> <p>○生活の道具がどのように変わったかを年表に整理する。</p> <p>【思考①】</p>	<p>・「ランプよりもLEDライトは明るくて、長持ちするから便利。」</p> <p>・「どの道具も今と昔では便利さが違う。今がすごく便利。」</p> <p>・生活の道具を今と昔で比べるととても便利になっている。</p>	<p>・「歴史博物館で見た手回し洗濯機よりも、今の洗濯機の方が早く乾くし便利。」</p> <p>・道具はとても便利になっている。例えば、黒電話がスマートフォンになったり、手回し洗濯機が洗濯機になったりしている。</p>	<p>・前時の学習で、歴史博物館で見た道具以外にも今と昔で違う道具はないか考える児童がいたので、その発言から問いを作ることができた。</p> <p>・今と昔の道具を比べる際には、便利さについて考えている児童がとても多かった。</p>
13時	<p>◆3つの時期の人々のくらしは、それぞれのような様子なのだろう。</p> <p>○区の変化や人々のくらしの変化の様子について調べたことを年表にまとめる。</p> <p>●年表にまとめたことから人々の生活の移り変わりについて分かったことをノートに書く。</p>	<p>・今ある物のほとんどは、昔にあった物より使いやすくなったものだから、今便利に使っている物は、昔の人がさいしょに発明してくれたからだと思うと、昔の人はすごいと思う。</p>	<p>・今と昔では、すごく変わっている。今は、便利なものが多くて、昔は便利なものが少ない。</p>	<p>・年表の見方を区の移り変わりの様子で学習していたので、まとめを書くことがとてもスムーズだった。</p> <p>・歴史博物館で実際に道具を見ていたので、今と昔の道具の違いをととてもよくまとめられていた。</p>

	【思考②】【知技②】			
14時	<p>◆わたしたちが生活する新宿区の様子や人々のくらしは、どのように変わってきたのだろう。</p> <p>○まとめた年表をもとにしながら、学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。</p> <p>○新宿区や人々のくらしがどのように変わってきたかをノートに書く。</p>	<p>・「まちの様子もくらしも今と昔ではぜんぜんちがった。」</p> <p>・新宿区は今と昔で比べて、高いビルや建物が増えたり、電車がとてもたくさん走るようになった。道具もすごく変わっていて、とても便利になった。</p>	<p>・「高いビルとかがすごくできて、まちが栄えた。」</p> <p>・昔は建物が少なかったけど、今は高いビルやお店がすごく多くて、栄えてきた。道具も今と昔で全然違って、今のくらしはとても便利だと思った。</p>	<p>・まちの様子やくらしの変化の年表が、今までの学習を振り返るのに、とても有効であったと感じた。</p> <p>・その一方で、年表の記述量が多く、情報を整理するのが難しく感じていた児童もいた。</p>
15時	<p>◆新宿区への願いは今と昔ではどのように変わったのだろう。</p> <p>○「大新宿区の歌」や総合計画に込められた願いを考える。</p> <p>○人口の変化や国際化、区の施策などから新宿区がどのように変わっていきそうかを話し合う。</p> <p>○区がどのようになってほしいか、自分の考えをまとめる。</p> <p>【思考②】</p>	<p>・歌や計画には、新宿区がこうなってほしい気持ちが書かれている。</p> <p>・<u>願いが似ているから、(私も)新宿区を大切にしていきたい。</u></p>	<p>・たぶんこれは(大新宿区の歌や総合計画のこと)新宿に対する願いとか思いだと思う。</p> <p>・<u>人のくらしがもっとよくなるように、公共しせつがたくさんできたらいいなと思いました。</u></p>	<p>・大新宿区の歌や総合計画には、新宿区の特徴や願いが込められていることに気付かせるために、文章を丁寧に読み取ることがとても有効であった。</p>
16時	<p>◆これからの新宿区は、どのように変わっていくのだろう。</p> <p>○「大新宿区の歌」の続きを考え、発表し合う。</p> <p>●学び方カードに単元の振り返りを記入する。</p> <p>【態度②】</p>	<p>・「東京の大きさを海に例えてる？」</p> <p>・山より広き武蔵野の国のみやこの中心に大新宿区わらいの町、電車は2分に1本必ず来る、駅のまわりは高いビル、戦争なく、だれでも安心新宿区。</p>	<p>・空より広き武蔵野の、国の中心に大新宿区、安心さ駅や道路集めてここに、いつも楽しい大新宿区。</p>	<p>・歌を考えることが苦手な児童がとても多く感じたので、今まで学習した、新宿区の特徴や自分の願いなど、考える視点を与えることで、区の発展について書くことができる児童が増えたように感じた。</p>

考察

- ・ 中学年では「地域とかかわり、共に考える子」を目指す児童像としている。A児は、(昔と今の)新宿区の移り変わりや生活の様子に移り変わりだけでなく、昔や今の願いを比較し話し合う中で、「昔と今は願いが似ているから、(私も)新宿区を大切にしていきたい」と区の未来を昔の区長、今の区長や自分と重ねて考える姿が見られた。B児は、新宿区の未来を友達と話し合ったあとで「人のくらしがもっとよくなるように、公共施設がもっとできたらいいなと思った。」と記述し、区発展に目を向け、地域協働学校委員Oさんの考えに共感して、自分も区民の一員として共に考える姿が見られた。
- ・ 目指す児童像の実際の背景にある指導は以下のポイントである。
 - ① 歴史博物館へ行き、実際に見学、体験したことが、自分の住む地域における生活の様子に移り変わりを実感的に理解し、新宿区への愛着をもつことにつながった。
 - ② 年表に調べたことを関連付けて考えたことが、区や道具の変化への理解を確かにし、地域への関心を高めることにつながった。
 - ③ 大新宿区の歌の続きを考えることで新宿区の未来に目を向けることができ、地域協働学校委員のOさんに考えを発信することで、区長や地域の人々の願いに共感しながら新宿区によりよい発展を考えることにつながった。

【1時(本時)の板書】



【資料から気付いたことを発表】



【資料をタブレットで配布】



第3学年 社会科学学習指導案

令和4年3月9日

3年1組40名

授業者 香取 桜子

1 小単元名 「火事から地域を守る」(8時間)

2 小単元の目標

地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に関連して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、地域の安全を守る働きについて学んだことをもとにして、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 消防施設・消防設備などの配置・緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 ② 調べたことを関係図や文にまとめ関係機関は相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。	① 消防施設・消防設備などの配置・緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。 ② 連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関の相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりして、表現している。	① 火災から地域の安全を守るための働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習した事を基に、火災から地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

4 教材について

大単元「地域の安全を守る」では、2つの小単元「事故や事件から地域を守る」「火事から地域を守る」の単元構成になっている。軽重のつけ方として、先に警察単元を重点的に扱い、その後の消防の単元に転移・応用できるように授業デザインを考えた。前小単元の警察で学んだ「もの」や「ひと」に着目して予想を整理し、学習計画を立てることができると考えた。また、大単元の中で軽重つけながらも同じ流れで学習することで、既習事項をいかすことができる単元構想を考えた。

本小単元を通しての子供の姿は「地域の消防団に共感し、これからの地域の安全を考える」である。本小単元で中心となる教材は、消防署と消防団など、様々な人々の協力による緊急時に対処する体制である。消防署が、24時間いつでも、緊急時に対処する体制をとっていることや火災防止に努めていることを消防署見学に行けない場合でも、ゲストティーチャーとして来て頂き、話を聞いたり、質問したり、見たりして主体的に追究できるようにする。地域住民が、消防団として、地域を火事から守るための取組として、休日にまで訓練したり、避難所開設訓練で簡易トイレや炊き出しなどを教えに来たりして、自分たちの力で地域を守っていることや消防署と協力して消火することに焦点化して教材化する。様々な人たちが協力して、火事から守る取組を関係図にまとめ、そこに自分を位置付けて、諸活動と地域の生活を関連付けてその意味を考えられるようにしたい。

さらに、消防団の人数の変化の事実や消防団長のKさんが今でも消防団を続けている話を通して、未来に目を向けて、自分たちにも協力できることを考えることができるようにさせたい。その際に、消防団の人達が、休日に訓練に取り組んだり、少年消防団の活動を支えていたりしている姿を通して、地域の安全を守り続ける意味を、地域の一員として共に考えさせるようにしたいと考える。最後に、四谷消防団団長のKさんをゲストティーチャーとして再度招き、自分たちにも協力できることを考えたことを発信することで、学習してきたことを基に、消防署や消防団の思いに共感しながら、地域のこれからの安全を考えることにつなげていく。

5 小単元構想

【本小単元につながる児童の学習経験】
 前単元「新宿区の移り変わり」では、第一単元「新宿区の様子」での既習内容を活かして、予想や学習計画を立てることができた。また、人口のグラフの読み取りや時間の経過とともに変わってきた区の様子や人々の生活に着目し調べ、資料を読み取る力を身に付けてきている。年表に比較・関連付けて考え整理することも学んできた。本単元では、警察署や消防署、地域、関係機関との人々の働きを把握するために、関係図に整理しまとめていく。

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫		子供の主体的な問題解決の側面から			
		過程	想定される「問い」	子供に働かせたい 見方・考え方	
<p><もんだいいしき> ・新宿区内の発生件数が180件なのに、全焼2件の事象のズレから、火事を防ぐことへの問題意識を高める。</p> <p><みとおす> ・小単元「事故や事件から地域を守る」で学習したことを生かして、予想や調べたいことを整理し、明確にして、追究の見通しを立てる。</p> <p><えらぶ> ・消防署の方や地域の消防団の方へ質問して、消防署や消防団が協力してどのような取組をしているのかを調べる。(ゲストティーチャーによる交流)</p> ・地域の施設や設備を一人一台端末で調べ紹介して、学級全体に伝える。(家庭学習) <p><まなびあい> ・学習したことを振り返りながら関係図にまとめ、関係図から気付いたことを学級全体で話し合い、自分の考えをまとめる。</p> ・防火について、自分たちができていることを考えて、地域の消防団Kさんに伝える。(ゲストティーチャー)	つかむ	<p><社会的事象と出合う問い> 新宿区では、どれくらい火事が起きているのだろう。</p> <p><学習問題をつかむ問い> なぜ、新宿区的全焼件数は2件なのだろうか。</p>	←	緊急時の対応、関わっている人の働きに目して	→
	学習問題	火事から地域を守るために、だれが			
	しらべる	<p><しらべる問い> 消防署では、どのようなことをしているのだろう。</p> <p><しらべる問い> どうして、たくさんの人がすばやくかけつけられるのか。</p> <p><しらべる問い> 学校や地域にはどのような設備があるのだろう。</p> <p><しらべる問い> 地域では、火事を防ぐために、どのようなことをしているのだろう。</p>	←	緊急時の備えや対応に着目して	→
	まとめる	<p><特色や意味を考える問い> 消防団をKさんは、なぜ、40年近く続けているのだろう。</p>	←	関係機関の働きを比較・分類して人々の活動と生活と関連付けて考えて	→
	つなぐ	<p><選択・判断を考える問い> これからもまちを火事から守るために、自分たちは何ができるだろう。</p>	←	防火と自分の生活を関連付けて	→
【研究内容3】 子供の学びを確かにする評価の工夫	<p>子供が学びを振り返り、次の学びにいかす</p> <p>前単元と比較して、自分の学び方カードを振り返り、本単元を通してできるようになりたい項目にチェックし最後に振り返る。「つかむ」段階後、「まとめ」段階後、「つなぐ」段階後に、学び方カードに段階ごとに自分の学びを振り返り、問題解決的な学習の進め方を自覚する。単元を通して、社会について分かったことや考えたこと、学び方で頑張ったこと、できるようになったこと、次の単元でも生かせるようなことを振り返り記述し、評価する。</p>				

【本小単元で目指す子供像】

本小単元における「社会とつながり未来を創る子供」とは、消防団の人達が、休日に訓練に取り組んだり、少年消防団の活動を支えていたりしていることを知り、地域の安全を守り続ける取組の意味を、地域の一員として共に考え、自分たちにも何か協力すべきだけど、できることは何かを葛藤しながら考え、消防署や消防団の安全への思いに共感しながら、地域のこれからの安全を考えようとする子供である。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区の火災発生件数と全焼件数のグラフ ・火事の動画 	火災は、恐ろしい災害である。新宿区の火災は、この10年間で減ってきている。

どのようなことをしているのだろう。

<ul style="list-style-type: none"> ・区内の消防署の位置が分かる地図 ・消防署で働く人の様子(副読本) ・消防署の話(G・T) 	消防署で働く人は、火災の時にすぐに出られるように訓練をして備えていたり、24時間交代で出勤できるようにしていたりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の人がかけつけるまでの仕組 ・災害救急情報センターの文章 	119番に電話をかけると災害救急情報センターにつながる。災害情報センターの人は消防署や警察署など他の機関とつながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の消防施設・設備の配置地図 ・設備の写真 ・防災倉庫の写真 	学校の中には、消火器や消火栓などが多くあって、すぐに火を消すことができる。避難訓練も行われている。地域にも消防設備がある。決まりに合わせて設置している。
<ul style="list-style-type: none"> ・消防団Kさんの話(GT) ・区報「しんじゅく」文章と写真資料 	地域の消防団は、消防士と協力して、消火する。日頃は、訓練したり地域の人に教えたりしている。

地域の安全を守るため、消防士だけでなく、色々な関係機関とつながって火を消すしくみがあり、火事が起きないように地域の人達とも協力していることが分かりました。自分たちができることは、火を使ったら、目を離さずに見ていて、終わったらすぐに消すようにしたいです。

<ul style="list-style-type: none"> ・関係図、これまで調べてきたノート ・消防団Kさんの話 ・消防団の人数の変化(グラフ) 	防火をよびかけるポスターを作って、花いっぱい運動でお世話になっているお店や地域の人に配る。訓練に参加して、家族に呼び掛ける。Kさんの話を聞いて、自分たちが関わっていなかったから、家族に伝えて、これからは消防団のくんれんに参加して、安全な町にしたい。
---	--

指導と評価の一体化を図る(教師が指導に生かす) 評価

- ・消防署や関係機関の人々の働きを把握するために、関係図を作り教師がゴールの子供の姿の具体化を図り、思考や理解状況を見取り、個別の支援に生かしていく。
- ・段階ごとの終末の振り返りでは、学習の進め方を振り返り、記述させ、児童の理解状況を把握し、個別の支援に生かしていく。
- ・防火の為にできることを、話し合いを通じて選択・判断しながら自分たちができることを考える。

【研究内容2】

社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【広がりでみる】

- ・学校内や地域の消防施設や設備の配置に着目できるように、校内や地域の施設や設備をタブレットで写真を撮って施設や設備を地図に位置付けて視覚化する活動を設定する。

【時間で見る】

- ・新宿区の火災の発生件数と全焼件数の違いに着目できるように、グラフを読み取る活動を設定する。
- ・消防署がどのように迅速に駆け付けるのか着目できるように、新宿区内の消防署の位置が分かる地図を読み取る活動を設定する。

【つながりで見る】

- ・消防士だけでなく人々が協力して着目できる様、様々な関連機関や地域の人々が協力して対処に取り組んでいることが分かる資料を読み取る活動を設定する。
- ・119番通報から関係機関に連絡が伝わる仕組みに着目できるように、絵図や映像から読み取る活動を設定する。

【比較・分類・関連・総合して考える】

- ・消防署と警察署の働きを関係機関、地域の人たちの働きと比較し分類したりする。火災への対処を関連付けて関係図にまとめて、消防の緊急時に対処する体制や未然の防止について考える。防火に対して自分たちができることについて考え、話し合う。

6 小単元の指導計画 (全8時間)

過程	ねらい	主な学習活動 (○) 評価につながる学習活動 (●) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
つかかむ	<p>火事から安全を守ることに問題意識をもち、学習問題をつくり、予想を分類して何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。①</p>	<p>○火事現場の動画を見て、火事が起きた時の様子について話し合う。 ・燃え広がると、こんなに恐ろしいんだ。 ◆新宿区では、どれくらい火事が起きているのだろう。 ○新宿区の火災発生件数180件のグラフを読み取り、全焼した件数を予想し、全焼した件数が2件であることを知る。 ◆なぜ、新宿区的全焼件数は2件なのだろうか。 ●疑問や予想をノートに書き、学習問題を設定する。 ・火事の現場では、どのようなことをしているのか。 ・火を消すのに誰がいるのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>火事から地域を守るために、誰が、どのようなことをしているのだろう。</p> </div> <p>○予想を分類し、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。 ・消防士が火を消している。【消防署】 ・消防士はどうやって来るのか【連絡の仕組み】 ・火を消すための道具がある。【施設・設備】 ・地域の人が呼び掛けているはず。 【消防団・PTAなど】 ●つかむ段階の学習を振り返りカードに記入する。 ・火を消す以外にどんなことをしているか調べたい。 消防署見学に行き、インタビューしたい。</p>	<p>◎火災現場の動画 ◎新宿区内の火災発生件数と全焼件数 □「警察」の学習を振り返り、地域の安全を守るには、様々な人の働きがあることを想起させる。 □新宿区の火災の発生件数と全焼した件数をプレゼンにして、子供の意識のズレを引き出せるように工夫する。 【思考①】緊急時の対応に着目して、関係機関や地域の人々の諸活動について問いを見出している。(ノート)</p> <p>◎大単元「地域の安全を守るはたらき」(教科書のイラスト) ◎警察の学習の掲示物 □警察の学習した事を生かして予想できるように掲示しておく。</p> <p>【態度①】学習問題の予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。(学び方カード)</p>
	<p>消防署の方の話しを基に、迅速に消火するための方法や日頃の活動について調べ、消防署の活動について理解している。②③</p>	<p>◆消防署では、どのようなことをしているのだろう。 ○学校が火事になった場合に、消防署がどのようにして迅速に駆け付けるのか考え、予想する。 ・一番近い道を通るから、裏道を使うと思う。 ・消防車が通れる道を選んでいく。 ・サイレンを鳴らして、信号は無視していく。 ○実際に学校に駆け付けるまでの時間を予想し、確かめる。 ・消防車で向かうのに使う時間は3分間。 ・連絡が入って1分で出動している。 ○消防署の方の話から、実際に聞いて考え、全体で発表して、情報をまとめる。 ・緊急時にはできるだけ早く出動できるように、24時間交代で働いている。 ・普段は、訓練、施設、設備の点検などの活動を行っている。 ○小学校で煙体験をさせたり、消防写生会のために来てくれたりするの理由を話し合う。 ・命を守る大切さを教えるため。 ・火事を考えるため。 ●消防署の働きや活動についてまとめを書く。 ・消防署で働く人は、火災の時にすぐに出られるように訓練をして備えていたり、24時間交代で出勤できるようにしていたりする。</p>	<p>◎区内の消防署の位置が分かる地図 □消防署の位置が分かる地図で学校の位置から消防署までのルート进行予想し根拠をもって考えさせる。</p> <p>◎消防署で働く人の様子(副読本) □消防署の方に、予想を基に調べたいことを明確にして質問を考える。 ◎消防署の方の話(G・T) □消防署の方へ事前に質問を送っておく。 「大切にしていることは何か」 「消防団と協力していることについて」も最後の話の際に触れて貰う。</p> <p>【知技①】消防署などの関係機関は、緊急時に対処する体制をとっていることや火災防止に努めていることを理解している。(ノート)</p>
調べる	<p>関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや校内や校外にある消防施設・設備を調べ、火事が起きた時に備えていることを理解している。④</p>	<p>◆どうして、たくさんの方がすばやくかけつけられるのか。 ○火災の時に消防署に連絡する方法と内容について予想する。 ・火事の時に警察の人が居たので、警察署にも連絡がいくのでは。 ○災害救急情報通信センターが連絡する機関について調べ、発表する。 ◆学校や地域にはどのような設備があるのだろう。 ○学校の近くにある消防設備の写真や地図を見て分かったことを話し合う。(家庭学習で撮った写真を紹介し合う。)</p>	<p>◎消防署の人がかけつけるまでの仕組み ◎災害救急情報センターの文章 □火事の現場の場所を、正確に伝える大切さを押さえる。 □火事が起きた時の絵図に着目することで、関係機関の協力体制について考えられるようにする。 【思考①】消防署をはじめ、災害情報センターや様々な機関が連携して緊急に対処する体制をとっていることで火災の防止に努めていることを理解している。(ノート)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・火事を大きくしないためにも、町にも消火器や消火栓がある。 ●学校の中には、消火器や消火栓などが多くあって、すぐに火を消すことができる。避難訓練も行われている。地域にも消防設備がある。決まりに合わせて設置している。 ●緊急時に対処する連携についてまとめを書く。 ・119番に電話をかけると災害情報センターにつながる。災害情報センターの人は消防署や警察署など他の機関とつなげて協力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校内外の消防施設・設備の配置地図 ◎防災倉庫の写真 □消防設備を写真で提示することで視覚的に捉えさせる。 □事前に地域の施設や設備については、家庭学習としてタブレットで写真を撮り、紹介し合う時間を取る。 <p>【知技①】学校や地域には、火災が発生した時に活用される施設・設備などがあり、火事への対策がとられていることについて理解している。(ノート)</p>	
家庭学習	地域の施設や設備の写真を撮る。	【態度①】(施設や設備の写真)	
消防団や地域の取組について調べ、地域の人たちの日常的な防火活動について理解している。⑤	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域では、火事を防ぐために、どのようなことをしているのだろう。 ○消防団の役割や学校や町会の取組について調べ、話し合う。 ・消防団も消防士と同じように訓練している。 ・町会でも学校と同じように防災訓練している。 ・防災訓練は、子どもも参加できる。 <ul style="list-style-type: none"> ●消防団員Kさんの話から、取組についてまとめる。 ・地域の消防団は、消防士と協力して、消火する。 ・日頃は、訓練したり地域の人に教えたりしている。 ●調べる段階の学習を振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎消防団Kさんの話(G・T) ◎区報「しんじゅく」文章と写真資料 □区報の写真や文章を提示することで、消防団(地域)が様々な機関と協力して、消防士を助けて素早く消火活動していることが視覚的に捉えられるようにする。 <p>【知技①】緊急時への備えや対応などについて資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。(ノート)</p>	
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを関係図に整理して、考えたことを話し合う。 ・消防を中心にいろいろな機関が繋がっている。 <ul style="list-style-type: none"> ●まとめた関係図をもとにしながら、学習問題について自分の考えをまとめる。 ・地域の安全を守るため、火を消すのは、消防士だけでなく、色々な関係機関とつながって対処するしくみがあり、地域の人達とも協力して、火災が起きないようにしていることが分かりました。自分ができることは、消防団の訓練に参加してみたいです。 ●関係図を基に、消防団の役割について話し合う。 ・自分の仕事があるのに、訓練にも参加している。 ・地域の安全を自分たちで、守っていこうとしているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎今までのノート ◎関係図 ◎Kさんの資料 □消防、区、地域の人々、消防団などの配置は、固定したワークシートを活用する。様々な機関が協力していることを捉えさせるために、関係図に矢印を書き込ませて、消防署と地域の人の両方と協力している消防団の役割に着目させる。 <p>【知技②】関係機関に地域の人と連携して、火災の防止に努めていることを理解しているかを評価する。(ノート)</p> <p>【思考②】消防署や関係機関、地域の人たちの働きについて比較したり結びつけたりして、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現しているかを評価する。(ノート)</p>	
つなぐ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の安全を守る学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るための行動や、自分たちにできる火災への対処について協力できることを考え、四谷消防団長のKさんに発信する。⑧ <本時> 	<ul style="list-style-type: none"> ◆消防団をKさんは、なぜ、40年近く続けているのだろう。 ○消防団の数の変化や地域の消防団の話聞き、感じたことを話し合う。 ◆これからもまちを火事から守るために、自分たちは何ができるだろう。 ○防火のために行動できることをクロスチャートに分類して、そこに分類した理由とともに、発表する。 【自分ですぐできること】防火をよびかけるポスターを作って、花いっぱい運動でお世話になっているお店や地域の人に配る。 【時間をかけてみんなでできること】 ・訓練に参加する人が増えるように、家族や友達に呼びかける。 ●消防団団長のKさんから話し合いの感想を聞き、単元の学習を振り返り、学び方カードに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎消防団Kさんの話 ◎消防団の人数の変化(グラフ) □消防団の数が減っているという事実やKさんが今でも消防団を続けている話を基に、Kさんに共感させ、地域の安全の未来に目を向けさせる。 □自分たちが行動するのか、学習したことを根拠にして理由を説明させる。 <p>【態度②】学習した事を基に、地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。(カード)</p> <p>【態度②】学習したことを基に、これからのまちの安全を守ることへの関わり方を考えようとしている。(学び方カード)</p>

7 本時の学習 (8/8時)

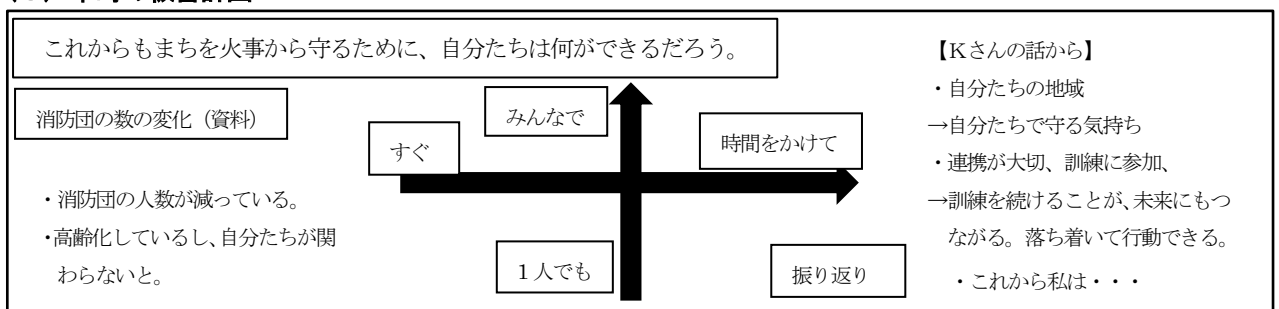
(1) 本時のねらい

学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るための行動や、自分たちにできる火災への対処について協力できることを考え、四谷消防団長のKさんに発信する。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入 (10)	<p>○消防団団長Kさんが40年も消防団を続けている理由を予想し合う。</p> <p>○消防団の人数の変化やKさんの話を聞き、わかったことや感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団の人数が減っているから、心配だ。 ・ Kさんだけでなく、私たちも協力すべきだ。 	<p>◎消防団Kさんの話</p> <p>◎消防団の人数の変化 (グラフ)</p> <p>□消防団の数が減っているという事実やKさんが今でも消防団を続けている話を基に、Kさんに共感させ、地域の安全の未来に目を向けさせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">これからまちを火事から守るために、自分たちは何ができるだろう。</div>	
自分タイム (5)	<p>○ノートや関係図を基に、自分たちができることを考え、理由も一緒にカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防火をよびかけるポスターを作る。理由は、花いっぱい運動でお世話になっているお店や地域の人に配る。 ・ 消火器や消火栓がどこにあるかを知る。理由は、色々な場所にあったので、みんなに知ってもらおう。 ・ 訓練に参加する人が増えるように家族や友達に呼びかける。 	<p>□家庭学習のインタビューを基に、自分たちにできる火災への対処を考えて、カードに書く。</p> <p>□そのことが大切と考えたのか理由も明確に記述するように助言する。</p> <p>【態度②】 学習した事を基に、地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。</p> <p>(カード)</p>
みんななタイムⅠ (15)	<p>○自分たちができることを発表し、クロスチャートに、分類して学級全体で確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防火をよびかけるポスターを作って、花いっぱい運動でお世話になっているお店や地域の人に配る。 ・ 消防団の訓練に自分も参加して、みんなで参加できるように呼び掛ける。 ・ 消火器や消火栓がどこにあるかを知り、みんなに広める。 	<p>□板書の際、カテゴリーごとに、他に考えがないか問うようにする。</p> <p>□クロスチャートに「すぐに」「時間をかけて」「一人で」「みんなで」とカテゴリー毎に分類しながら共有し合う。</p> <p>□理由についても共有し、その行動の意味について考えを深めていく。</p>
みんななタイムⅡ (10)	<p>○消防団長のKさんから、学級の話し合いを聞いた感想を聞き、感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからも火事をへらすためには1人で行動するのではなく、協力することが大切だと分かった。 ・ 訓練に参加して自分も参加するというKさんの気持ちが分かって自分も協力したい。 	<p>□クロスチャートで出てきた考えについて価値づけて頂き、消防団長Kさんの今から未来への気持ちや大事にしている事について話を聞く。</p> <p>□大事な話やキーワードを板書に整理する。</p>
振り返り (5)	<p>○単元全体の学習についての振り返りを学び方カードについて振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Kさんの話を聞いて、自分たちが関わっていなかったから、家族に伝えて、これからは消防団のくんれんに参加して、安全な町にしたい。 	<p>□単元を通して、前単元で自分がチェックした項目も振りかえられるようにする。</p> <p>【態度②】 学習したことを基に、これからのまちの安全を守ることへの関わり方を考えようとしている。</p> <p>(学び方カード)</p>

(3) 本時の板書計画



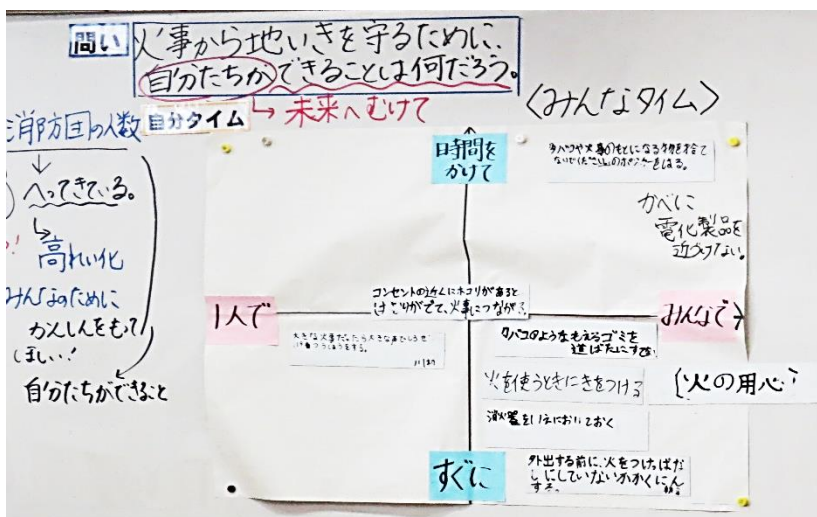
【自分たちができることを付箋に書く児童】



【ゲストティーチャーの活用場面】



【クロスチャートに分類して、学級全体で確かめ合う】



第4学年 社会科学学習指導案

令和3年11月5日
4年3組 33名
授業者 舟山 貴博

1 単元名 「地震から人々の暮らしを守る」(10時間)

2 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして表にまとめ、災害から人々を守る活動やその働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養い、学んだことを基に、地域社会の一員として関係機関の取組や地域の人々が守る活動に協力しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害や関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動について理解している。 ②調べたことを、関係図や文にまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることについて理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について表現している。 ②調べたことを比較・関連付け、総合して、自然災害による被害を減らすための対策や人々の生活について考えたり、自分の関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①地震から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②過去の自然災害や人々の安全を守る取組について学んだことを基に、地域社会の一員として、関係機関の取組や地域の人々を守る活動に協力しようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、学習指導要領に第4学年の内容(3)に基づいて設定する。

学習指導要領 第4学年内容(3)

アの(ア)：地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

アの(イ)：聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イの(ア)：過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

(2) 教材について

本単元は、過去の自然災害の歴史を知り、地域にはどのような自然災害が起こり、人々の安全を守るためにどのような対策が考えられ、どのような備えをしているのかを理解する単元である。単元の終末では、学んだことを使って、自分たちはどのようなことができるかを選択・判断する単元でもある。

自然災害を取り上げるにあたっては、今回は地震を取り上げる。これまで関東大震災、東日本大震災など大きな地震による被害があり、今後も首都直下地震が30年以内に起こると想定されている中で、新宿区、東京都、国においてどのような対策がとられ、実際に起こったときにどのような対処がされるのかをホームページやパンフレットをもとにその協力関係を調べる。また、本校で行われる防災デーや、地域住民による避難所開設訓練などの防災意識を高める取組が行われている。今回は、首都直下地震の想定映像や「東日本大震災の釜石市の小中学生の避難の様子や取組」の資料をもとに、自分たちが減災をするために何ができるかを考えられるよう教材開発を行った。

5 単元構想

【本単元につながる児童の学習経験】

第3学年「火事から地域を守る」では、四谷消防署の見学、消防団長Kさんへの聞き取り調査などにより調べ、火事が起こった際の対処を中心に学習した。「事故から地域を守る」では、四谷警察署の見学、地域の人々の取組を調べることを通して、事故や事件の予防を中心に学習してきた。また、総合的な学習の時間「安全マップを作ろう」では、地域のTさんから花いっぱい運動もあいさつ運動もまちの安全につながることを教わっている。

【研究内容1】
主体的に問いを追究する工夫

＜もんだいいしき＞
・東京都で過去に発生した自然災害の写真や年表から、どのような災害が起こってきたかや首都直下地震のシミュレーション映像からどんなことが起こるかを話し合い、自分たちが助かるための取組は行われているのだろうかと問題意識が高めるようにする。

＜みとおす＞
・第3学年「安全な暮らし」で学んだことを生かし、予想や何を調べるとよいかを考えられるようにする。
・予想から調べることを整理して、学習計画を立てるとともに学習計画ボードを常時掲示する。

＜えらぶ＞
・共通して使用する資料に加えて、個に応じて情報端末や資料などを選んで調べるようにする。
・各自が自主的に地域の取組について家庭学習で調べられるようにする。
・一人一人が設問を選んで、新宿区の危機管理課の方に聞き取り調査ができるようにする。

＜ふりかえる＞
・学習計画ボードの内容を確認し、調べたことをその都度表に整理することで、学習計画の進捗状況を視覚的に確かめやすくする。

＜まなびあう＞
・自分たちができることについて考えを伝え合い、考えの変化や考えを高め合っていることを感じられるようにする。

子供の主体的な問題解決の側面から			
過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方	
つかむ	＜社会的事象に出会う問い＞ 東京都でこれまでどのような自然災害がおきていたのだろう。	← 過去に発生した自然災害や分布に着目して	→
	＜学習問題をつかむ問い＞ 関東大震災ではどのような被害があったのだろう。	← 地震の被害に着目して	→
学習問題	地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのような		
しらべる	＜しらべる問い＞ 関東大震災のあと、国や東京都はどのようなまちづくりをしたのだろう。	← 対策に着目して	→
	＜しらべる問い＞ 国や東京都は、どのような取組をしているのだろう。	← 備えや関係機関の協力に着目して	→
	＜しらべる問い＞ 新宿区は、どのような取組をしているのだろう。	← 備えや関係機関の協力に着目して	→
	＜しらべる問い＞ 地域の人々は、どのような取組をしているのだろう。	← 備えや関係機関の協力に着目して	→
まとめる	＜特色や意味を考える問い＞ だれがどのような取組をしていたのかをまとめた表から、どのようなことがわかるのだろう。	← 関連付けて考えて	→
つながる	＜社会に見られる課題をつかむ問い＞ 東日本大震災後、被災地の人々は被害をできるだけ減らすためにどのような取組をしてきたのだろう。	← 持続可能性に着目して	→
	＜発展や関わり方を考える問い＞ 地震の被害をへらすために、自分たちはどのようなことをすべきだろう。	← 選択・判断して	→

【研究内容3】
子供の学びを確かにする評価の工夫

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす

- ・学び方カードに、「つかむ」「しらべる」「まとめ」「つながる」段階ごとに、自分の学習の進め方を振り返り、問題解決な学習の進め方を自覚できるようにする。
- ・分かったことは表にまとめ、考えたことや疑問はノートに書き次の学習につなげる。
- ・単元を通して学んだことを振り返り、総合的な学習の時間「防災マップにつなげる。

【本単元で目指す子供像】

- 資料で調べたり、危機管理課や地域の人に聞いたりして、東京都や新宿区では、自然災害が起きたときに、様々な人が協力して対処したり減災に向けた備えをしていることを理解している子供
- 自然災害の被害と備えを関連付けたり、対処や備えをしている人々の取組を相互に関連付けたりして、自然災害から私たちの生活を守る人々の働きや活動の大切さを考える子供
- 東京都や新宿区の備えや地域の取組を知り、地域住民の一人として自分たちにできること考えようとする子供

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の年表 ・自然災害発生地の地図や写真 	東京都では、これまでに地震、雪害、噴火、水害、土砂災害などさまざまな自然災害が起こってきた。
<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災の写真 ・首都直下型地震シミュレーション映像 	東京都では、これまで関東大震災、東日本大震災など大きな地震が何度か起こっていて、今後も起こると想定されている。

取組をしていくとよいのだろう。

<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災後の写真（復興小学校、復興橋、復興道路など） ・防災ノート 	関東大震災後に、大地震にそなえて、復興道路や復興橋、復興小学校などが作り、被害を減らす災害に強い東京都のまちづくりがすすめられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都 HP ・国土交通省 HP ・自衛隊の活動の写真 	東京都や国もホームページなどで日頃の備えを呼び掛けなど減災のための取組を呼び掛けている。実際に起こったときは、区、都、国が連絡を取り合い協力している。
<ul style="list-style-type: none"> ・防災パンフレット ・新宿区 HP ・危機管理課の方の話（文章資料） 	新宿区では、地域住民に危険箇所や避難所を知らせるためホームページやパンフレットを作り、災害時の対策も取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所開設訓練の写真 ・消防団長Kさんの話 ・危機管理課の方の話（文章資料） 	地域住民は、消防団や町会などを中心に地域の防災訓練を行い、日頃からの備えを呼びかけ、いざというときにどのように動けるかを確認している。自分たちも参加できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童がまとめた表 	地域を地震の被害から守るために、日頃から東京都や新宿区、地域住民が協力して対策を考え、取り組んでいる。自然災害は防ぎきれないけれど、減災はできる。
<ul style="list-style-type: none"> ・一日前プロジェクト（HP） ・災害用伝言ダイヤルの体験 ・防災ノート 	<p>自然災害は防げないが、一人一人が事前に想定して準備すれば、減災はできる。</p> <p>自分たちは、減災のために家庭での取組や、地域の人と協力した取組を日頃から行うべきである。実際に起こったときには、自分たちが率先して助ける人にもなることができる。</p>

【研究内容2】

社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【経過で見る】

- ・過去の自然災害の時期に着目できるよう、年表を読み取り、繰り返し自然災害が発生し、これからも起こりうることに気付く活動を設定する。

【広がりでみる】

- ・過去の自然災害の発生分布に着目できるよう、自然災害地形図を読み取り、東京都のあちこちで災害が発生し、地形が自然災害と関係していることに気付く活動を設定する。

【つながりで見ると】

- ・人々の協力関係に着目できるよう、新宿区役所の危機管理課の方から都や地域と連携した取組について話を聞く活動を設定する。
- ・人々の協力関係に着目できるよう、消防団長の話（文章資料）から、地域の人に関係機関と協力して様々な訓練を読み取る活動を設定する。
- ・人々の協力関係に着目できるよう、整理した表をもとに、協力により成立することを話し合う活動を設定する。

【比較・分類・関連・総合して考える】

- ・まとめた表の取組を関連付けて、協力関係について考える活動を設定する。
- ・「自然災害はなくすことはできないが、減らすことはできる」という減災の考え（国土交通省「一日前プロジェクト」HP）をもとに、自分ができることやできることを増やす活動を考え伝え合うことで、有効性や実現性について検討する活動を設定する。

指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）評価

- ・毎時間の学習を随時、表にまとめていく活動を設定することで、学習計画に即して児童が知識を獲得することができているかを評価し、個別の支援に生かしていく。
- ・調べたことを関連付けながら、考えたことを表現したり、自分たちにできることを出張し合ったりするを通して、考えの深まりを評価し、さらに考えを深める学び合いの活動に生かしていく。

6 単元の指導計画 (全10時間)

過程	ねらい	主な学習活動 (○) 評価につながる学習活動 (●) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点		
つ	東京都でこれまでに起こった自然災害について調べ、東京都各地で繰り返し様々な自然災害が発生していることを理解する。 ①	◆東京都では、どこでどのような自然災害がおきているのだろう。 ○東京都内でこれまでに発生した自然災害の種類と被害の様子について年表と写真で調べる。 ・東京都内ではいろいろな自然災害が地形や天候に応じて繰り返し起きている。 ・東京都のあちこちで自然災害が起きている。 ●年表と地図を見て気付いたことや、知りたいこと、疑問に思ったことをノートに書く。 ・東京都で起こる自然災害は思ったより多い。	◎私たちの東京都「東京都で起きた自然災害」(写真・地図・年表) □写真や地図、年表などから東京都の様々な所で地震、洪水、土砂崩れなどの自然災害が繰り返し発生していることに気付くよう資料を読む。 【知技①】年表や地図から読み取って調べ、これまで東京都で発生した自然災害の種類や発生場所、経過について理解している。(ノート)		
か む	関東大震災による被害について調べ、今後も大きな地震が起こることを想定して生まれた疑問をもとに、学習問題と学習計画をたてる。 ②③	◆関東大震災ではどのような被害があったのだろう。 ○関東大震災被害の様子を調べる。 ・火災で被害が広がった。地割れがすごい。 ・10万人もの方が亡くなった ○首都直下型地震が発生したときの被害について考えたことを話し合う。 ・建物が倒れてしまう。わたしたちは大丈夫か。 ○被害を防ぐことができるか話し合う。 地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのような取組をしていくとよいのだろう。 ●学習問題に対して予想し、学習計画を立てる。 ・国や都や新宿区が対策を立てていると思う。 ・地域の人が区の方針に合わせて対策している。	◎防災ノートの関東大震災(写真) ◎自然災害伝承碑(写真・地図) ◎首都直下型地震シミュレーション □首都直下型シミュレーションの映像を見て互いに感想を交流できるようにする。 □今後予想される大地震による被害を防ぐ取組に目を向けさせる。 【思考①】東京都で発生した地震による被害や対策に着目し、問いを見いだしてしている。(ノート) 【態度①】予想をもとに学習計画をたて、学習問題の解決に向けた見通しをもととしてしている。(ノート)		
調 べ る	関東大震災後の対処について調べ、地震に対して強いまちづくりを進めてきたことを理解する。 ④	◆関東大震災のあと、国や東京都はどのようなまちづくりをすすめたのだろう。 ○関東大震災後の写真を見て関東大震災からどのように変わったかを話し合う。 ・建物の倒壊や火災の発生により、まち全部がなくなったけど、まちがよみがえっている。 ○どのような復旧や復興の対策が取られたかを調べ、その目的について話し合う。 ・直後は、人々の救援物資や避難所などを設けて、助けようとしていた。 ・国や都の人が時間とお金をかけて協力して建物や道路、橋などまちを地震から守ろうとした。 ●関東大震災後の対処についてまとめる。	◎復興小学校、復興橋、復興道路などの写真(防災ノート) ◎復興に関わった人の話(文章) □人々が安心して生活できるよう、地震直後の対処だけでなく、国や都が協力して地震に備えたまちづくりを進めてきたことに気付かせる。 【知技①】資料を読み取って調べ、関東大震災の対処や様子について理解している。(ノート)		
	東京都や国では地震に対してどのような備えをしているかを調べ、東京都は区や国と協力しながら対策や備えをしていることを理解する。⑤	◆国や東京都はどのように備えているのだろう。 ○東京都、国の地震への備えについて調べる。 <table border="1" data-bbox="475 1825 1027 2004"> <tr> <td data-bbox="475 1825 718 2004">東京都 ・無電柱化、耐震化 ・帰宅困難者対策 ・東京防災、 ・災ノート</td> <td data-bbox="722 1825 1027 2004">国 ・交通・輸送の確保(道路・鉄道) ・国民への呼びかけ(ホームページ、動画)</td> </tr> </table> ○国と都と区が協力して行う総合防災訓練につ	東京都 ・無電柱化、耐震化 ・帰宅困難者対策 ・東京防災、 ・災ノート	国 ・交通・輸送の確保(道路・鉄道) ・国民への呼びかけ(ホームページ、動画)	◎東京都HP ◎東京防災 ◎東京都耐震ポータルサイト ◎東京都防災担当の方の話(文章) □東京都の防災動画を各自視聴する時間を確保する。 □東京都防災担当の方の話から国と都と区が協力してそれぞれの役割を果たしていることに気付くようにする。
東京都 ・無電柱化、耐震化 ・帰宅困難者対策 ・東京防災、 ・災ノート	国 ・交通・輸送の確保(道路・鉄道) ・国民への呼びかけ(ホームページ、動画)				

		<p>いて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署、警察署、水道局など関係機関が協力して復旧対策をすることがわかった。被害が大きいと自衛隊なども活動する。 <p>●都や国の地震への備えについて表にまとめる</p>	<p>□公助・共助・自助について用語を確認する。</p> <p>【知技①】資料を読み取って調べ、地震に対する東京都の備えについて理解している。(表・ノート)</p>
	<p>新宿区の地震に対して備えを調べ、都と協力して地域住民のために対策や備えを進めていることを理解する。⑥</p>	<p>◆新宿区はどのように備えているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新宿区の地震の備えについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線システムで情報を伝える。 ・各地域に備蓄倉庫をつくり訓練もしている。 ○危機管理課の人の話から新宿区の対策を調べ分かったことや考えたことを話し合う。 ・区の人が助けてくれると思っていたが、間に合わないと地域でやるしかないと初めて知った。 <p>●新宿区の地震への備えを表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民が自分で対処できるよう備えをしている。 	<p>要配慮者防災行動マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新宿区防災ハンドブック ○危機管理課の人の話(文章) <p>□「危機管理課の人の話」から、区の対策は、地域住民がその備えを使いこなせなければうまくいかないことに気付くようにする、</p> <p>【知技①】資料を読み取って調べ、新宿区の地震への備えについて理解している。(表・ノート)</p>
	<p>地域が行っている地震へ備えを調べ、地域が地震に備えて様々な取組をしていることを理解する。⑦(本時)</p>	<p>◆地域の人々はどのように備えているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人々がどのように地震に備えているのかを調べ、話し合う。 ・防災訓練ではいろいろな立場の人が訓練をし、大人も子どもも防災の体験をしている。 <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人々が何を大切にしていっただいのか話し合う。 ・地域の人々が協力し合うことが大切。 <p>●地域の地震への備えについて表にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設訓練の様子の写真 ○区の危機管理課の方の話(文書) <p>□地域の対策を知るだけでなく、どのようなことが大切かを考えるようにする。</p> <p>【知技①】資料を読み取って調べ、地震に対する地域の備えについて理解している。(表・ノート)</p>
ま と め る	<p>まとめた表をもとに、それぞれの立場の人の取組を関連付けたり、自分の生活と関連付けたりして考え、たくさんの人が協力して様々な備えをしていることについて理解している。⑧</p>	<p>◆調べたことをまとめた表から、どのようなことが分かるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新宿区、東京都、国、地域の取組を確かめ、それぞれのつながりについて話し合う。 ○新宿区、東京都、国、地域の取組と自分の生活の安全とのつながりについて話し合う。 <p>●学習問題への自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のまちは自分で守れるように区や都や国は備えをして、それぞれが繋がっている。また、国・都・区・地域の取組はみんな自分とつながっていて、協力して行動することが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が作成した地震の表 <p>【思考②】調べたことを関連付けて、関係機関の協力関係について考えたり、自分たちの生活の安全と関連付けて、対策や備えの意味を考えたりして、表現している。(ノート)</p> <p>【知技②】調べたことをまとめた表から、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることについて理解している。(ノート)</p>
つ な が る	<p>東日本大震災のときの小中学生の取組や四谷少年消防団の取組を調べ、社会の一員として何ができそうかを考える。⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の小中学生の取組を動画や資料で調べて考えたことを話し合う。 ・年下の子を誘って避難することはできそう。 <ul style="list-style-type: none"> ○少年消防団の役割や活動紹介のスライドを見て、子供にもできることを話し合う。 ・子供にもできる備えがある。正しく行動することが他の人に迷惑をかけないことになる。 <p>●自分たちがすべきこと、自分たちにも協力できそうなことを表に追記する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新宿区危機管理課の人の話(文書) ○釜石市の小中学生の取組(映像) ○少年消防団の役割と取組(ｽﾗｲﾄﾞ) <p>□被災地での子供の取組や四谷少年消防団の活躍などから、子供にできることがあることに気付かせる。</p> <p>【思考②】都や区や地域の備えと関連付けて、子供にも協力できることを考えている。(ノート)</p>
	<p>被害を減らすためやみんなのために自分たちがすべきことを話し合い、地域社会に一員として防災への協力の仕方に関心をもつ。⑩</p>	<p>◆地震の被害をへらすために、自分たちはどのようなこととしていくべきなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地震が起こる前と後で自分たちがすべきこと、自分たちにできそうなことについて話し合う。 <p>●学んだことをもとに、地震前と後の行動を考え、文章にまとめる。</p>	<p>□自分が何をすべきかを一人一人が意見を表明できるようにする。</p> <p>【態度②】学んだことを基に、自分のできることを選択・判断して、地震の前後の行動をしようとしている。(ノート・学び方カード)</p>

7 本時の学習 (7/10時)

(1) 本時のねらい

地震に対する地域の取組を調べることを通して、地域の人々は関係機関とも協力をして様々な地震への備えをしていることを理解できる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入 (5)	<p>○前時までの学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学習では新宿区や東京都、国は地震が起きた時にどのような取り組みをしているのか調べた。 ・国、都、区は連絡を取り合って協力しているが、地震が起きた直後は自分たちのまちは自分たちで守るしかない。 ・地域ではどのように備えているのかな。 	<p>◎作成している表</p> <p>□作成している表やノートから前時に学習したことを振り返る。</p> <p>□表を用いて国、都、区の備えと地域の取組には関連性があることに着目させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 地域の人々は地震に対してどのように備えているのだろう </div>		
自分タイム (15)	<p>○地域の地震への備えについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練を行い、救助訓練や消火訓練、起震車体験訓練を行っている。 ・避難所開設訓練では、避難所の開設、炊き出し訓練などを行っている。 	<p>◎四谷地区の小学校の防災訓練の様子</p> <p>◎新宿区パンフレット (大地震に備えて)</p> <p>□防災ノートの関連ページをピックアップしたり、地域の防災訓練の資料を読み取ったりして調べるようにする。</p>
みんななタイムⅠ (10)	<p>○地域の地震への備えについて調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ノートを見ると防災訓練を行うと書いてあった。 ・防災訓練では、起震車体験や消火訓練などにみんなが参加して身近な人を助けていた。 ・四谷小を含めどの小学校でも避難所開設訓練を行っている。 ・避難所開設訓練では、避難所の開設を協力してできるように役割を分けて訓練していた。 	<p>□どのようなことが分かるのか資料と理由を繋げて考えさせる。</p> <p>□地域の取組は「自分たちのまちは自分たちで」という考えに基づいていることに気付くようにする。</p>
みんななタイムⅡ (10)	<p>○地域の人々は何を大切にしていったらいいのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練に参加する。 ・自分たちも地域の人と協力して身近な人の手助けをする。 ・普段の生活から地域に住んでいる人と話したり、関わったりして地域の結びつきを強くする。 	<p>◎区役所危機管理課の人の話 (文章資料)</p> <p>□文章資料から地域の人々の中に自分たちも含まれていることを確認する。</p> <p>□地域の人と協力して行うことが共助として大切だという点に着目させる。</p>
まとめる (5)	<p>○地域の備えに対して分かったことや考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地域では防災訓練を通して地震の被害を減らしたり、安心して暮らしたりできるように備えている。実際に地震が起きた時に地域の皆で協力して自分たちも皆も助かるようにしている。地域の人との関係づくりや区などが出している情報を知ることが大切だと分かった。 </div>	<p>◎取組の一覧表 (ワークシート)</p> <p>◎まなび方カード</p> <p>□問いに対して分かった表に記入し、考えたことや疑問をノートに記入する。</p> <p>【知技①】資料を読み取って調べ、地震に対する地域の備えについて理解している。(ノート)</p>

(3) 板書計画

表	地域の人々は地震に対してどのように備えているのだろう。	地域の人々はこれから何を大切にしていけばいいのだろう。								
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 起こった時 </td> <td style="width: 50%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 起こった後 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> 四谷の ・町会の人 ・四谷小 ・自分たち </td> <td style="padding: 5px;"> ○煙体験(子ども園) ○避難所の開設(町内会) ○起震車(四谷小) ○炊き出し訓練(四谷中) ○救護訓練(職員) ○仮設トイレ訓練(職員) ○通報訓練(自分たち) </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div> </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> ひがいをへらすため </div> </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 生活に困らないため </div> </td> </tr> </table>	起こった時	起こった後	四谷の ・町会の人 ・四谷小 ・自分たち	○煙体験(子ども園) ○避難所の開設(町内会) ○起震車(四谷小) ○炊き出し訓練(四谷中) ○救護訓練(職員) ○仮設トイレ訓練(職員) ○通報訓練(自分たち)	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> ひがいをへらすため </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 生活に困らないため </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地域では防災訓練を通して地震の被害を減らしたり、安心して暮らしたりできるように備えている。実際に地震が起きた時に地域の皆で協力して自分たちも皆も助かるようにしている。地域の人との関係づくりや区などが出している情報を知ることが大切だと分かった。 </div>
	起こった時	起こった後								
四谷の ・町会の人 ・四谷小 ・自分たち	○煙体験(子ども園) ○避難所の開設(町内会) ○起震車(四谷小) ○炊き出し訓練(四谷中) ○救護訓練(職員) ○仮設トイレ訓練(職員) ○通報訓練(自分たち)									
<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; height: 20px; background-color: #0056b3; color: white; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ↓ </div>									
<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> ひがいをへらすため </div>	<div style="border: 1px solid black; width: 50%; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 生活に困らないため </div>									

8 参考資料

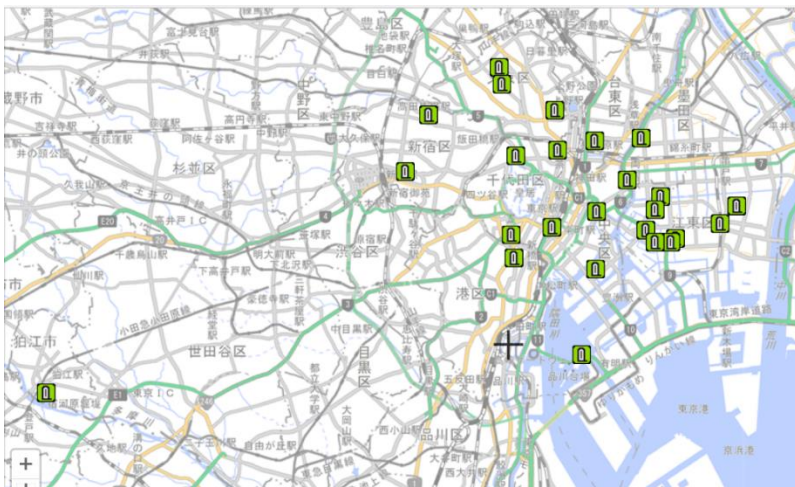
①新宿区の過去の自然災害（関東大震災）の様子や自然災害伝承碑の教材化（第2・4時に使用）



【新宿区牛込地区の被害の様子】



【新宿御苑にできた避難所】



【東京都の自然災害碑の分布図】



【新宿区の自然災害伝承碑】

②首都直下型地震のシュミレーション動画を見る児童の様子



つかむ段階（学習問題を設定する際）には、首都直下型地震シュミレーション動画（内閣府）を各自のタブレットで見た。
この活動は、2，3人で見たことがよかった。一緒に見たことで、「えっ！」とか、「やばいよ。」などのつぶやきや会話が自然と見られた。

③地域の避難所開設訓練の教材化（第7時）～地域の人々と一緒にできることを考える教材として～



【応急処置訓練】



【起震車体験】



【通報訓練（四谷小5年生の参加）】

9 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆問い【】 評価規準	観察対象児童の学習記録		教師による考察
		A児	B児	
1時	<p>○東京都の自然災害の発生マップを見て考える</p> <p>◆東京都ではどのような自然災害があったのだろう。</p> <p>○都内で自然災害が発生した場所や災害の種類を調べ、色分けをする。</p> <p>○年表と発生した自然災害の地図から関係を見出す。</p> <p>【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都のなかでもいろいろな自然災害が起きていると反応 ・東京都の山地の方で土砂災害が起きている。 ・東京都のいろいろな所で自然災害が起る可能性があることが分かったと記述。 ・どんな被害がでたのか調べてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都のいろいろなところでいろいろな種類の自然災害が起きている。 ・場所によって起きている自然災害に違いがある。山地は土砂災害、都心は交通が多いから雪に弱い。火山の噴火は火山のある島で起っている。 ・年表を見ると繰り返し起っている自然災害がある。その中でも地震が一番被害が多いことが分かった。 	<p>「わたしたちの東京都」の自然災害発生マップを使うことによって東京都の地形と起きている自然災害の関係に着目させることができた。</p> <p>・「わたしたちの東京都」の自然災害発生マップと年表に色分けして塗らせて考えさせることによって発生した年代と場所や複数回起きている自然災害について知ることができていた。</p>
2時	<p>○最近あった地震の新聞の記事を見る。</p> <p>○「関東大震災が一番被害が大きかった」という振り返りを取り上げる。</p> <p>◆関東大震災ではどのような被害があったのだろう。</p> <p>○関東大震災の写真や映像からわかったことや気づいたことをノートに書く。</p> <p>【思考①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に揺れた時すごく怖かったと発言 ・関東大震災の写真を見ると地面が割れていたり、家が崩れてしまっていたりする。 ・こんなに火事で燃えてしまったら、たくさんの人が亡くなったと思う。多くの人住む場所がなくなってしまっただけで困ったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災の時は昨日の地震よりももっと揺れたと思うからすごい被害だったのではないかと予想。 ・関東大震災の被害の様子がすごく怖かった。家がたくさん崩れてしまっていたり、火事が起きていたりしていた。ほとんどの家が木造だったから？ここからどうやって元に戻ったのだろう。 ・地震はいつ来るかわからないから怖い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災の写真や映像を見ることで地震だけでなく、その後の火災で被害が広まったことに気付くことができた。 ・関東大震災での被害が甚大だったことを学級全体で共有することでどのように復興したのか、被害を少なくするためにどのようなまちづくりを進めたのかという問いが生まれた。また、B児の発言により、学級全体でなぜ被害が大きくなったのか詳しく考えることができた。
3時	<p>◆首都直下型地震が来たらどのような被害になるのだろう。</p> <p>○首都直下型地震のシュミレーション映像を見て気づいたことをノートに書く。</p> <p>○調べたことを基に、話し合い、学習問題を作る。</p> <p>○児童に自分が助かるのかどうか問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震が来た時にどんなことが起きるのか想像できない。 ・首都直下型地震が来たら東京のいろいろな所で被害が出ると思う。誰が助けてくれるんだろう。 ・きっと消防の人やレスキューの人が助けてくれたり、どうしたらいいのか教えてくれたりすると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に大きな地震が来たときに関東大震災みたくにはならないと思うけど、もっと違うことが起きそう。 ・首都直下型地震のシュミレーション映像を見たり、死者が約2万人と聞いたりしてどうやって助けられればいいのか疑問に思った。地震が起きた時にどんな人が助けてくれるんだろう。 ・近所の人とか、消防の 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都直下型シュミレーション（内閣府）の映像を見ることで、首都直下型地震が来た時に自分たちはどうすべきなのかと児童が切実感をもって考えることに繋がった。 ・自分や身近な人が助かるためには誰がどのように行動するべきかを予想させることは、地震に対してどのような備えがあるのか予想させるために有効だった。A児の発言からも誰が助けてくれるのか考えるきっかけとなっている。

	<p>○学習問題に対する予想をたてる。 【態度①】</p>		<p>人、警察の人が助けしてくれると思うけどその人たちがいなかったら自分たちでどうにかするしかないと思う。</p>	
4時	<p>◆関東大震災のあと国や都はどのような街づくりをしたのだろう。</p> <p>○防災ノートから関東大震災の後どのようなことが変わったのかを読みとり、調べ、ノートに書く。</p> <p>○調べたことを基に、なぜこのような対策が取られたのかを話し合う。 【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災が起こったとき、被害が大きかったからどうやってもとにもどしたのか気になる。 ・関東大震災の映像を見た時に人がたくさんいて逃げられない人もいたから道を大きくして作ったことが分かった。 ・関東大震災後の街づくりは関東大震災の経験を生かして街づくりをしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災のときはほとんど火事で燃えてしまったから火事に強くなるようにしたと思う。 ・火事で燃えてしまったり、地震で崩れてしまったりしないように街づくりをしたことが分かった。また大地震が起こっても大丈夫なように頑丈な街づくりをしていた。 ・関東大震災の経験が備えにもつながっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災後の復興年表（防災ノート）を活用したことで、関東大震災の被害と復興後の建物の様子の変化に気付き、A児もB児も地震に備えた街づくりを進めてきたことに気付いた。 ・「なぜ鉄筋コンクリートのような建物のつくりにしたのか」を児童に発問したことにより、関東大震災の被害と復興後のまちづくりが繋がっていることにA児B児ともに気付くことができた。
5時	<p>◆現在の国や都は地震に対してどのような備えをしているのだろうか</p> <p>○「首都直下地震に対する備え」（国土交通省HP）の資料を読み取り、国の備えについてノートに書く。</p> <p>○東京防災や提示資料から東京都の地震に対する備えを見つけてノートに書く。</p> <p>○調べたことを基に国や都の備えについて話し合い、表にまとめる。【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国や東京都は首都直下型地震のシュミレーション映像を作っていたからきっと何か備えをしていると思う。 ・国は大きな地震が来てもみんなの生活が止まらないようにする計画を立てていることが分かった。 ・東京都は都民の人たちが地震が来ても困らないように防災訓練や防災学習をしていることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きた時に自衛隊の人達や消防の人たちが動けるように準備しているのではないかな。 ・国ではすぐに復興できるように計画を立てていることが分かった。情報や水道、電気など生活に必要なものをすぐに使えるようにする計画を立てて備えていることが分かった。 ・<u>東京都では国と協力して防災訓練を開催したり、地域の人たちに呼び掛けたり、協力して備えていることが分かった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省のHPの資料は4年生にとっては高度な資料だったためA児B児両名とも内容の理解が難しいと反応していた。内容を精査して簡単にした資料を児童に提示する必要がある。 ・東京防災の中から東京の防災に対する取組を調べることや東京都の備えについてハード面やソフト面で別れた資料を扱うことで、B児は国との連携や、都で行っている備えについて理解することができた。
6時	<p>◆新宿区では地震に対してどのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○新宿区で配布しているパンフレット「いざ地震に備えて」や危機管理課の人の話から地震の時に区がどのよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区からいろいろなパンフレットや手紙をもらったことがある。 ・<u>新宿区では、防災無線を使ったり、防災訓練をしたりして地震に備えていることが分かった。</u> ・自分の家の近くの公 	<ul style="list-style-type: none"> ・国と東京都は協力して地震に備えていたけど、新宿区はどうかと発表した。 ・<u>防災無線の呼びかけや、備蓄倉庫の点検、防災訓練は区の人がいざというときに備えて行っているということが分かった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区で出されているパンフレットを資料として扱うことで、自分たちが住んでいる区ではどのような備えがされているのかA児B児共に身近に考えることができていた。 ・危機管理課の人の話を資料として扱うことによって、地震に対する区の備えを行ってい

	<p>な備えをしているのか調べ、ノートに書きだす</p> <p>○調べたことを基に新宿区ではどのような備えをしているのか話し合う。</p> <p>【知技①】</p>	<p>園にも備蓄倉庫がある。</p> <p>・新宿区の職員の人たちが新宿区に住んでいる人たちに呼び掛けていることが分かった。</p>	<p>・危機管理課の人の話を聞いて、いざというときに区の人たちが間に合わなかったら自分たちでどうにかしなければいけないのでは。</p>	<p>る人がいることにA児もB児も着目して考えることができた。</p>
7時	<p>◆地域の人々は地震に対してどのような備えをしているのだろうか。</p> <p>○避難所開設訓練の様子の資料を見て分かったことや気づいたことをノートにまとめる。</p> <p>○調べたことを基に地域の人々が地震に対してどのように備えているのか話し合う。</p> <p>○地域の人々がどんなことを大切に過ごしていけばいいのか話し合う。</p> <p>【知技①】</p>	<p>・地域の人たちは協力しあって助け合うと思う。</p> <p>・避難所開設訓練では、地震が起きる前の備えや起きた時の備え、起きた後の備えをして被害を減らそうとしていることが分かった。</p> <p>・地域の人たちが避難所のなかで協力して仕事に取り組んでいることが分かった。</p> <p>・地域の人たちはもっといろんな人に訓練のことや呼びかけがあることを知ってもらうことが大切だと思う。</p>	<p>・国や都、区は協力し合っていて備えているけど、いざというときには自分たちで動くしかない。</p> <p>・<u>避難所開設訓練の資料を見て、避難してきた人たちが困らないようにしたり、被害を減らしたりするためにいろいろな種類の訓練をしていることが分かった。</u>地域の人たちが協力し合っていて避難所の開設をしていることが分かった。</p> <p>・いざというときに地域の人たちみんなで協力し合って助け合うことが大切だとわかった。</p>	<p>・避難所開設訓練の写真を資料として提示したが、どんなことをしているのか理解できていない児童が少なかったため写真の種類や説明、写真の配置などをさらに精選する必要がある。</p> <p>・避難所開設訓練を取り上げることで、地域の取組として教材化したことによって、A児B児共に自分と身近なこととして捉え、考えることができた。</p>
8時	<p>◆地震からくらしを守るために、誰がどのような取り組みをすべきなのだろう。</p> <p>○これまで調べたことを関連図にまとめる。</p> <p>○まとめた関連図を基に分かったことを話し合う。</p> <p>【知技②】</p>	<p>・調べてきたことをまとめると<u>国と都と区と地域がみんな一緒になって協力していることが分かった。</u></p> <p>・地域の人たちが自分たちで避難所開設をしていたけど、地域の人たちがいなかったら自分たちがやらなければいけない。</p>	<p>・<u>国や都や区、地域の人々が協力し合っていて被害を減らす計画を立てていることが分かった。</u></p> <p>・地域の人たちの中に自分たちも入っていると思う。</p> <p>・自分たちにも何かできることがあるのではないかな。</p>	<p>・国や都、区、地域の取り組みについてまとめることで関係機関の協力関係にA児B児共に気付いていた。地震への関係機関の備えを理解することができる児童が多かった。</p> <p>・関連図にまとめることで国、都、区、地域の繋がりを視覚的に捉えることができていた。その反面、構造が理解できなかった児童もいたため、簡易的にする必要がある。</p>
9時	<p>◆東日本大震災後、被災地の人々は被害をできるだけ減らすためにどのような取組をしたのだろうか。</p> <p>○東日本大震災の小中学生の取組を資料を使って調べ、考えたことを話</p>	<p>・東日本大震災の時の写真を見ると自分たちでできることはあまりないのではないかなと思う。</p> <p>・<u>東日本大震災後の小中学生の取組の資料を見て、大きな地震が来た時自分</u></p>	<p>・東日本大震災の映像は見たことあったけど、地震の学習をした後だと地震が起きた後にどうしたらいいのか考えられる。</p> <p>・自分たちより年下の子たちやお年寄りの人たちを手伝うことができそう。</p>	<p>・東日本大震災の映像や東日本大震災後の小中学生の取組の資料から地震がいつ来るかわからないから少しでも対策や備えを日ごろからすることが大切だとA児B児共に気付いていた。</p> <p>・東日本大震災後の小中学生の取組の資料を扱うことによって、自分たちにも何かできる</p>

	し合う。 ○首都直下地震が来た時に自分たちがすべきことやできそうなことについて考え、ノートに書く。【思考②】	<u>たちができることはどんなことがあるのか考えたい。</u>	・避難所開設の時に来ている人に声をかけたりすることはできそう。	ことがあるのではないかと A 児が発言した。
10 時	◆地震の被害をへらすために、自分たちはどのようなことをすべきだろう。 ○前時に考えた自分たちがすべきことやできることについて話し合う。 ○自分たちがすべきこと、話し合いから考えたことについて記述する。 【態度②】	・地震が起きたら自分たちができることを一生懸命にやりたいと思います。例えば、 <u>年下の子の面倒をみることやお年寄りの方のお手伝いなどができるかな</u> と思いました。 ・ほかの人の話を聞いて自分ができるところを率先してやるべきだと分かった。	・地震が起きた時に自分の命は自分で守ることに気を付けて行きたいと思った。 <u>自分に余裕ができた</u> らほかの人の手伝いや困っている人の手助けをしたいと思っている。 ・友達の話聞いて自分が考えていなかったことが分かった。年下の子の面倒をみてあげることも他の人の助けになる事が分かった。	・地震の被害を減らすために自分たちがどのようなことをすべきか話し合わせることで今までにない考えを他の児童から獲得したり、自分ができるところをやれば良いと気づく児童が増えたり、A 児 B 児共に自助の考えが深まった。 ・話し合いから気付いたことを記述させる事によって、児童の思考を整理させることができ、防災への協力の仕方に関心が高まった。

考察

- ・中学年では「地域とかかわり、共に考える子」を目指す児童としている。A 児は地震に対する国や都や区、地域の備えについて学習し、実際に自分が被災した時にどのようなことができるのか話し合う中で、「自分たちができることを一生懸命にやりたいと思う。例えば年下の子の面倒を見ることやお年寄りの方のお手伝いなどができるかなと思う。」と地域でできることに取り組む必要性を考えていた。B 児は「自分に余裕ができたら他の人の手伝いや困っている人の手助けをしたいと思う」と地域の一員として共に行動しようとする姿が見られた。
- ・目指す児童像の実際の背景にある指導のポイントは以下の通りである。
 - ①地域の災害の歴史や関東大震災の映像、首都直下型地震のシュミレーション映像を実際に見せて視覚化したことで被害の大きな地震が来た時に自分たちが何かできないのか考え、問題意識を高めることにつながった。
 - ②地域の取組として実際に児童も参加する避難所解説訓練を教材化したことによって自分と身近なこととして捉え、考えることができた。
 - ③東日本大震災の小中学生の取組を取り入れることによって、自分たちが地域に対して何かできることはないかを考えるきっかけとなった。

【第7時の学習の様子】



提示した資料から地域の備えについて考えている



気付いたことを話し合っている

【中学年分科会の成果と課題】

目指す児童像		地域とかかわり、共に考える子供	
研究 内容	<p>①主体的に問いを 追究する工夫</p> <p>○児童の問いをうむ資料の選定や吟味をする。 ○児童が自ら調べるための学習計画の見通しを工夫する。 (教師側が児童のゴールをイメージしておく)</p>	<p>②見方・考え方が働く 学習活動の工夫</p> <p>○地域の人から学び、調べる学習活動の工夫をする。 ○自分の考えを伝え、友達と共に考えを伝えるみんなタイムの充実を図る。</p>	<p>③子供の学びを確かにする 評価の工夫</p> <p>○多様な表現活動に取り組み、学びにつながる評価の工夫をする。 ○学び方カードをもとに学習計画を振り返ったり、自分の学びを振り返ったりする。</p>
	成果	<p>○時代を比較し、その変化を読み取ることができる資料(新宿駅の3つの時期の写真)を用いたことにより、時代の変化を捉え、児童の問いを生むことにつながった。(3年)</p> <p>○児童の感情を揺さぶる資料(関東大震災の写真や映像、首都直下型地震のシミュレーション映像)を選定したことにより被害の様子を知り、児童が切実感をもって考え、問いを生むことにつながった。(4年)</p> <p>○「つかむ段階」で予想に基づく学習計画を丁寧に行ったことで、児童が見通しをもって追究することができた。何を調べればよいか、児童自身が考えていた。(それは、学び方カードの記述にも表れている。)</p> <p>○「つかむ段階」での問題意識の高まりは、家庭での聞き取り、地域での自発的な調査など、主体的に学ぶ姿につながった。</p>	<p>○実社会の人から学ぶ活動や、地域の見学・調査を積み重ねたことで、児童が実感的、共感的に理解することにつながった。</p> <p>○学んだことを使う場面を意識して単元を構成してきた。</p> <p>○調べたことの発表だけにとどまらないよう、みんなタイムⅡでは、後半で考えさせたい発問を工夫するようにした。社会的事象の意味や特色を考える場面を設定したことで、児童の思考が広がったり深まったりする姿が見られた。</p>
課題	<p>●教師がどの資料で、何を捉えさせたか、資料のねらいを明確にしておかないと児童の思考が拡散することがある。</p> <p>●資料と問いは親和性が高い点からも、資料の選定、加工、難易、情報量の多少など吟味し、その後も検討していく必要がある。(教材開発した単元ほどその後の検討の余地は大きい。)</p>	<p>●1単位時間の後半の発問については、児童が考えやすい言葉を選ぶ必要がある。思考を広げるための発問なのか、思考を深めるための発問なのかを吟味して選択する必要がある。そうしないと難しすぎるがあった。(例えば、「よさ」、「なぜ」、「つまり」など考えて使っていく必要がある。)</p>	<p>●単元のまとめとしての成果物については、表現活動の手法を含めて、年間指導計画と照らし合わせながら、無理のないよう軽重をつけて検討したほうがよい。</p> <p>●学び方カードに記述させる際は、これまでの学習を振り返りや記述の視点を伝えること、適切な指導や記述時間の確保が必要である。中学年では、無理なく計画的に積み重ねたい。</p>

II-③ 高学年分科会の実践

第5学年 社会科学習指導案

令和3年11月26日

5年2組34名

授業者 小松 里実

1 小単元名 「くらしと産業を変える情報通信技術」(7時間)

2 小単元の目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像などの資料で調べたりしてまとめたりして、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について聞き取り調査をしたり、映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。 ②調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え、表現している。 ②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考えるとともに、多角的に考え、表現している。	①我が国の産業と情報の関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本小単元は、学習指導要領に第5学年の内容(4)に基づいて設定する。

(2) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

アの(イ)：大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

アの(ウ)：聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イの(イ)：情報の種類、情報活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(2) 教材について

児童が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、大量の販売情報を収集・分析して顧客のニーズに合わせたサービスを提供したり、ITを活用して発展したりしている販売業を取り上げる。POSレジ情報などの情報を活用しているコンビニエンスストアの事例から紹介し、AIやITを活用しているスーパーマーケットを中心事例として扱う。スマートショッピングカートやAIカメラによる情報収集の仕方や、収集した情報の活用の仕方を調べることで、大量の情報や情報通信技術の活用によって産業が発展したり、国民生活が向上したりしていることを理解できるようにする。

また、スーパーマーケットの事例を学習した後、衣料品や地域の販売業などの情報活用の具体的様子を調べていく。その際に、児童の興味・関心に応じて事例を選択して調べ、分かったことを共有することで、販売業における情報活用の現状について理解を広げていけるようにする。

5 小単元の構想図

【本小単元につながる児童の学習経験】
 前小単元「情報を伝える人々とわたしたち」では、情報をもとに番組制作を行う放送局の人々の取り組みを通して、放送、新聞などの産業は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解した。本小単元では、前小単元の情報と国民生活のつながりという視点を生かし、販売業が大量の情報や情報通信機器を活用し産業を発展させたり、国民生活の利便性を向上させたりしていることを捉えさせたい。

【研究内容1】 主体的に問いを追究する工夫に向けて	子供の主体的な問題解決の側面から				
	過程	想定される「問い」	子供に働かせたい見方・考え方		
<p>＜もんだいいしき＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスクールコーディネーターTさんのコンビニエンスストアの事例を取り上げることで、情報を活用する販売業への関心を高める。 POSレジ導入後、おにぎり廃棄数の大幅減少した事実から、その背景にある情報活用への問題意識を高める。 最新の情報技術を活用して販売を進化させようとする人々の思いや願いに共感させる。 <p>＜みとおす＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習計画ボードを掲示し、学習問題や学習計画を随時確認し、見通しをもてるようにする。 <p>＜えらぶ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットの事例を学習した後、さらに調べる事例を児童の興味・関心に合わせて選択できるようにする。 調べ方も、教師が作成した資料、児童による地域調査などから児童が選択できるようにする。 <p>＜まなびあう＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例を選択して調べた情報活用のひみつを紹介し合うことで、発見し合うことへの楽しさが感じられるようにする。 未来の販売の様子を想定して、自分とのつながりのあるテーマを設定して討論し、情報化社会の進展への関心を高める。 	つかむ	<p>＜学習問題をつかむ問い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜおにぎりの売れ残りが減ったのだろう。 POS システムはどこで使われているのだろう。 情報を生かすことで、消費者にはどのようなよさがあるのだろう。 	←	情報機器や販売の様子の変化に着目して	→
	学習問題	Tスーパーマーケットなどの販売業では、			
	しらべる	<p>＜しらべる問い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットでは情報を生かしたどのようなサービスを行っているのだろう。 スーパーマーケットでは、情報を生かしてどのように商品を管理しているのだろう。 <p>＜しらべる問い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の販売店ではどのように情報を活用しているのだろう。 	←	情報の種類に着目して	→
まとめる・つながる	<p>＜特色や意味を考える問い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売業は情報をどのように生かして発展しているのだろう。 販売業が情報を活用することで、人々の暮らしはどのように変わったのだろう。 <p>＜発展やかかわり方を考える問い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 無人レジが増えていくことは、誰にとってもよいことなのだろうか。 	←	情報によるつながりに着目して	→	
【研究内容3】 子供の学びを確かにする評価の工夫	子供が学びを振り返り、次の学びにいかす				
	調べたことを表にまとめて学習問題を振り返り、共通する情報の活用の仕方の理解を確かにする。また、学び方カードを活用して問題解決の過程を意識させる。特に、選択した事例や調べ方が有効だったか振り返り、次の学習に生かせるようにする。				

【本小単元で目指す子供像】

- 資料を基に調べ、販売業では様々な情報や情報通信機器を活用し、人々の生活をよりよくしていることを理解する子供。
- 情報や情報通信機器を活用している様々な販売業の共通点や、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考える子供。
- 学習問題の解決の進め方を振り返って、粘り強く取り組み情報化社会の進展に関心をもとうとする子供。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
<ul style="list-style-type: none"> ・おにぎりの売れ残りの変化 ・POSレジとパソコンの写真 ・情報技術の進展が分かる図表 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアはPOSレジで、消費者の購入履歴を集め、情報は本部で集約されて販売に生かしていることで無駄がない発注ができるようになった。 ・POSシステムは様々な店に広がり、スーパーマーケットなども情報を生かして、少ない人数で効率よく仕事ができるようになった。

どのように情報を活用しているのだろう。

<ul style="list-style-type: none"> ・スマートショッピングカートの写真 ・買い物の様子の動画 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートショッピングカートで、品物や金額だけでなく、買った順序などの買い物情報も集め、おすすめ商品を提示する。 ・レジ待ちがなく、キャッシュレスで支払いができるなど便利になってきている。
<ul style="list-style-type: none"> ・店舗運営の仕組み ・リテールAIカメラの写真 ・情報の流れ図 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品がなくなるとAIカメラが知らせるので、いつでも商品が棚に並んでいる状態にできる。 ・消費者がどのように商品を選んでいるかをみて、品ぞろえに反映させている。
<ul style="list-style-type: none"> ・衣料品店の情報活用例 ・飲食的の情報活用例 ・地域の店の情報活用例 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料品店では、大量の情報を生かして商品を開発して消費者の多様な好み合わせたり、ICタグなどを活用して在庫を効率よく減らしたりしている。 ・地域の販売店では、たくさんの情報を集めて、商品を無駄なく管理している。

スーパーマーケットや衣料品などの販売業は、様々な情報やスマートショッピングカートなどの機械を生かして、消費者のニーズをつかんだり、消費者のニーズに応えたりして売り上げをのばしている。また、情報機器を活用することで労働力不足を補ったり、作業の効率化を図ったりしている。だから、消費者は、商品の紹介を見たりすることで、より便利で自分のニーズに合ったサービスが受けられるようになった。

有効に情報を活用することで産業が発展し、国民一人一人の暮らしに合わせたサービスが受けられ、国民生活が便利になっていく。でも、情報活用には不安もあるから、これからも慎重に扱っていく必要がある。

指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）評価

個に応じたノート指導を行う。毎時の学習で分かったことや次の学習に向けて考えたことをノートに記述させ、毎時間の児童の理解状況を把握し、その時間の児童への指導や次時の指導改善に導き生かす。

【研究内容2】

社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【経過で見る】

- ・情報機器や販売の様子の変化に着目できるよう、POSシステム導入前と後のおにぎりの売れ残り資料や販売業の変化の様子を伝える店の人の話などの資料の読み取りを行う。
- ・情報活用の仕方の進展や効果に着目できるよう、ショッピングカードやリテールAIなどの資料や映像から情報を読み取りさせる。

【広がりでみる】

- ・POSシステムの広がりに着目できるよう、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、衣料品店など様々な店で新しい情報技術が取り入れられていることを事例に関する資料から読み取りをさせる。

【つながりで見ると】

- ・スーパーマーケットと配送センターや生産工場とのつながりに着目できるよう、商品と情報の流れを図式化することで相互の関係を視覚的に捉えられるようにする。

【比較・分類・関連・総合して考える】

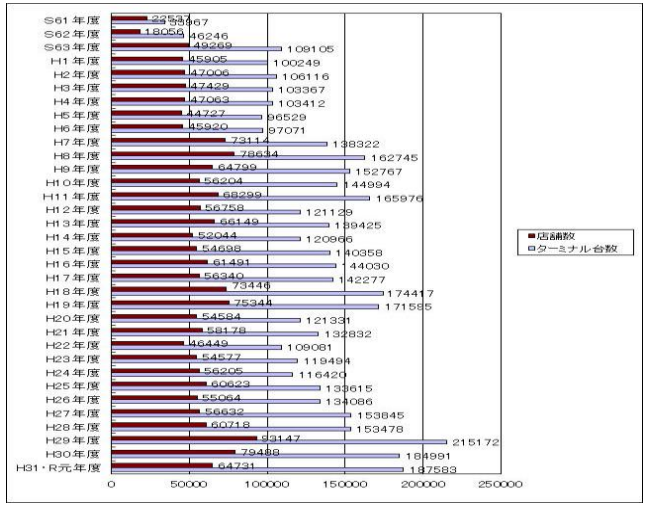
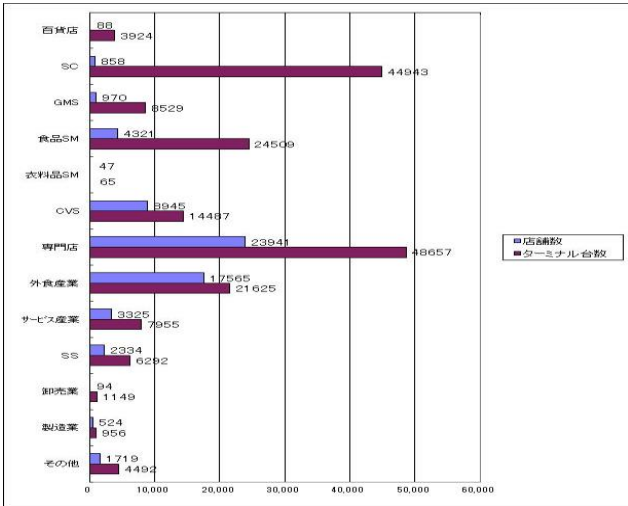
- ・コンビニエンスストアやスーパーマーケット、地域で調べた店の情報活用の仕方を比較して考え、類似点を見いだす話し合い活動を設定する。
- ・販売業の変化と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する販売業が国民生活に果たす役割を考え話し合う学習活動を設定する。

6 小単元の指導計画 (全7時間)

過程	ねらい	主な学習活動 (○) 評価につながる学習活動 (●) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
つ か む	コンビニエンスストアの情報を生かして販売の様子が変わったことを理解するとともに、販売業の情報活用について疑問をもつ。①	<p>◆なぜおにぎりの売れ残りが減ったのだろうか。</p> <p>○POSシステムの活用方法について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの販売データを基に、より正確に売れる数を予測して発注している。 ・無駄がなくなったから売り上げも伸びた。 <p>◆POSレジはどこで使われているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なお店でPOSレジが使われている。 <p>◆情報を生かすことで消費者にどのようなよさがあるのだろうか。</p> <p>○お店にとってのよさと消費者のよさを話し合っ表に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄をなくせる。 ・いつでも商品がある。 <p>●調べて分かったことや販売業の情報活用についての疑問をノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・POSレジで集めた情報はどこへ行くのか。 ・昔のレジはどうなっていたのか。 	<p>◎POS レジ導入前後のおにぎりの売れ残り量</p> <p>◎コンビニエンスストアのPOS システムの仕組み図</p> <p>◎衣料販売店、ドラッグストア、レストランのPOS レジの写真</p> <p>◎コンビニエンスストア店長の話</p> <p>□情報機器や販売の様子の変化に着目して疑問がもてるように資料提示を工夫する。</p> <p>【知技①】情報機器とそれに伴う販売の変化の様子について理解している。(発言・ノート)</p> <p>【思考①】情報機器や販売の様子の変化に着目して、問いを見出し、表現している。(発言・ノート)</p>
	スーパーマーケットなどの販売業の情報活用について学習問題を設定し、予想を考え、学習計画を立てる。②	<p>◆レジはどのように変わってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジで様々なことができることが増えた。 ・今よりさらにレジが進化するかもしれない。 <p>●Tスーパーマーケットの情報技術の発展が分かる図から生まれた疑問を書く。</p> <p>○疑問を発表し合い学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような新しい技術が生まれているのか。 ・集めた情報をどのように活用しているのか。 	<p>◎情報技術の発展が分かる図</p> <p>◎スーパーマーケットの売り上げや店舗数の推移が分かるグラフ</p> <p>◎リテールAI レベル</p> <p>◎トライアル写真</p> <p>【思考①】情報機器や販売の様子の変化に着目して、問いを見出し、表現している。(発言・ノート)</p>
<p>Tスーパーマーケットなどの販売業では、どのように情報を活用しているのだろうか。</p>			
		<p>●予想を書いて話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報や情報機器を活用してどのようなサービスをしているのだろうか。 ・スーパーマーケット以外の販売業ではどのように情報を活用しているのだろうか。 	<p>【態度①】販売業の変化や情報活用の仕方について、予想や学習計画を立て、学習問題を追究し、解決しようとしている。(発言・ノート)</p>
調 べ る	Tスーパーマーケットが情報を活用してすすめている販売のサービスの様子について理解する。(本時)	<p>◆スーパーマーケットでは情報を生かしてどのようなサービスを行っているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・POSレジやショッピングカートを活用し、情報を集めたりサービスを行ったりしているだろう。 <p>○スーパーマーケットの情報を活用したスマートショッピングカートの様子について資料から読み取り、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを置いて、客にあったクーポンやおすすめの商品を紹介している。 ・ゲートを通るだけで支払いが完了する。 <p>○情報や情報技術を活用することで、スーパーマーケットと消費者には、それぞれどのような良さがあるのだろうかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットは少ない人数で店を運営できる。 	<p>◎スマートショッピングカートの写真と文書資料</p> <p>◎スマートショッピングカートで買い物する動画</p> <p>□教師が用意した資料を調べ終わった児童は、自分のタブレットや教室に設置している書籍などで、さらに調べるよう伝える。</p> <p>□スマートショッピングカートの各機能だけでなく、スマートショッピングカート全体がどのような役割を果たしているか考えさせる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> レジに並ばなくていいので、時間短縮できる。 ●本時の問いについてまとめをノートに書く。 ・Tスーパーマーケットでは、情報を生かすスマートショッピングカートを導入している。それにより、少ない人数で店が運営したり消費者の利便性を高めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> □「リテール」(小売り)など難しい言葉について適宜補足する。 【知技①】 必要な資料から読み取って調べ、Tスーパーマーケットの情報活用の現状について理解している。(発言・ノート)
	Tスーパーマーケットの、情報を活用した商品管理や店舗運営の様子やTスーパーマーケット広報部長の願いについて理解する。 ④	<ul style="list-style-type: none"> ◆Tスーパーマーケットでは、情報を生かしてどのように商品管理をしているのだろう。 ○Tスーパーマーケットの情報を活用した商品管理の様子について資料から読み取り、気付いたことを話し合う。 ・客の好みを把握し、商品を置いている。 ・商品がなくなるとバックヤードにアラートを出し、欠品がないようにしている。 ○Tスーパーマーケット広報部長に聞き取りをして考えたことを話し合う。 ●Tスーパーマーケットの情報収集や情報活用の様子について表にまとめる。 ・商品がなくなるとAIカメラが知らせるので、いつでも商品が棚に並んでいる状態にできる。消費者がどのように商品を選んでいるかをみて品ぞろえに反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎商品管理の仕組みの資料 ◎リテールAIカメラの写真 ◎情報と物の流れが分かる流れ図 □情報や情報機器を活用した商品管理の仕組みのメリットに着目できるように資料提示を行う。 □情報を活用して販売の工夫をすすめてきた理由について電子メールまたは動画中継により聞き取り調査を行う。 【知技①】 必要な資料から読み取って調べ、Tスーパーマーケットの情報活用の現状やその目的について理解している。(発言・ノート)
	Tスーパーマーケット以外の販売店ではどのように情報を生かしているか調べ、様々な販売業の情報活用について理解する。⑤ (家庭学習含)	<ul style="list-style-type: none"> ◆Tスーパーマーケット以外の販売店では、どのように情報を生かしているのだろう。 ○他の販売業の情報活用の様子について、見学調査したり、資料を収集して調べたりしたことを発表し合う。 ・衣料品の販売業では、ICタグを付けて商品の管理を行っている。 ・飲食業では、情報を活用して客の人数や売り上げを予想している。 ・地域の販売業では、過去の販売データを使って無駄をなくしている。 ○それぞれの販売店の情報活用の特長を見つけ、話し合う。 ●分かったことを整理し、他の販売業の情報収集・活用の様子について図に整理する。 ・情報を活用することで、客を待たせないようにしたり、無駄をなくしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎衣料品販売業の情報活用 ◎伊勢市の飲食店の情報活用 ◎地域のコンビニエンスストアの情報活用 □家庭学習において、選択した販売店の情報活用について調べ、Tスーパーマーケットの情報収集や情報活用の様子をまとめた表に分かったことを整理しておく。 □写真やインタビューの言葉など根拠を示しながら発表させ、それぞれの販売店の情報活用の様子を確かめ合う。 【知技①】 必要な資料を集めたり読み取ったりして調べ、様々な販売店における情報活用の現状やサービスの向上について理解している。(発言・ノート)
まとめ	販売業で活用されている情報や情報機器について整理した表を基に、販売業に共通する情報活の仕方や情報をどのように生かした販売業の発展について考える。⑥	<ul style="list-style-type: none"> ◆販売業は情報をどのように生かして発展しているのだろう。 ○販売店の情報活用の様子を整理した表の内容を確かめ合い、共通点について話し合う。 ◆販売店が情報を活用することで、人々のくらしはどのように変わったのだろう。 ・消費者のニーズにより合わせた販売ができるようになった。 ・働く人が少なく困っていたが、情報機器を活用することで解消できた。 ・効率化や省人化がすすみ、お客さんへのサービスに人の仕事を集中できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎これまでに学習で活用してきた様々な資料 ◎調べたことをまとめた表 □整理した表を基に、販売店の情報活用についての類似点を見つけ合う。 □情報機器の進展や情報活の仕方と消費者のメリットを関連付けて、販売業の発展について考える。

		<p>スーパーマーケットや衣料品などの販売業は、様々な情報やスマートショッピングカートなどの機械を生かして、消費者のニーズをつかんだり、ニーズに応えたりして売り上げをのばしている。また、情報機器を活用することで労働力不足を補ったり、作業の効率化を図ったりしている。消費者は、商品の紹介を見たりすることで、より便利で自分のニーズに合ったサービスが受けられるようになった。</p>	<p>【思考②】情報化の進展に伴う産業の変化や発展と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。(発言・ノート・表)</p> <p>【知技②】調べたことをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、販売業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。(発言・ノート・表)</p>
<p>学習したことを基に、無人コンビニの賛否を考えることを通して、これからの情報活用について考えたことを意見文にまとめる。 ⑦</p>	<p>○無人コンビニの様子や売り上げの推移を見て気付いたことを話し合う。 ◆無人コンビニは社会に広まっていくのだろうか。 ○根拠を示して話し合う。 ・レジ待ちがなく時間が節約できるので広まる ・困った時に店員がいないと心配だから広まらない。 ●これからの社会でどのように情報を活用されていくべきか考えて意見文を書く。 ・情報を活用することで、国民一人一人の暮らしに合わせたサービスが受けられるようになってほしい。 ・情報を活用することで産業が発展し、国民生活が便利になる一方で、情報活用に不安をもつ人もいる。国民一人一人の意見を大切にしながら、情報を活用することが大切だ。</p>	<p>○無人コンビニの写真 ○無人コンビニの売り上げの推移や有人コンビニとの比較 □自分の立場を明確にし、尺度図にネームプレートを位置付ける。 □発言する際には、学習してきたことや資料を根拠に理由を説明できるようにして討論を進める。 □グループでミニ討論をしたあとに、立場の変更を確認する。 □学級全体で討論した後に、自分の最終的な考えを意見文としてまとめる。</p> <p>【態度②】学習したことを基に、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。(発言・ノート)</p>	



7 本時の学習 (3/7)

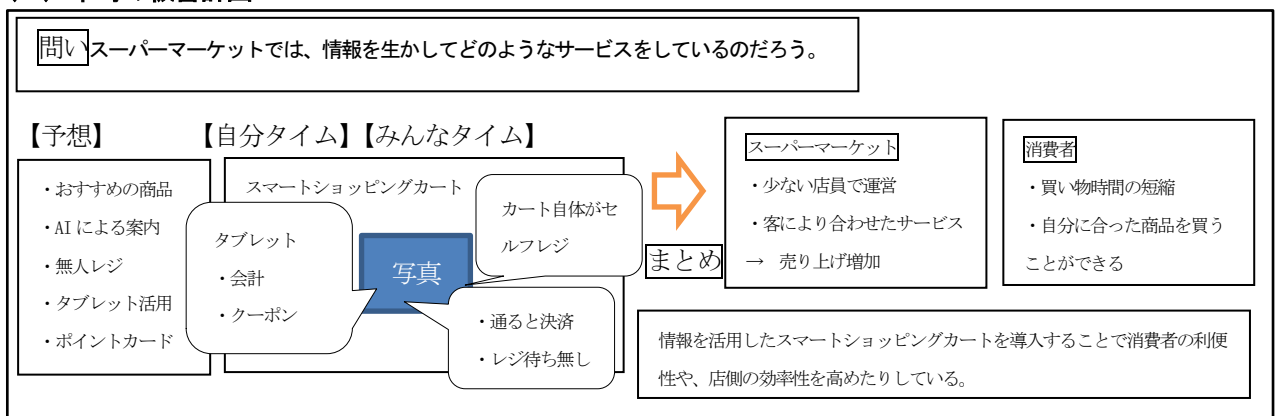
(1) 本時のねらい

スーパーマーケットの情報や情報技術を活用したサービスの様子について理解する。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入 (5)	<p>スーパーマーケットでは、情報を生かしてどのようなサービスをしているのだろう。</p> <p>○スーパーマーケットでは、情報を生かしてどのようなサービスを行っているか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・POS レジを活用して、おすすめの商品を伝えている。 ・AI が店の案内をする。 	<p>◎前時の学習の資料やノート</p> <p>□POS レジを想起させ、店や消費者の利便性を高めるようサービスを行っていることを予想させる。</p>
自分タイム (15)	<p>○スマートショッピングカートの機能について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットが付いていて、客に合ったクーポンやおすすめの商品を紹介する。 ・客がバーコードをスキャンさせると自動的に買った金額が合計されていく。 ・スマートショッピングカートについているバーコードをゲートが読み取るので、ゲートを通るだけで支払いが完了する。 	<p>◎スマートショッピングカートの説明</p> <p>◎スマートショッピングカートを紹介した映像</p> <p>□教師が用意した資料を調べ終わった児童は、自分のタブレットや教室に設置している書籍などで、さらに調べるよう伝える。</p>
みんなタイム (10)	<p>○スマートショッピングカートの機能について分かったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートショッピングカート自体がセルフレジになっている。 ・スーパーマーケットの売りたい商品が情報としてやり取りされている。 	<p>□根拠となる情報を示して話し合うようにする。</p> <p>□スマートショッピングカートの機能だけでなく、スマートショッピングカート全体がどのような役割を果たしているか考えさせる。</p>
みんなタイム (10)	<p>○情報や情報技術を活用することで、スーパーマーケットと消費者にとってどのようなよさがあるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットは少ない人数で店を運営できる。 ・消費者は自分に合った買い物ができる。 ・レジに並ばなくていいので、時間が短縮できる。 	<p>□スマートショッピングカートの活用が「効率化」「省人化」「多様なニーズにこたえる」「時間短縮」につながることを捉えさせる。</p>
まとめる (5)	<p>○本時のまとめを書く。</p> <p>スーパーマーケットでは、情報を生かしてスマートショッピングカートを導入している。それにより、少ない人数で店が運営したり、消費者の利便性を高めたりしている。</p>	<p>【知技①】スーパーマーケットの情報活用の現状について、必要な資料から読み取り、理解している。(発言・ノート)</p> <p>□本時のまとめを終えた児童から、次時の学習に向けて考えたことをノートに記入させる。</p>

(3) 本時の板書計画



8 参考資料
第7時 情報活用の現状

AIロボットが どんどん身近に!

毎日の生活にどんどん利用されているAI。道案内、話し相手、医療の現場など私たちの暮らしにしっかり役立ち、社会を便利にしています。

AIってなに?
AIとは、Artificial(人工的)なIntelligence(知能)の頭文字。人間の知的な作業をコンピュータに代わりにしてもらおうことを目的とした研究やシステムのことです。人の使う自然言語を理解したり、経験から学習して自らの知能を高めて、生活に役立ちます。

「AIによるタクシーの配車で待ち時間が減る!」
AIがタクシーの運行状況を分析し、スマートフォンの位置情報を利用して、人の流れやイベントなどの情報を予測するので、待ち時間が減ったりタクシーをスマートフォン上で見つけることが簡単になります。

「旅館のおもてなしがAIで成功!」
箱根の老舗ホテルが自社ホームページでAIを活用しお客様の質問に答えたところ、導入後5カ月で自社サイトからの予約が以前よりも10~15%増加し、驚くほどの効果が得られました。

「がんも早期発見で完治するかも!?!」
国立がん研究センターとNECがAIを使って新たな技術を開発。AIが約5000例あるがんの病変の画像を学習。瞬時にがんが体内にあるかどうかをモニター上で教えてくれます。

「ドローンで犯罪防止に大活躍!」
世界で犯罪捜査に力を発揮する監視カメラ。日本では一歩進んで、ドローンと組み合わせる予定です。顔や背丈、歩き方の認識はもちろん、ドローンの自由に飛べる力でますます活躍しそうです。

「部品を乗せて、工場内を自由に配達!」
無人搬送車が工場の地図を覚え、自分がどこにいるかを理解。まわりを判断しながら一番早いルートを選び、人の手を借りることなく目的地に部品を選びます。

医療や介護の現場にAIロボットが登場
手術を助け患者の身体への負担を少なくするロボットや、薬の調合の間違いをなくす調剤支援ロボットなど医療の現場ですでに優れた性能を発揮するロボットが現れています。また、介護の現場では、人の動きを検知して自立動作をサポート、介護する人の負担を軽くします。

羽田空港の安心・安全をかきこくサポート
羽田空港旅客ターミナルでは、AIロボットが大活躍。身体が不自由な人を助ける自動運転の車いす、目的場所を案内してくれる遠隔案内ロボット、そして新型コロナウイルス対策にも役立つ消毒作業ロボットの3種類です。空港内を安心して利用できるよう力を発揮しています。

「省エネにつながる!」
家庭で使う電力、ガス、水道などを毎日計測。日ごと、月ごとのデータから省エネのアドバイスをしてくれます。

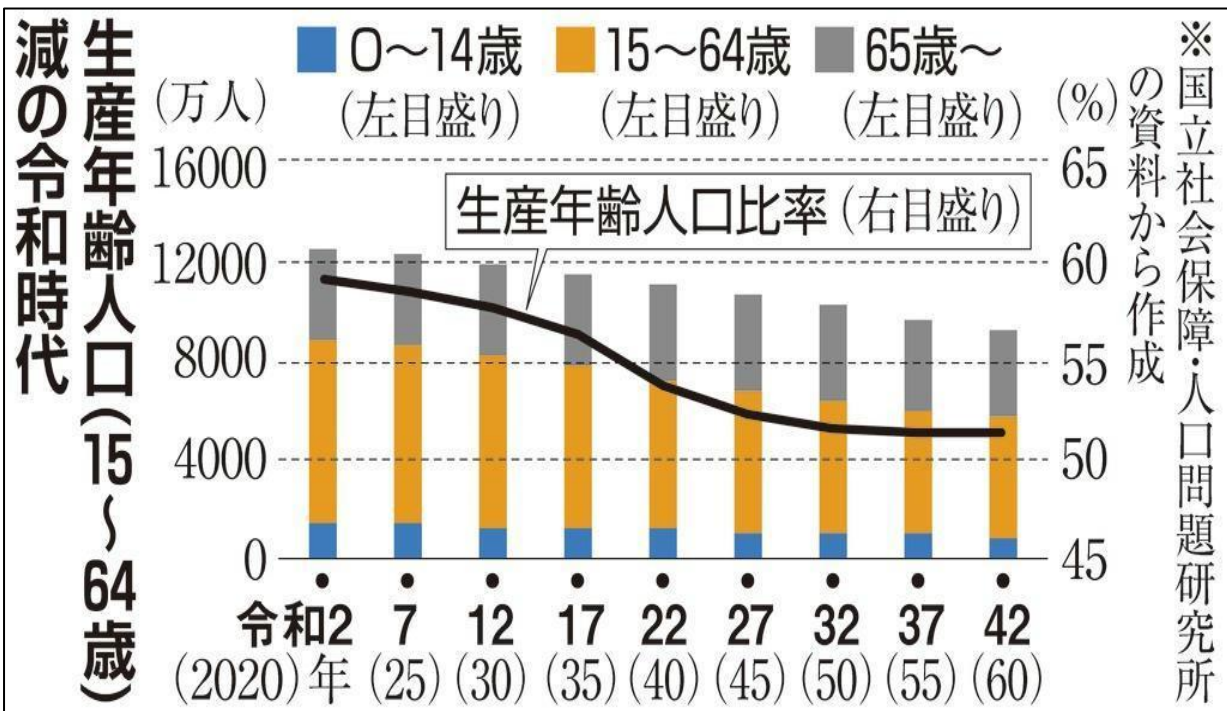
戸締り、火の元も!
さらに、玄関の明かりが家を出た後すぐにOFF、また戸締り、火の元の確認などができます。

「どの部屋も快適設定」
部屋ごとの照明、空調をAIにまかせれば、読書をする時間、寝る時間の部屋の明るさ、温度、香りなどを自由に設定できます。

「ドローンで犯罪防止に大活躍!」
世界で犯罪捜査に力を発揮する監視カメラ。日本では一歩進んで、ドローンと組み合わせる予定です。顔や背丈、歩き方の認識はもちろん、ドローンの自由に飛べる力でますます活躍しそうです。

「これからの生活はどうなるの?」
AIによって、人間の話す言葉や動作がそのまま理解され、文章の作成、車の自動運転、翻訳や通訳など、新しいサービスが続々と生まれて便利になる反面、人間以上の仕事をするため、AIに置き換えられた人は、失業してしまうのでは、との不安もあります。

第7時 社会の変化・課題



9 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆問い【】 評価規準	観察対象児童の学習記録		教師による考察
		A児	B児	
1時	<p>◆なぜおにぎりの売れ残りが減ったの だろう。</p> <p>○店員の話で調べる。 ○POSシステムの活用方法について調べる。</p> <p>◆情報はどこに行くの だろう。</p> <p>◆情報を何に使っているの だろう。</p> <p>◆POSレジはどこで使われているの だろう。</p> <p>○振り返りを書く。 【知技①】【態度①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本部が集めたPOSレジの情報を参考に、店に合わせて仕入れや残りの量を予測して発注していることが分かった。 ・情報は年齢に合わせた品ぞろえや宣伝に使われていることも分かった。 ・POSレジはスーパー、本屋、薬局でも使われている。 ・POSレジの情報のよさや情報の使われ方、問題点をこれから調べたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・POSレジの情報をもとに発注の仕方を変え、おにぎりの売れ残りを減らしたことが分かった。 ・情報は本部に集められ、商品の売れ行きを予測や発注に生かされていることが分かった。 ・POSレジの情報が品ぞろえや宣伝以外に何に活用されているか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の進展と販売の様子の変化との関係性を捉えることができた。POSシステム導入前後の比較は有効だった。 ・POSレジによって得られた情報の活用が見えにくかったため、情報の流れを図で示し補足した。 ・POSレジで情報を集める利点や具体的な情報の活用方法を調べる見通しをもつことができた。
2時	<p>◆レジはどのように変わってきたの だろう。</p> <p>○レジの変化を調べる。</p> <p>◆売り上げを高めるためにどのように情報を活用しているの だろう。</p> <p>○疑問を発表し合い学習問題をつくる。 Tスーパーマーケットなどの販売業では、どのように情報を活用しているの だろう。</p> <p>○学習計画を立てる。 ・情報の活用 ① トライアル ② 他のお店 ③ これからの社会 【思考①】【態度①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機械式→電子式→POSレジ→ミニセルフレジと変わってきた。 ・ロボットやカメラを使っているかもしれない。 ・トライアルの今とこれからの情報活用の仕方や昔から今にかけての変化を調べたい。 ・今日は周りの人と話し合いながら学習計画を立てたり順番を決めたりすることができた。私は情報を生かした産業をあまり知らないので学習計画の2つ目の問いに興味があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械式レジから電子式レジ、POSレジなどになっていって手間が省けてとても使いやすくなった。セルフレジは、店員さんの手間も省けてさらに使いやすい。 ・郊外の店舗は自動車を利用している人が多いという情報をもとに駐車場を広くしている。 ・この単元を学習する前は、コンビニやネット通販のことしか知らなかったけれど、POSレジなどを調べてたくさんさんの疑問が出たので、学習問題を立てられました。たくさん予想もできたので学習計画も立てられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジの歴史のイラスト資料やセルフレジの模型を用意して児童に使用させたことでレジの変化に着目し関心が高まった。 ・情報活用に関する用語が難しかったので、用語解説ボードを掲示した。 ・資料からトライアルのAI活用レベルを知り、現在や今後の具体的な情報活用の仕方の進展に着目した疑問をもてた。 ・トライアル以外のお店の情報活用にも疑問が広がった。3年生の地域の販売の学習経験がつながっている。
3時	<p>◆スーパーマーケットではどのように情報を活用しているの だろう。</p> <p>○動画や文章資料で調べて話し合う。 ○情報を活用する良</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでスキャンしてレジ待ちしないし、クーポンやおすすめ商品が出る。現金のかわりにカードで買い物できる。 ・消費者はレジ待ちせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用することで、消費者は自分が買った商品に関連する商品の紹介を受けられる。経営者は人件費を抑えたり、消費者一人一人のニーズに合った 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴したことで、スマートフォンショッピングカートの機能を捉えることができた。本単元では見えない情報の流れや情報活用の利点を理解するのに動画が有効であった。経営者と消費者の立場から目的

	<p>さを経営者と消費者の立場から話し合う。</p> <p>○振り返りを書く。</p> <p>【知技①】</p>	<p>ずにかごと家に帰ることができる。レジの人がいないので人件費の節約になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアルでは、AIなど最新技術を駆使しながら、経営者にとっても消費者にとってもよい点のあるシステムを作って情報を活用している。 	<p>商品をすすめたりすることで売り上げを伸ばすことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアルではスマートショッピングカートなどの最新の技術を導入して人件費を抑えたり、商品の売り上げを伸ばしたりしている。 	<p>や良さを確かめ合う活動は情報機器の進展や情報活用の意味を理解するうえで有効な手立てであった。</p>
4時	<p>◆Tスーパーマーケットでは、どのように情報を活用しているのだろう。</p> <p>○動画や文章資料で調べて話し合う。</p> <p>○情報を活用する良さを経営者と消費者の立場から話し合う。</p> <p>○スーパーマーケットの情報収集や情報活用の様子を表にまとめる。</p> <p>【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買うまでの行動や売れ行きを分析し、欠品や売れ残りを防ぐ。 ・いつ欠品したか分析し、従業員の負担を軽くしている。 ・トライアルではスマートショッピングカートのほかにもリテール AI カメラなど様々なシステムを使って、完全無人化店舗に向けていろいろな情報を生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来店客の動きの情報から、客の好みやどのコーナーに行ったのかをつかむ。 ・情報は本社に送るが必要なければ消すことで、個人情報の保護や常に情報を最新のものになっている。 ・トライアルではAIなどを活用して、お客さんの顔や手に取った商品などを記録して商品の在庫情報の確認や万引き防止につなげている。また、AIを活用することによって、店員の負担や食品ロスを減らしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴したことで、リテール AI カメラの機能を捉えることができた。 ・前時と授業展開が似ていたため、児童が活動にスムーズに取り組めた。 ・動画視聴・タブレットによる検索・本による調べ学習と児童が自分に合った方法で追及できるようにしたことで、自ら進んで調べる姿がみられた。
5時	<p>◆Tスーパーマーケット以外の販売店では、どのように情報を生かしているのだろう。</p> <p>○他の販売業の情報活用の様子について、見学調査したり、資料を収集して調べたりしたことを発表し合う。</p> <p>○それぞれの販売店の情報活用の特長を見つけ、話し合う。</p> <p>○分かったことを整理し、他の販売業の情報収集・活用の様子について図に整理する。</p> <p>【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニクロやGUでは、商品を置くだけで会計できるようになった。機械式レジからPOS レジまでのようにどんどん進化して使いやすくなっていた。 ・RFID タグを導入したことで時間を大幅に短縮することができ、レジ待ちを減らせた。 ・トライアル以外の販売業では、トライアルのように客情報などを活用して売り上げを伸ばしたり、食品ロスを削減したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニクロやGUでは商品に RFID タグを使うことで店員の在庫管理が楽になった。 ・客にアプリに登録してもらい買った服の種類や数の ・トライアル等の情報や機械を活用している販売業では、客が過去に買った商品の情報やどんな物を好むか、客の不満などの情報を商品開発や買い物が便利になるように活用している。しかし、機械をたくさん活用しているので点検も必要で、故障した時には莫大な費用がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料品店、飲食店、小売店から選んで調べることで児童の追及の意欲を高めることができた。また、販売業について幅広く調べることで、集めている情報の種類や情報活用の仕方についての共通点が明確になった。 ・それぞれの販売業について教員が調べる資料を作成し、まずその資料を調べるようにしたことで発表の際に共通の資料をもとに話し合うことができた。

6時	<p>◆販売業は情報をどのように生かして発展しているのだろう。</p> <p>○販売店の情報活用の様子を整理した表の内容を確かめ合い、共通点について話し合う。</p> <p>◆販売店が情報を活用することで、人々のくらしはどのように変わったのだろう。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 【思考②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>買い物が効率的になり、客が時間を有効活用できるといった共通点がある。</u> ・スーパーなどの販売業ではアプリやカードで客の動きや売れ行きなどを集め、売り上げ予測や食品ロス削減に役立っている。一方で、機械では緊急時に対応できないなどの課題もたくさん抱えている。また、これによって消費者側も買い物が効率的になったなど生活が変化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>販売業が情報を活用することで、人同士の接客が減ったり、店員の仕事が減り給料も下がったりした。また、<u>買い物の時間短縮や手間を省くことができるようになった。</u></u> ・<u>スーパーマーケットなどの販売業では、<u>情報を人々の生活がより良いものになるように工夫して活用して、売り上げや店舗数を伸ばすだけでなく、店員の時間や時間が省けるようになった。また、客の生活がよりよいものになった。だが、店員の給料が減り、情報活用はいいことばかりではない。</u></u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・図に整理することで、様々な販売業の情報収集や情報活用の様子を比較しやすくなった。 ・比較する視点（集めている情報、情報活用の仕方、受けられるサービス、生活の変化、課題）を明確にしたことで、それぞれの視点で比較しやすくなった。
7時	<p>◆無人コンビニは社会に広まっていくのだろうか。</p> <p>●これからの社会でどのように情報を活用されていくべきか考えて意見文を書く。 【思考②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人で金額を半分ずつ払うなどできないことも増えるので、全て無人コンビニになるのは難しいと思う。でも、現金の盗難が無くなるなど良い点もあるので有人と無人が半々くらいになると思います。 ・機械やAIの長所を生かし、短所は人間が補っていくことで機械と人間が協力し課題を解決して最終的には誰もが効率的に利用できるように情報を活用していくのがいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラケーが苦手な人、現金が使えない、点検が必要等のデメリットが多いから社会に広まっていけないと思う。 ・お客さんなどの消費者にはスマホや機械が得意という人だけでなく、スマホを持っていないお年寄りや機械が苦手な人もいるから情報を活用するのもいいけれどその時に誰もが使えるようなシステムにすればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無人コンビニの長所・短所について例示したことで、児童がイメージをつかむことができ、自分の考えをもつうえで有効であった。 ・ポジショニングの機能を使うことで、自分の立場をはっきりさせることができた。また、それぞれの児童のコメントも見ることができ、考えを広げるために有効であった。

考察

高学年では「社会とつながり未来を創ろうとする子供」を目指す児童像としている。

B児は第6時で「スーパーマーケットなどの販売業では、情報を人々の生活がより良いものになるように工夫して活用して、売り上げや店舗数を伸ばすだけでなく、店員の手間や時間が省けるようになった。また、客の生活がよりよいものになった。」と記述している。この記述より、販売業の情報活用の様子について調べたり、表に整理したりすることを通して、販売業が情報を活用することで人々の生活をよくしていることを理解していると考えられる。

A児は第6時で、「買い物が効率的になり、客が時間を有効活用できるといった共通点がある。」と記述している。このことより、販売業の共通点に気が付いていると考えられる。また、「スーパーなどの販売業ではアプリやカードで客の動きや売れ行きなどを集め、売り上げ予測や食品ロスの削減に役立っている。これによって消費者側も買い物が効率的になったなど生活が変化している。」との記述から、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について自分なりに考えていると判断できる。

A児は第3時で「今日は周りの人と話し合いながら学習計画を立てたり順番を決めたりすることができた。私は情報を生かした産業をあまり知らないので学習計画の2つ目の問いに興味があります。」と記述している。この記述より、学習問題の解決の進め方を振り返り、調べる見通しをもち情報化の進展に興味をもちながら学習を進めようとしていると考えられる。

・目指す児童像の実現の背景にある指導のポイントが以下の2点である。

- ① 単元のねらいを達成するために教材開発を行い実社会の状況を踏まえた教材を提示することで、情報を活用して発展する産業について児童が意欲的に考えることにつながった。
- ② 調べたことを整理した表を活用することで、児童が販売業における情報活用について比較・分析し、活用して



[スーパーマーケットの情報活用が分かる映像を見る様子]

第6学年 社会科学学習指導案

令和3年6月18日

6年1組32名

授業者 坪田 真尚

1 小単元名 「大陸に学んだ国づくり」(7時間)

2 小単元の目標

我が国の歴史的事象について、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営を手掛かりに、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べて関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子について考え、表現することを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを関連図や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。</p>	<p>① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え、表現している。</p> <p>② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>	<p>① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

4 小単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、学習指導要領に第6学年の内容(2)に基づいて設定する。

(2) 我が国歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

アの(イ)：大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること

アの(シ)：遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること

アの(ア)：世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること

(2) 教材について

当時の政治にかかわる人々が大陸文化を取り入れ、天皇中心の国づくりが進められたことを捉えることをねらいとしている小単元である。この教材には、苦労して大陸に渡る人々や、多くの偉業を成し遂げた歴史上の人物などが多く登場する。そのため、人物の働きや努力などの事象や人々の相互関係に着目させることが重要になる。

本実践では、これらの見方に加え、大陸と日本の地図を活用した空間的な見方、何度も努力が繰り返されたことわかる年表を活用した時間的な見方を合わせ、関連させて考えることで「なぜこれほどまでの苦労をして大陸文化を学ぶのか」「どのようなことを学びたいのか」そして「学んだことをどのように国づくりに生かしたいのか」という児童の問いを見出せるようにし、児童が主体的に問いを追究することができるようにする。

また、聖徳太子が苦労して大陸文化を取り入れようとする姿、それを引き継ごうとする中大兄皇子と中臣鎌足、さらに力を全国に広める聖武天皇、それを支える小野妹子、鑑真、行基の働きに着目して調べることで、当時の人々には天皇中心の国づくりを進めたいという共通の願いがあることが捉えられる。それらの願いを実現するために多くの人が努力をする姿、成し遂げる姿に尊敬の念を抱いたり、共感したりしながら児童が学べるようにしたい。

5 単元構想

【本単元につながる児童の学習経験】

前小単元「国づくりへの歩み」では、想像図から人々の生活の様子、写真資料や地図から古墳の出現と広がりや大和朝廷の支配の広がりなどを読み取る活動を行ってきた。縄文時代の様子と古墳時代の様子を比較し、大きく世の中社会が変わったそして、調べたことを比較したり関連付けたりして、豪族による支配が広がり、人々の生活が変化していったことを理解した。

【研究内容 1】

主体的に問いを追究する工夫

- ア問題意識と追究意欲を高める。
命を落しかねない厳しい中国に向かう船上の遣唐使の気持ちを想像させることで、遣唐使の使命や目的について共感的に問題意識を高める。
- イ追究の見通しをもてる
人物の取組をまとめた年表や前小単元の学び方カードを手掛かりに学習問題の解決の見通しをもてるようにする。
- ウ振り返りを次につなげる。
一単位時間の終わりに、まとめに加えて疑問や次時の予想などを書かせることで連続性のある学習にする。
- エ学習計画に照らして振り返る。
学習問題や学習計画に照らし合わせて追究結果や追究方法を振り返ることで学習問題の解決に向けて粘り強く取り組めるようにする。
- オ問題意識と追究意欲を高める。
大仏の手の実物大の資料と児童自身の手の大きさを比較する活動を通して天皇の力の大きさへの追究意欲を高める。
- カ学習問題の解決を確かめ合う。
調べる段階を振り返り、調べ足りないことはないか、どのようにまとめるかについて集団の見通しをもつ時間を設ける。
- キ単元での成長を自覚する。
学び方カードの記入を通して身につけた学び方や次の単元への活用について意識させる。

子供の主体的な問題解決の側面から

過程	想定される「問い」	子供に働かせたい 見方・考え方	
つかむ	<p><学習問題をつかむ問い> 人々は何のために命がけで中国を目指したのだろうか。 ・政治や文化を学ぶためでは？ ・大陸の文化や政治で国内を安定させるためでは？</p>	←	遣唐使の目的に着目して →
学習問題	大和朝廷は大陸からどのようなことを学び		
しらべる	<p><しらべる問い> 聖徳太子はどのような国づくりをしたのだろうか。 ・天皇家の力を強くするための政治をしたのでは？ ・豪族を弱める政治をするのでは？</p>	←	聖徳太子の働きに着目して →
	<p><しらべる問い> 二人はどのような国づくりをしたのだろうか。 ・太子の思いを引き継いだのでは？ ・天皇を助ける政治をしたのでは？</p>	←	中大兄皇子と中臣鎌足の働きに着目して →
	<p><しらべる問い> 聖武天皇はどのような国づくりをしたのだろうか。 ・三人の人物の思いを継いだのは？ ・天皇の力をより強くしたのでは？</p>	←	聖武天皇の働きに着目して →
	<p><しらべる問い> 大陸との交流をすることでどのようなものが伝わったのだろうか。 ・外国の道具が増えたのでは？</p>	←	天皇の支配の広がりに着目して →
まとめる	<p><特色や意味を考える問い> この時代に活躍した人々はどのような国づくりを目指していたのだろうか。 ・聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の願いは同じなのでは？ どのような時代に変わったのだろう。</p>	←	外国との関わりに着目して →
		←	歴史的事象を関連付けて 前の時代の社会の様子と比較して →

社会とつながり
未来を創る子供

天皇の力を強くするために、聖徳太子などの多くの人々が中国から学びさまざまな仕組みを作ってきた。その努力の結果、天皇中心の国づくりを進めることができた。さらに、聖武天皇の大仏造営から天皇の力が全国へと

【研究内容3】子供の学びを確実にする評価の工夫

ア 学び方カードの活用

主体的に追究する姿に照らして自身の学び方を振り返り、問題解決的な学習の進め方を自覚する。また、学習段階ごとに自身の学び方を振り返る機会を設け、次の段階に進めるかを判断して学習を進める。

イ 教師が学習状況を見取り指導に生かす

毎時間のノートのまとめや振り返りを見取り、変容を価値づけたり次の指導方法を改善したりする。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
<ul style="list-style-type: none"> 遣唐使派遣の想像図 遣唐使の派遣年表 	<p>大変な苦勞をしてこの頃の人々は遣唐使を唐に派遣し、政治の仕組みなど大陸文化を積極的に摂取しようとした。</p>

どのように生かしたのだろうか。

<ul style="list-style-type: none"> 冠位十二階 十七条の憲法 	<p>聖徳太子は、仏教を重んじて法隆寺を建立したり、小野妹子を遣隋使として中国に派遣したりして大陸文化を積極的に摂取し、天皇中心の国をつくるために、冠位十二階や十七条の憲法などの政治の仕組みを整えた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 平城京の写真 都に運ばれた生産物と日数の地図 	<p>中大兄皇子と中臣鎌足は、大化の改新という政治の改革を行い、土地や人民を天皇が治めたり、税を集めたりする政治の仕組みを整え、天皇中心の新しい国づくりを進めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 聖武天皇の命令 大仏の材料の産出地地図 	<p>聖武天皇は、行基らの協力により国家的な大事業として東大寺の大仏や国分寺をつくり、仏教の力をかりて国を守ろうとした。このころには天皇中心の政治が都だけでなく広く全国に及んだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> アジアの品々 日本と関あいのつながりを示す地図 	<p>聖武天皇は遣唐使を中国におくり、その願いにより鑑真が来日して仏教の発展に大きな役割を果たしたり、大陸の文化が渡ってきたりして、当時の宝物は今でも正倉院で保管されている。</p>
<p>有力な豪族が日本各地を治め、大和朝廷の力が地方まで及び始めていた世の中から、飛鳥時代から奈良時代にかけては、聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇などの人物の働きにより、唐から政治の仕組みや仏教などの文化を取り入れ、天皇中心の国づくりを進め、聖武天皇の頃には天皇の力が全国に及ぶような世の中になった。</p>	

広がったことがわかった。そして、この頃天皇中心としてまとまった日本が現在の日本につながっていることや、多くの人々が共通の願いをもち、努力していることがすばらしいと感じた。

【研究内容2】

見方・考え方が働く学習活動の工夫

ア 遣唐使を時間的・空間的に捉える。

地図から中国との位置関係や距離、年表から250年以上もの間に繰り返し遣唐使が送られたことに着目して調べる。

イ 遣唐使の目的に着目する。

遣唐使の気持ちを想像して吹き出しに書き話し合う。

ウ 優先順位を比較して考える。

学習問題の解決に必要な問いと理由について話し合い、優先順位を考えて学級の学習計画を作成する。

エ 人物の働きに着目する。

資料から必要な情報を読み取り、人物の業績や願いについて調べる。

オ 天皇の力の広がりに着目する。

都に運ばれた生産物や木簡などの税を集める仕組みを資料から読み取る活動や、大仏の材料の産出地の地図を活用して調べる活動を工夫する。

カ 中国とのつながりに着目する。

日本の政治や文化に大きな影響を与えた唐（中国）とのつながりが捉えられるよう、大陸の文化が運ばれてきたシルクロードの地図を読み取る

キ 歴史の展開を考える。

人物の働きを関連付けて考えることができるよう関連を図式化する活動や、前単元での世の中の様子と比較して考える。

社会とつながり
未来を創る子供

6 小単元の指導計画（全7時間）

過程	ねらい (数字は時数)	主な学習活動 (○) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
	遣唐使の派遣に着目し、大陸の文化と日本の国づくりについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。 (本時) ①	○遣隋使の船が航行する様子の絵から、苦勞をして渡航していることを捉える。 ○地図、年表から大變な苦勞をして遣唐使が派遣されていることを読み取り、当時の人々の気持ちを吹き出して記入する。 ○遣唐使が持ち帰った物を写真資料、教科書で読み取る。 ○資料を基にして学習問題を作る。 ・これほど苦勞して持ち帰った巻物には何が書いてあるのだろうか。 ・学んだことと天皇家の力はどのようにつながるのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習問題：大和朝廷は大陸からどのようなことを学び、どのように生かしたのだろうか。</div>	◎朝廷の命令で中国へと向かう遣唐使船(想像図) ◎遣唐使派遣の年表 ◎遣唐使の航路 【思判表①】ノートの記述から「遣唐使の派遣の様子に着目し問いを見出しているか」を評価する。 □個人で疑問を考えたのちに、少人数グループで疑問を分類し、学級全体で集約する。
つかむ	学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。 ②	○大和朝廷の勢力範囲を示す地図と年表を根拠にどのような国づくりをしたのかを予想する。 ・天皇家以外の家のほうが広い。 ・広いということは力が強いということだろう。 ・天皇家が弱くなってしまったのだろう。 ・天皇家の力を強くするための政治をするのではないだろうか。 ・年表を読むと色々な人がきまりなどを作っているから、きまりを通して天皇の力を取り戻そうとするのだと思う。 ○学習問題の解決に必要な問いと理由について話し合い、優先順位を考えて学習計画を立てる。 ・聖徳太子はどのようなことをしたのだろうか。 ・大化の改新とはどのようなものだろうか。 ・聖武天皇はどのようなことをしたのだろうか。 ・大陸からはどのような文化が持ち込まれたのだろうか。	◎大和朝廷の勢力範囲を示す地図 ◎年表 ◎聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の肖像画 【態度①】ノートの記述から「予想や学習計画を立て、追究の見通しをもととしているか」を評価する。 □勢力の広がりや人物と行ったことに着目させて、学習計画を立てる。
調べる	聖徳太子の考えや太子が行った政治の特色を調べ、天皇中心の国造りが進められたことを理解する。 ③	◆聖徳太子はどのような国づくりをしたのだろうか。 ○大和朝廷の勢力範囲を示す地図から聖徳太子がどのような国づくりをしたのかを予想する。 ・天皇家以外の家のほうが広い。 ・広いということは力が強いということだろう。 ・天皇家が弱くなってしまったのだろう。 ・天皇家の力を強くするための政治をするのではないだろうか。 ○聖徳太子がどのようなことを行ったのかを調べる ・十七条の憲法で役人の心構えを示した。 ・冠位十二階をつくり、家柄にとらわれず能力があ	◎聖徳太子肖像画 ◎大和地方の豪族の分布を示した地図 □中国の国づくりの仕組みを参考に取入れたことに気付かせる。 ◎冠位十二階の制度 ◎十七条の憲法 ◎遣隋使の派遣(小野妹子)

	<p>る人を取り立てられるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法隆寺をたて、仏教を広めようとした。 <p>○本時の問いに対するまとめをノートに書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>聖徳太子は天皇中心の国づくりを目指して、中国に遣隋使を送って政治のしくみを改め、仏教を国づくりに取り入れた。</p> </div>	<p>【知技①】文章資料から聖徳太子の業績について読み取り、ノートのまとめの記述から「聖徳太子が天皇中心の国づくりを進めたことを理解しているか」を評価する。</p>
<p>木簡に記されていた内容や大化の改新を調べ、天皇中心の中央集権の仕組みが整えられたことを理解する。④</p>	<p>◆二人はどのような国づくりをしたのだろうか。</p> <p>○木簡の写真資料を読み取り、全国からの木簡が奈良にあることから中大兄皇子と中臣鎌足がどのような国づくりをしたのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から品物が届けられるということは全国の人に従っているということだから、天皇の力が強くなるように二人が仕組みなどを作ったのだと思う。 <p>○大化の改新とその後の改革の内容について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を滅ぼし、新しい政治を始めた。 ・すべての土地と人民を天皇が治める政治の仕組みや税の仕組みが作られた。 ・中国にならった法律の律令も作られた。 <p>○本時の問いに対するまとめをノートに書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>中大兄皇子と中臣鎌足は大化の改新とその後の改革を通して、天皇中心の国づくりをさらに進めた。</p> </div>	<p>◎中大兄皇子、中臣鎌足の肖像画</p> <p>◎木簡写真資料</p> <p>□大化の改新と天皇中心の国家形成とを関連付けて考えさせるために、税の仕組みや律令のねらいを話し合わせる。</p> <p>◎大化の改新の4コマ漫画</p> <p>◎都に運ばれた生産物と輸送にかかった日数</p> <p>◎律令で定められた農民の負担(租庸調)</p> <p>【知技①】文書資料から大化の改新について読み取り、ノートのまとめの記述から「大化の改新を通して中央集権の仕組みが整えられたことを理解しているか」を評価する。</p>
<p>聖武天皇の大仏造営の様子を調べ、天皇を中心とした政治が確立したことを理解する⑤</p>	<p>◆聖武天皇はどのような国づくりをしたのだろうか。</p> <p>○年表の一部を読み取り聖武天皇がどのような国づくりをしたのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ききんや伝染病などの流行などの災いが相次いでいるから、天皇の力が落ちないようにすると思う。 ・人々を安心させられるようにすると思う。 <p>○聖武天皇がどのようなことを行ったのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から物資を集めて大仏を造営した。 ・全国に国分寺を建てた。 ・行基などの渡来人も活躍した。 <p>○大仏の大きさ、大仏造営の大変さを感じられる資料を読み取り、そこから考えられることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな大仏を作り、仏教を重んじることで国を安定させようとしたのだと思う。 ・これだけ多くの人、材料を使ったということは天皇の力がとても強いということだと思う。 	<p>◎聖武天皇肖像画</p> <p>◎年表</p> <p>□天皇の力の大きさに気付かせるために、大仏や平城京の大きさと国分寺が置かれた場所とを関連付けて話し合わせる。</p> <p>◎大仏建立の詔</p> <p>◎行基の写真資料</p> <p>◎大仏の手の実際の大きさの資料</p> <p>◎大仏の材料の産出地</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳のように大きなものをつくることで天皇の力が大きいということを示したかったのだと思う。 <p>○本時の問いに対するまとめをノートに書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>聖武天皇は仏教の力で不安をしずめて国を守るために、国をあげて国分寺や東大寺の大仏を作った。</p> </div>	<p>【知技①】 文書資料から聖武天皇の業績について読み取り、ノートのまとめの記述から「聖武天皇の時代に天皇を中心とした政治が確立したことを理解しているか」を評価する。</p>
<p>大仏が完成したころの日本とアジアの国々との交流を調べることを通して、日本の国づくりへの大陸の政治や文化の影響を理解する。</p> <p>⑥</p>	<p>◆大陸との交流をすることでどのようなものが伝わったのだろうか。</p> <p>○鑑真が来日した経緯から、鑑真の思いや日本に招いた人々の願いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に仏教を広めたい。 ・正しい仏教を伝えたい。 <p>○正倉院宝物や地図から、日本とアジアの国々とのつながりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コップや器は朝鮮やペルシャのものとよく似ている。 ・地図を見ると交通路が中国から今のヨーロッパまでつながっている。 <p>○本時の問いに対するまとめをノートに書く。</p>	<p>□鑑真の信念を共感的に捉えさせるために渡航の苦勞と授戒の必要性を関連付けて話し合わせる。</p> <p>◎鑑真の写真資料 ◎正倉院写真 ◎外国で出土した品々と正倉院の宝</p> <p>【知技①】 文書資料から大陸から渡ってきた文化について読み取り、ノートのまとめの記述から「日本の国づくりには大陸との交流や人々の協力が重要であったことを理解しているか」を評価する。</p>
<p>大陸から学んだ進んだ制度や文化を生かしてどのような国づくりを進めてきたのかを整理し、学習問題について自分の考えを表現する。</p> <p>⑦</p>	<p>◆3人に共通する国づくりへの願いは何だろうか。</p> <p>○聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の国づくりへの願いを考え、ノートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の業績は天皇の力を強めることや、広めることを目的としているため、3人とも天皇の力が強い、天皇中心の国を作ろうとしたのだと思う。 <p>◆前の時代と比べて、この時代はどのような社会になったと言えるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時代も大きな古墳を作っていたので天皇の力は大きくなっていったが、天皇の力は争いを通じて大きくなっていった。しかし、この時代は決まりや制度を通じて天皇の力を強くしていた。そのため、前の時代よりも、より現代に近づいてきていると感じた。 	<p>◎聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の肖像画 ◎行基、鑑真の写真</p> <p>【知技②】 調べたことを関連図や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。</p> <p>【思判表②】 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、前の時代との比較により、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p> <p>□人々の願いを共感的に捉えさせるために、国づくりと人々の働きを関連して整理、再構成させる。</p>

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

遣唐使の派遣に着目し、大陸の文化と日本の国づくりについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
導入	<p>○前単元で学習した時代の様子を確かめ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に力をつけた大和朝廷の権力者を大王（天皇）と呼んでいた。天皇家以外の豪族の力が強くなってきていた。 <p>○朝廷の命令で中国へと向かう遣唐使船（想像図）からわかること、考えたこと、乗っている人物の心情をノートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海が荒れているので危険だ。・手漕ぎの船なので大変そうだ。 <p>○遣唐使船の航路、遣唐使派遣の年表からわかることを資料を見ながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500 km以上離れていて大変そうだ。 ・何回も遣唐使が派遣されているし、遭難や沈没している。 	<p>◎前小単元のまとめ資料</p> <p>◎朝廷の命令で中国へと向かう遣唐使船（想像図）</p> <p>◎遣唐使船の航路</p> <p>◎遣唐使派遣の年表</p>
	<p>学習問題をつかむ問い：人々は何のために命がけで中国を目指したのだろうか。</p> <p>○問いに対する予想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お坊さんがいるから仏教のことを学びに行ったのではないか。 ・渡来人のような大陸の進んだ文化が欲しかったのではないか。 ・強い技術力で国の力を強めたかったのではないか。 <p>○教科書で遣唐使の目的を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の進んだ政治の仕組みや大陸の文化を学んだ。 ・法律や歴史についての書物や仏教の経典などを手に入れた。 	<p>□教科書を活用し、遣唐使の目的を捉えられるようにする。</p> <p>◎遣唐使が持ち帰った物（写真）</p>
自分タイム	<p>○さらに調べたいことや疑問を付箋に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような人が中国へ渡ったのだろうか。 ・遣唐使に命令した人は誰だろうか。 ・苦労して持ち帰った巻物には何が書いてあるのだろうか。 ・大陸から学んだ政治の仕組みとはどのようなものだろうか。 ・仏教の教えとはどのようなものなのだろうか。 ・学んだことと天皇家の力はどのようにつながるのだろうか。 ・大陸から渡ってきた文化とはどのようなものだろうか。 ・食文化以外の文化も渡ってきているのだろうか。 	<p>【思判表①】 ノートの記述から「遣唐使の派遣の様子に着目し疑問を見出しているか」を評価する。</p>
みんなタイム	<p>○少人数グループで疑問を共有し、分類をする。</p> <p>○学級全体で疑問を共有し、学習問題を設定する。</p>	<p>□付箋とワークシートを活用して問いを分類させる。</p>
	<p>学習問題 大和朝廷は大陸からどのようなことを学び、どのように生かしたのだろうか。</p>	

【板書】

遣唐使船 想像図	遣唐使船 航路	人々は何のために命がけ で中国を目指したのだろ うか。	各少人数グループの発 表を分類して板書する。
	遣唐使船 年表	遣唐使の持ち帰 った物	
			学習問題

【想像図から分かったこと・考えたことをノートに記述する児童】



【グループで疑問を共有し、分類する様子】



【学級全体で疑問を共有し、学習問題を設定する】



第6学年 社会科学習指導案

令和3年11月5日
6年2組32名
授業者 白澤 恵梨香

1 小単元名 「明治の新しい国づくり」(8時間)

2 小単元の目標

世の中の変化や外国との関わり、明治の国づくりに関わった人々の願い、明治政府の仕組みや政策などに着目して、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子を考え、表現することを通して、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、人物の働きや代表的な文化遺産に関心を高められるようにする。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の変化や外国との関わり、明治の国づくりに関わった人々の願い、明治政府の仕組みや政策などについて、地図や年表などの資料を活用して調べ、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて理解している。 ②調べたことを関係図にまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化をすすめたことを理解している。	①世の中の変化や外国との関わり、明治の国づくりに関わった人々の願い、明治政府の仕組みや政策などに着目して問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え、表現している。 ②黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを関連付けたり総合したり、江戸の頃と比較したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の変化を考え、表現している。	①明治時代の近代化について予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、学習指導要領に第6学年の内容(2)に基づいて設定する。

- (2) 我が国歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- アの(ケ)：黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。
- アの(シ)：遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること
- アの(ア)：世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること

(2) 教材について

本小単元では、黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、天皇を中心とする中央集権化を進め、さらに欧米の文化を取り入れることにより近代化を進めたことを理解することがねらいである。

明治維新の中心都市は東京である。社会事象との出会いでは、江戸と明治初期の高輪の様子を比較する活動を設定することで、自分たちの住む東京が、江戸から大きく変わっていったことに問題意識をもたせたい。

また、列強のアジア進出が進み、国内外の情勢が大きく変わっていきなから木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛などを中心に新しい国づくりが行われていく。黒船来航の衝撃の大きさからその当時の人物の心情を考えることで、人物の願いや思いに着目して学習問題をつかむことができるようにする。

明治維新の諸改革には、西洋諸外国から学び新しい国づくりに関わる人々の思いや願いが色濃くにじんでいる。強く豊かな国を目指して取り組まれた明治政府の諸改革を丁寧に調べ、関係図にまとめることを通して、このころの政治の仕組みや世の中の変化について考えることができるようにしたい。

5 小単元の構想図

【本小単元につながる児童の学習経験】

小単元「大陸に学んだ国づくり」では、挿絵の資料を基に当時の人々の思いに着目して読み取ったり、学習計画を立てる際に年表を活用して見通しをもったりする活動を行った。さらに国づくりに関わった人々の政策などを関連付けたり総合したりすることで、そこに込められた願いについて考えられた。本小単元とは、新しい国をつくる上で、外国とのつながりや天皇中心の国づくりを目指す人々の願いなど、共通する視点があるため、既習内容が生かされるだろう。

【研究内容1】
主体的に問いを追究する工夫に向けて

＜もんだいいしき＞

・列強の進出がアジア全土に広がっていることや黒船の圧倒的な大きさなどが捉えられる資料を通して、当時の人々の緊迫感や切実感を想像させ、明治政府の国づくりについて共感的に問題意識を高める。

＜みとおす＞

・年表を活用して少人数グループごとに学習計画を立てる。
・学級で共通に調べる事項を決めておき、学習計画ボードに明記し、常時掲示して見通しをもって追究できるようにする。

＜えらぶ＞

・学習問題解決に向けて調べる際には、学級で立てた学習計画に即して、教科書を中心に調べることにするが、グループで調べる方法や資料を選択して、一人一人の主体的追究ができるようにする。

＜まなびあい＞

・学習計画に沿って、グループごとに分担したり、協力して確かめ合ったりして2時間の追究活動をすすめる。
・調べる段階の最後には学級全体で調べた内容を共有する活動を設定することで、知識の広がりへの意欲を高める。

子供の主体的な問題解決の側面から

過程	想定される「問い」	子供に働かせたい 見方・考え方
つかむ	＜社会的事象と出会う問い＞ なぜ江戸の町は短い期間で大きく変わったのだろうか。	← 世の中の変 化に着目し て →
	＜学習問題をつかむ問い＞ 開国によって世の中はどのように変化したのだろうか。 明治の国づくりに関わった人々はどのような思いだったのだろうか。	← 外国とのつ ながりに着 目して 当時の人々 の願いに着 目して →
学習 課題	明治の国づくりに関わった人々は、どのような国づく	
し ら べ る	＜しらべる問い＞ 明治政府はどのような政治の仕組みを整えたのだろうか。	← 明治政府の 仕組みに着 目して →
	＜しらべる問い＞ 国を豊かにするために何をしたのだろうか。	← 明治政府の 経済的な政 策に着目し て →
	＜しらべる問い＞ 国を強くするために何をしたのだろうか。	← 明治政府の 軍事的な政 策に着目し て →
	＜しらべる問い＞ 人々の生活はどのように変化したのだろうか。	← 人々のくら しや町の様 子の変化に 着目して →
ま と め る	＜特色や意味を考える問い＞ まとめた関係図からどのようなことが考えられるだろう。 江戸と比べて明治はどのような世の中になったと言えるだろうか。	← 調べたこと を比較・関 連・総合させ て考える。 →

【研究内容3】

子供の学びを確かにする評価の工夫

子供が学びを振り返り、次の学びにいかす

- ・学習計画の進捗について、毎時グループで振り返る時間を設定する。
- ・学び方カードを活用して、問題解決の段階ごとに自分の学び方を振り返り、問題解決な学習の進め方を自覚できるようにする。
- ・単元を通して学び方の成長を振り返り、次の単元につなげていく。

【本小単元で目指す子供像】

- 資料を基に、明治の国づくりを進めた人々は西洋の文化を取り入れながら天皇中心の強くて豊かな国をつくらうとしていたことを理解する子供。
- 国づくりを進める人々の願いやこれまでの時代の国づくりとの共通点や相違点について考える子供。
- 学習問題の解決に向けて、学習を振り返り、粘り強く取り組む子供。

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代と江戸時代の高輪の様子 ・ペリー来航絵 	ペリー艦隊の来航をきっかけに、日本は開国し、江戸時代の終わり頃から短い間で町の様子が大きく変化した。
<ul style="list-style-type: none"> ・占領された長州藩の砲台 ・大政奉還 ・江戸城の明け渡し ・列強のアジア進出地図 	開国による影響によって幕府に代わる新しい政治を求める動きが強まり、江戸幕府が倒れて武士の政治が終わり、新しい世の中の基礎をつくるための明治維新が始まった。

りを目指し、どのようなことをしたのだろう。

<ul style="list-style-type: none"> ・五か条の御誓文 ・廃藩置県 ・人口の割合 	明治政府は、天皇を中心とした近代的な国家の仕組みづくりを目指し、明治維新を進めて社会を変えていった。
<ul style="list-style-type: none"> ・地租改正 ・富岡製糸場 ・外国とのつながり ・渋沢栄一 	富国強兵のスローガンのもと、明治政府は西洋の国々にも学びながら国を経済的に豊かにするための諸政策を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・徴兵令 ・外国とのつながり 	富国強兵のスローガンのもと、明治政府は西洋の国々にも学びながら、国を軍事的に強くするための諸改革を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校に通った子供の割合の変化 ・福沢諭吉 ・明治時代の生活に関する年表 	明治時代には西洋の文化や考え方が積極的に取り入れられ、人々の暮らしや意識、社会の制度が変化した。
<p>木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通らを中心とした明治政府は、西洋の文化や仕組みを取り入れながら、天皇を中心とした近代的な国家を目指して、政治や社会の新たな仕組みづくりを進めたり、富国強兵の政策を進めたりした。また、人々の生活にも西洋の文化が取り入れられたり、福沢諭吉によって西洋の考え方が紹介されたりしたことで、人々の生活や考え方が大きく変わり、今につながる制度や暮らし方が始まった。</p>	

【研究内容2】

社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

【広がりでみる】

- ・外国との関わりに着目できるように、列強によるアジアの進出を表す地図やペリーの日本までの航路地図などを読み取る活動をする設定する。

【つながりで見ると】

- ・明治政府の政治の仕組みに着目できるように、江戸幕府の政治と明治政府の政治の仕組みを比較する活動をする。

- ・明治政府の政策に着目できるように、明治政府の政治、軍事、経済、生活に関わる資料を読み取る活動を設定する。

【経過で見ると】

- ・世の中の変化に着目できるように、明治時代と江戸時代の高輪の様子の絵を比較して読み取る活動を設定する。

【比較・分類・関連・総合して考える】

- ・明治の国づくりに関わった人々を中心にし、明治政府が行った政策等を関係図にまとめ、政策を相互に関連付けて、その目的を考え、話し合う活動を設定する。
- ・江戸の頃の様子を比較して、明治のころの政治の仕組みや世のなかあの変化の様子について考え、話し合う学習活動を設定する。

指導と評価の一本化を図る（教師が指導に生かす）評価

- ・毎時間の終末の振り返りでは、問いについて分かったことと考えたり疑問に思ったりしたことを記述させ、知識を獲得することができているかを評価し、個別の支援に生かしていく。
- ・子供の表現活動などまとめの作品の内容について教師がB基準を想定してゴールの子供の姿の具体化を図り、思考や理解の状況を見取り、個別の支援に生かしていく。

6 小単元の指導計画 (全8時間)

過程	ねらい	主な学習活動 (○) 評価につながる学習活動 (●) 問い (◆) 予想される児童の反応 (・)	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
	<p>2枚の浮世絵から世の中が変化したことを読み取り、黒船来航による世の中の変化についての問いを見いだす。</p> <p>①</p>	<p>○明治時代と江戸時代の高輪の様子を比較し、違いについて話し合う。</p> <p>◆なぜ江戸の町は短い期間で大きく変わったのだろうか。</p> <p>・洋風になっているから外国とのつながりが始まった。鎖国が終わった。</p> <p>○黒船来航の目的について調べる。</p> <p>○黒船の大きさを感じる資料、ペリーの2枚の肖像画を見て、当時の人々の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>○外国と結んだ不平等条約について調べる。</p> <p>○問いについてのまとめをノートに書く。</p> <p>●黒船来航をきっかけとした日本の変化についての疑問をノートに書く。</p>	<p>◎江戸時代と明治の高輪の様子</p> <p>□江戸時代は鎖国であったにも関わらず短期間で変化したことを確認した上で考えさせる。</p> <p>◎黒船来航の絵</p> <p>◎黒船と日本の千石船の比較スライド</p> <p>◎ペリーの肖像画</p> <p>◎外国と結んだ不平等条約</p> <p>□当時の人々が黒船に恐れや焦りを抱いたことを捉えさせる。</p> <p>【思考①】黒船来航による世の中の変化に着目して、問いを見いだしているかを評価する。(ノート)</p>
つ	<p>開国による人々の暮らしの変化や新しい政治を目指す動きについて調べ、武士の世の中が終わった経緯を理解する。</p> <p>①</p>	<p>○占領された長州藩の砲台の写真資料を読み取り、開国による影響について話し合う。</p> <p>◆開国によって世の中はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○生活への影響について教科書で調べ当時の人々の気持ちを考え話し合う。</p> <p>○占領された下関砲台と薩英戦争の写真から当時の人々の気持ちを考え話し合う。</p> <p>○大政奉還、江戸城開城を調べ、約260年続いた江戸幕府が終わりについて話し合う。</p> <p>●開国による世の中の変化をノートに書く。</p>	<p>◎ペリーの肖像画</p> <p>◎占領された長州藩の砲台</p> <p>◎幕末の米の値段の移り変わり</p> <p>◎薩英戦争</p> <p>◎大政奉還</p> <p>◎江戸城の明けわたし</p> <p>【知技①】開国による人々の暮らしの変化や新しい政治を目指す動きを調べ、武士の世の中が終わった経緯を理解しているかを評価する。(ノート)</p>
む	<p>黒船が来航した当時の人々の思いや願いについて話し合い、明治政府の国づくりについて調べる学習問題を設定し、学習計画を立てて追究の見通しをもつことができている。</p> <p>③</p> <p><本時></p>	<p>○列強によるアジア進出について白江ぶる。</p> <p>・日本以外のほとんどの国が侵略されている。</p> <p>・このままだと日本も危険だ。</p> <p>◆明治の国づくりに関わった人々はどのような思いだったのだろうか。</p> <p>・日本を強い国にしないと日本もあぶない。</p> <p>・強くするためにさまざまなことをすべき。</p> <p>・人々の不満がでない豊かな国にすべき。</p> <p>○予想を確かめるための学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習問題> 明治の国づくりに関わった人々は、どのような国づくりを目指して、どのようなことをしたのだろうか。</p> </div> <p>○学習問題を解決するためにはどのような問いが必要なのかを考え、学習計画を立てる。</p> <p>・どのような政治の仕組みを作ったのか。</p> <p>・国を強くするために何をしたのか。</p> <p>・国を豊かにするために何をしたのだろうか。</p> <p>・人々の生活はどのように変化したのか。</p> <p>●つかむ段階を振り返りカードに記入する。</p> <p>・見通しがもてたから自分でも調べたい。</p> <p>・タブレットで検索して調べてみよう。</p>	<p>◎列強のアジア進出地図</p> <p>◎木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通の肖像画</p> <p>□列強が東アジアに進出していく様子がわかるスライドを通して時間の経過ごとに確かめ、当時の日本人がどのように捉えるのか想像して話し合う。</p> <p>□ここまで考えてきた自分達の考えは予想であるため、事実を確認するためにどのような学習問題を設定すべきか話し合う。</p> <p>◎明治時代の年表</p> <p>□年表や資料を基にして学習問題解決に向けて必要な学習計画を立てられるようにする。</p> <p>【思考①】当時の人々の願いに着目して問いを見いだしているかを評価する。(ノート)</p> <p>【態度①】学習計画の作成を通して学習の見通しをもっているかを評価する。(学び方カード)</p>

<p>資料を活用して調べ、明治政府がどのような政治の仕組みを整え、どのような政策を進めたのか、そして世の中の人々の暮らしにはどのような変化があったのかについて理解する。</p> <p>④⑤</p>	<p>◆明治政府は、どのような政治の仕組みを整えたのだろうか。</p> <p>○五箇条の御誓文から政府がどのような方針で国づくりをすすめたのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの意見を聞いて、世界からも学び、天皇中心の国を作ろうとしている。 <p>○政府が行った諸改革を調べ、それによって社会がどのように変わったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名が納めていた領地と領民を天皇に返すようにした。(版籍奉還) ・藩を廃止して権を置く、廃藩置県を行い、各県に政府の役人を送り込んだ。(廃藩置県) ・江戸時代までの古い身分制度を改めた。(四民平等) <p>◆国を豊かにするために何をしたのだろうか。</p> <p>○殖産興業(富岡製紙工場)、地租改正の内容について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済を発展させるために国の費用で外国から機械を買い入れ、製糸場や兵器工場などの官営工場を作った。 ・国の収入を安定させるために土地の価格に応じた税金を取る地租改正を行った。 <p>◆国を強くするために何をしたのだろうか。</p> <p>○徴兵令について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民による西洋式の強い軍隊をつくるために、20歳以上の男子すべてに兵役の義務を定めた徴兵令を出した。 <p>◆人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○学校制度や暮らしにどのような変化があったのか、絵画や年表などから調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に通った子供の割合が多くなっていった。 ・西洋風のものが増えていった。 <p>○福沢諭吉の業績について調べ、人々の生活や考え方の変化、現代の暮らしへの影響を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家柄などによって身分が決まるしくみは間違っている。学問をすることで自立していくべきだという主張が広がった。 <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの問いについてのまとめをノートに書く。 ●調べてきたことを問いに照らして確かめ合、発表に迎えるかどうか、さらに調べることはないかを振り返り、学び方カードに記入する。 	<p>□学習計画に沿ってグループで2時間かけて調べ学習を進める。</p> <p>□資料集のコピーを用意し、児童が必要な資料を切り取ってノートに貼れるようにする。その際、大切などころに線を引いたり、社会的事象の意味を書き足したりするように促す。</p> <p>□教科書を中心に調べることとするが、資料集やタブレットのデジタル教科書、関係書籍などを選んで調べ学習を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎五箇条の御誓文 ◎廃藩置県 ◎人口の割合(四民平等) ◎岩倉使節団 <p>□江戸幕府と明治政府の仕組みを比較することで明治政府の仕組みを理解しやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎江戸時代の組織図 ◎大久保利通 ◎富岡製糸場 ◎地租改正 ◎徴兵令 ◎江戸時代に描かれた高輪の様子 ◎明治時代の始めの高輪の様子 ◎小学校の授業風景 ◎福沢諭吉 ◎明治時代に始まったことの年 <p>【知技①】明治政府が天皇中心で豊かに国づくりを進めたことを理解している。</p> <p>【知技①】明治政府の政治の仕組みや富国強兵政策に着目して集めた情報から、明治政府が目ざした国づくりを理解しているかを評価する。(ノート)</p> <p>【知技①】人々の暮らしや考え方の変化に着目して集めた情報から、文明開化について理解しているかを評価する。(ノート)</p> <p>【態度①】問いについて十分調べることができたか振り返り、調べな往相としていたり、発表に向けて準備をしたりしようとしているかを評価する。(学び方カード)</p>
--	--	--

	<p>問いについて調べたことを確かめ合い、明治政府がどのような国づくりを目指していたのかを理解する。 ⑥⑦</p>	<p>○問いについて調べてきたを学級全体で確かめ合い、それがどのような国づくりを目指したのかを考えて話し合う。 <明治政府の政治の仕組み> ・明治政府は外国に学んで天皇を中心とした国の仕組みを目ざした。 →藩ごとに分かれていた日本を一つにまとめ、外国に対抗できるようにするため。 <明治政府の経済的な政策> ・富国強兵のスローガンのもと、明治政府は西洋の国々にも学びながら国を経済的に豊かにするための諸政策を行った。 →政府に税金が集まるようにし、様々な事業を起こして、国を豊かにするため。 <明治政府の軍事的な政策> ・富国強兵のスローガンのもと、明治政府は西洋の国々にも学びながら、国を軍事的に強くするための諸改革を行った。 →もしも外国に攻め込まれても自分の力で守ることができるようにするため。 <世の中のくらしの変化> ・明治時代には、西洋の文化や考え方が取り入れられ、人々の考え方が大きく変わり、今につながる制度や暮らし方が始まった。 →様々な面で西洋化が急速にすすんだ。 ●明治政府がどのような国づくりを目指していたのかを考え、ノートにまとめる。</p>	<p>◎これまでの調べるために集めた資料や記録したノート □学級全体で調べたことを確かめ合う時間を活用して、調べ足りないことについて補えるようにする。 □学習計画の問いごとに、各グループで調べたことを確かめ合う。 □問いごとに事実の共有ができたなら、明治政府の諸改革にはどのような意味や願いがあるのかを考えていく。 □問いごとに考えたことを基に、明治政府に関わる人々がどのような国づくりを目指したのかを話し合い、お互いの考えが深まるようにする。</p> <p>【思考①】 調べた事実を根拠にして、明治政府の政治の仕組みや政策の目的に着目し、諸改革のねらいや意味について考えているかを評価する。(ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>調べたことを関係図にまとめ、日本は欧米の文化を取り入れて近代化を進めたことを理解し、明治政府の政策と人々の暮らしや社会の変化を関連付け、どのような国が目指されたのかを考え、表現する。 ⑧</p>	<p>●明治の国づくりを関係図にまとめる。 ◆まとめた関係図からどのようなことが考えられるだろう。 ●学習問題に対する自分が考えた結果を書く。 ・木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通らを中心とした明治政府は、西洋の文化や仕組みを取り入れながら、天皇を中心とした近代的な国家を目指して、政治や社会の新たな仕組みづくりを進めたり、富国強兵の政策を進めたりした。また、人々の生活にも西洋の文化が取り入れられたり、福沢諭吉によって西洋の考え方が紹介されたりしたことで、人々の生活や考え方が大きく変わり、今につながる制度や暮らし方が始まった。 ◆江戸の頃と比べて明治のころはどのような世の中になったと言えるだろう。 ●自分が考えたことをノートに書く。 ・江戸時代は武士の世の中で、徳川の江戸幕府が他の大名の上に立ちって政治を行っていたけど、明治政府は西洋の文化を取り入れて天皇中心の強くて豊かな国を作ろうとした。四民平等になり、国の仕組みが、現在の社会の様子に近い世の中になっていったと思う。</p>	<p>◎木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通の肖像画 ◎四民平等 ◎廃藩置県 ◎富岡製糸場 ◎徴兵令 ◎文明開化</p> <p>【知技②】 明治に国づくりについて調べたことを関係図にまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化をすすめたことを理解しているかを評価する。(ノート)</p> <p>【思考②】 明治政府の諸改革、文明開化による社会の変化などを関連付けたり、江戸の頃と比較したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の変化を考え、表現しているかを評価する。(ノート)</p>

7 本時の学習 (3/8時)

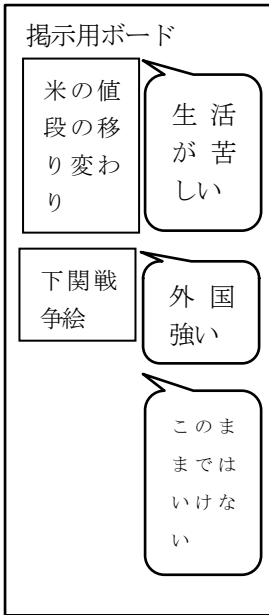
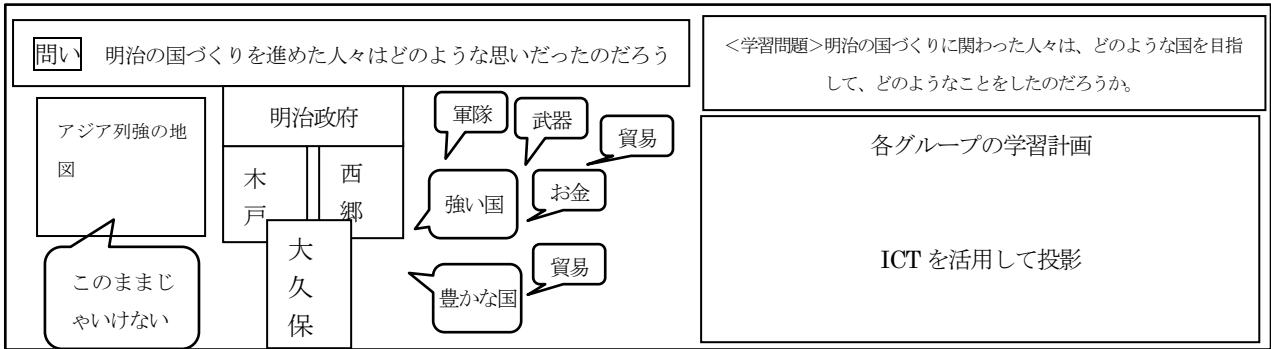
(1) 本時のねらい

黒船が来航した当時の人々の思いや願いについて話し合い、明治政府の国づくりについて調べる学習問題を設定し、学習計画を立てて追究の見通しをもつことができている。

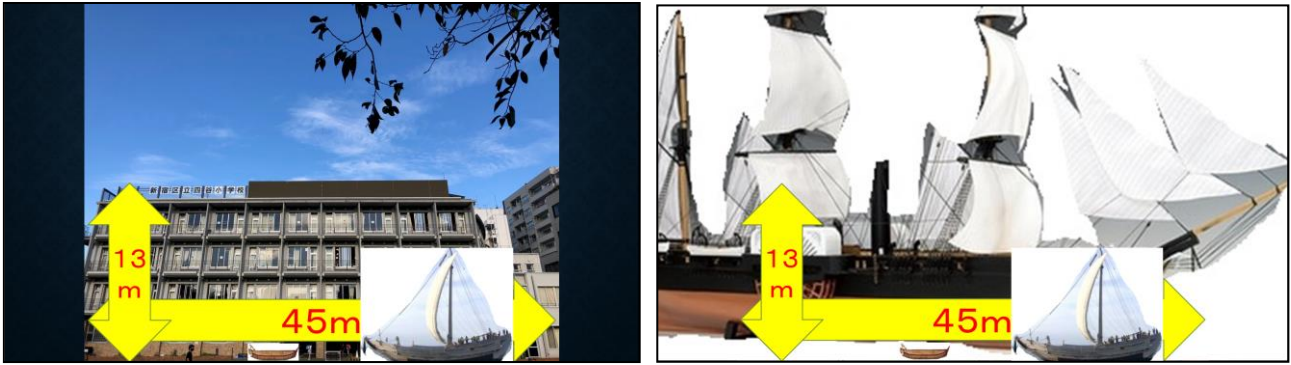
(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入 (8)	<p>○米の値段の移り変わりと下関戦争に対する当時の人々の心情、明治の国づくりの中心人物(木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通)について確かめ合う。</p> <p>○列強によるアジア進出が進んでいった様子をパワーポイントの資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本以外のほとんどの国が侵略されている。 ・このままだと日本も危険だ。 ・日本もだれかが何とかしないとイケない。 	<p>◎米の値段の移り変わり</p> <p>◎下関戦争</p> <p>◎木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通の肖像画</p> <p>◎列強のアジア進出地図</p> <p>□明治の国づくりの中心人物の立場で列強のアジア進出地図を見るように促す。</p>
	<p>明治の国づくりを進めた人々はどのような思いだったのだろうか。</p>	
自分 の 時 間 (7)	<p>○本時の問いに対する自分の考えをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を強い国にしたい。強くするために……、 しゅくみをえへる⇒きまり、しゆざい しゆんたいやぶきをえへる⇒しゆれん お金をえへやす⇒えきぎのさいかい えいこくからしゆぎをえへる⇒えいがいはいせん、えきぎのさいかい ・しゆまがでなないしゆかんなくにしたい⇒しゆししやしくする 	<p>□どんなくにしたいかをえへられた児童には、そのよんなくになるためにはどのおんなことをする必要があるのかをえへさせる。</p> <p>□しゆえんがひつとんな児童には「えいごしゆりふのくにづくりではどのおんなことをしていたか」ということをえへりえへさせる。</p>
みんな の 時 間 (8)	<p>○しゆぎたいせいで話しえへる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつとしゆかが、日本を強い国にしようとしたしゆい。 <p>○しゆぎたいせいのしゆぎしゆんたいをさいていする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><しゆぎしゆんたい></p> <p>明治のくにづくりにかゝった人々は、どのおんなくにづくりをえへて、どのおんなことをしたのだろうか。</p> </div>	<p>□児童のしゆいを「くにのしゆしゆみ」「さいせい」「人々のしゆしゆ」「えいこくとのおんながかり」にふんれいしてはくしゆする。</p> <p>□ここまでえへてきた自分たちのしゆいはしゆんたいであるため、しゆじをしゆじんするたためにどのおんなしゆぎしゆんたいをさいていする必要があるのかを話しえへる。</p>
みんな の 時 間 (17)	<p>○ねんたいをしゆみえり、えへるべきことをノートに書く。</p> <p>○しゆぎたいせいでえへるべきしゆいについて話しえへる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治しゆりふがどのおんなしゆしゆみをえへたのだろうか。 ・明治しゆりふはくにをえへくするたためにどのおんなさいせいをしたのだろうか。 ・明治しゆりふはくにをしゆかにするたためにどのおんなさいせいをしたのだろうか。 ・人々のしゆしゆはどのおんなにえへんじしたのだろうか。 	<p>◎明治しゆりふのねんたい</p> <p>□たぶれっとをえへんたいして、それぞれがえへたえへることをしゆぎでこゝろし、しゆぎしゆんたいを話しえへるよんなにする。</p> <p>【しゆしゆ①】</p> <p>当時の人々のしゆいにかゝりてしゆいを見いだしているかをえへんたいする。(ノート)</p>
ふり かえり の 時 間 (5)	<p>○つかむしゆんたいのしゆぎをえへりえへり、自分のしゆびふたとえへるしゆぎの見しゆしについてしゆびふたに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見しゆしをしゆかりともつことができた。しゆぎしゆんたいにえへていきたい。 ・まづはしゆりふ、しゆじしゆをこゝろにえへてえへていきたい。しゆじにかゝりてしゆりふをえへて、えへながらえへたしゆんたいについてえへてえへたい。 ・えへたとえへたことをこゝろししながらえへんたいしてえへてえへていきたい。 	<p>◎しゆびふたカード</p> <p>□しゆびふたカードをえへるしゆんたいのえへんたいを以下のおんなにえへてしゆくしゆんたいを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左のしゆびふたのしゆんたいをきんたいに自分のしゆぎのえへんたいをえへりえへりえへてえへよう。 ・次のしゆぎにえへんたい見しゆしがもてえへたか。 <p>【えへんたい①】</p> <p>しゆぎしゆんたいのえへんたいをえへんたいして、しゆぎしゆんたいのえへんたいにかゝりてしゆぎしゆんたいを見しゆしをえへんたいする。(しゆびふたカード)</p>

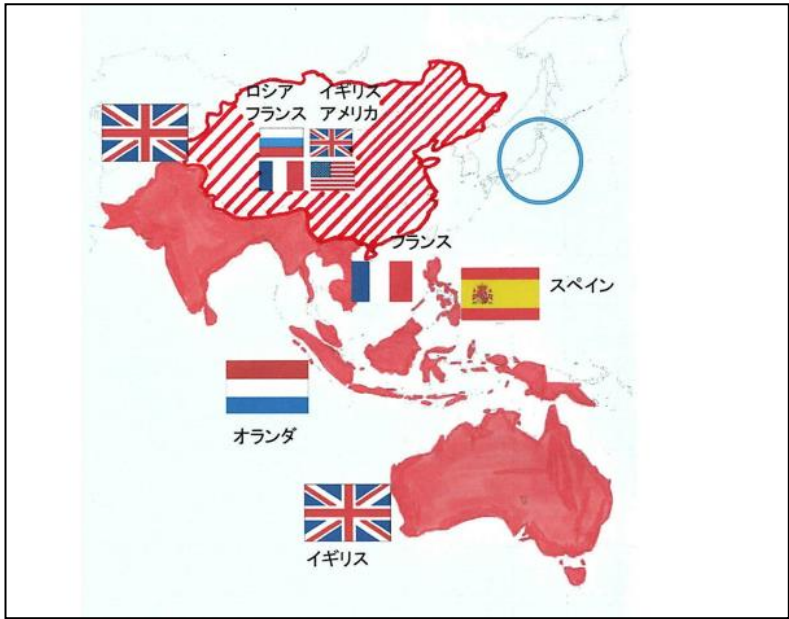
(3) 本時の板書計画



8 参考資料



第2時 黒船と日本の千石船の比較スライド



第3時 列強のアジア進出地図

⑤ 社会的事象の事実 + 生活の変化 を載せた年表		
年	政治	文化 人々の生活
1868	明治政府成立	
1868	新しい政治の方針である五か条の御誓文を発表した。	
1869	大名が治めていた土地などについての命令(版籍奉還)をした。	東京ー横浜間に電信が開通
1871	「藩」の扱いを変える廃藩置県を行った。	人力車が始まる
1871	岩倉使節団が外国に学びに行く。	郵便がはじまる 髪型が自由になる
1872	富岡製糸場という大きな工場をつかった。	新橋ー横浜間に鉄道が開通 福沢諭吉が『学問のすすめ』を出版する。
1873	兵隊を集める徴兵令というきまりをつくる。	
1873	税金の仕組みをかえた。(地租改正)。	
1873	岩倉使節団が帰国する。	
1877		銀座にレンガ街が完成

第3時 明治時代の年表

9 学習の実際 下線部は目指す児童像に迫る記述

	○主な学習活動 ◆問い【】 評価規準	観察対象児童の学習記録		教師による考察
		A児	B児	
1時	<p>○明治時代と江戸時代の高輪の様子を比較し、違いについて話し合う。</p> <p>◆なぜ江戸の町は短い期間で大きく変わったのだろうか。</p> <p>○黒船来航の目的について調べる。</p> <p>○外国と結んだ不平等条約について調べる。</p> <p>○黒船来航をきっかけとした日本の変化についての疑問を書く。 【思考①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代と明治時代では人々の服装や髪形が違う。 「和」から「洋」に変わったから、外国の人が日本に何かしに來たんだと思う。 江戸時代は鎖国をしていたはずだから、鎖国がくずれたのではないか。 ペリーが来て鎖国が終わり、外国との関わりが増えたから、町の様子も変化し、文化が発展するなど、政治の仕組みが大きく変わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代の高輪には外国人のような人がいる。鎖国を取り止めたのだろうか。 20年間ですごく変化している。 鎖国を止め、外国の文化を取り入れたことで、日本人は外国に興味をもったのではないか。人々の暮らしも変化しそう。 開国したことで文化が発展した。でも、開国は本当に良いことばかりだったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代と明治時代の高輪の様子を比較することは、短期間で西洋化したことをつかむことができ、日本にどんなことが起きたのか、児童が疑問をもつことができたため、有効な手立てだった。 黒船の大きさを千石船や学校と比較したスライドを見せることで、当時の人々が黒船に対して恐れや焦りを抱いたことを捉えさせることができた。
2時	<p>○占領された長州藩の砲台の写真資料を読み取り、開国による影響について話し合う。</p> <p>◆開国によって世の中はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○生活への影響について調べ、当時の人々の気持ちを考え話し合う。</p> <p>○占領された下関砲台と薩英戦争の写真から当時の人々の気持ちを考え話し合う。</p> <p>○大政奉還、江戸城開城を調べ、約260年続いた江戸幕府の終わりについて話し合う。</p> <p>○開国による世の中の変化をノートに書く。【知技①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開国したことで、お米の値段はすごく上がったたり、品物が不足したりして生活が苦しくなった。 日本対イギリスでも当時の戦力じゃとても勝てそうにないのに、藩対イギリスじゃ絶対に勝てるはずがない。 長州藩と薩摩藩が軍事的な約束を結んで、江戸幕府に対抗する態度をとった。 開国したら、崩れかけていた幕府がされにくずれて江戸幕府が終わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 開国をすることで、最初はみんな色々な制限がなくなりそうで喜んでいただけ、少し経ってから不満が増えてきたと思う。 開国をしたことで物価の上昇などがおき、人々の生活は苦しくなった。 武士は外国の勢力を追い払おうとしたが、力の差が激しく、すぐに敗れた。 幕府への不満がさらに高まり、最後には、江戸幕府は天皇に政権を返し、幕府による政治は終わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の高輪の様子資料から開国したことで文化が発展したからよかったという思いをもつ児童が多数いたが、薩英戦争や下関戦争の様子、物価上昇のグラフを読み取ることで、開国による世の中の変化について疑問をもって調べることができた。 前小単元までのノート等を振り返ることで、江戸幕府の衰退、倒幕について理解することができ、当時の人々の気持ちを考えることができていた。
3時	<p>○列強によるアジア進出について調べる。</p> <p>◆明治の国づくりに関わった人々はど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本のまわりの国はどんどんイギリスやフランスなどのヨーロッパの国々に支配されていた。ついに 	<ul style="list-style-type: none"> 自分だったら日本を強い国にしたい。そのためには、強い軍隊をつくる必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 列強によるアジア進出をスライドで提示した。「このままだと、日本が植民地になってしまう。」という発言があり、当時の日本の危機的な状況を理

	<p>のような思いだったのだろうか。</p> <p>○予想を確かめるための学習問題を設定する。</p> <p>○学習問題を解決するためにはどのような問いが必要なのかを考え、学習計画を立てる。</p> <p>○つかむ段階を振り返りカードに記入する。</p> <p>【思考①】【態度①】</p>	<p>はとなりの国の中国まで支配された。次は日本かもしれない。日本を守る必要がある。</p> <p>・古墳時代の渡来人のように外国から人をまねいて技術を学んだり、江戸時代のようにきまりをつくったりしたと思う。</p> <p>・<u>年表で大体の様子はわかったから、それを基にして学習問題を解決したい。</u></p>	<p>・日本独自の「和の文化」の物を貿易して外国に買ってもらえば儲かってたくさん武器が買えそう。</p> <p>・今まで全国统一をするためにはリーダーや強い権力が必要だったから明治も同じようなことをしたのではないか。</p>	<p>解するのに有効であった。</p> <p>・自分だったら日本をどんな国にするか考えるよう促すことで、今までの時代を振り返りながら予想を立て、学習問題につなげることができた。</p> <p>・年表を活用して学習計画を立てることで見通しをもつことができ、主体的に学習に取り組むことができた。</p>
<p>4 ・ 5 時</p>	<p>◆明治政府は、どのような政治の仕組みを整えたのだろうか。</p> <p>○五箇条の御誓文などの政府が行った諸改革を調べ、それによって社会がどのように変わったのかを考える。</p> <p>◆国を豊かにするために何をしたらだろうか。</p> <p>○殖産興業（富岡製紙工場）、地租改正の内容について調べる。</p> <p>◆国を強くするために何をしたらだろうか。</p> <p>○徴兵令について調べる。</p> <p>◆人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○学校制度や暮らしにどのような変化があったのか、絵画や年表などから調べる。</p> <p>○福沢諭吉の業績について調べ、人々の生活や考え方の変化、現代の暮らしへの影響を考える。</p> <p>【知技①】【態度①】</p>	<p>・国がよくなるようにしたかった。天皇中心で身分の差を少なくしようとした。</p> <p>・天皇中心の国にしたかったから、武士が邪魔だったのではないか。</p> <p>・明治政府は富国強兵の政策を進め、欧米の国々に追いつき負けない国を目指した。</p> <p>・国を強くするために20歳以上の男子を集めて、西洋式の強い軍隊をつくった。予想通りだった。</p> <p>・経済を発展させるために、機械を買い入れ、官営工場をつくった。</p> <p>・外国から進んだ技術や知識を教わっていた。</p> <p>・人々の生活は、暮らしのいろいろなことが西洋風に変化した。その変化は室町文化や江戸時代の文化のように今もある文化。</p>	<p>・五か条の御誓文が出された。内容が令和に近づいたみたいだ。</p> <p>・版籍奉還や廃藩置県を行い、解放令によって身分の差がなくなった。武士の政治から天皇を中心にした政治になった。</p> <p>・武士中心の軍隊から国民による西洋式の強い軍隊にするために、徴兵令を出した。外国と戦う気満々だ。</p> <p>・新しい税の負担に苦しんだ国民による一揆も起きている。</p> <p>・人々の暮らしは、全体的にすごく進化している。建物、人、馬車・・・全て西洋風で日本っぽさがなくなった。</p> <p>・福沢諭吉の「学問のすすめ」により、学問が広まった。学問の世の中になっていった。</p>	<p>・グループごとに調べる方法や資料を選択したことによって、問いの解決に向けて必要な内容を探したり、自らの調べた内容を振り返ったりすることができ、主体的な学習をすることができた。</p> <p>・調べた事実について、明治政府はなぜそのような政策を行ったのか考えることで、政府が目指した国づくりについて理解を深めることができた。</p> <p>・明治初め頃の東京の様子や小学校の授業風景、福沢諭吉などの資料を提示した。人々の生活も大きく変化したことを捉えるために有効であった。</p>

<p>6 ・ 7 時</p>	<p>○問いについて調べてきたことを学級全体で確かめ合い、それがどのような国づくりを目指したのかを考えて話し合う。 ○明治政府がどのような国づくりを目指していたのかを考え、ノートにまとめる。 【思考①】</p>	<p>・明治政府は聖武天皇のころのような天皇中心の国づくりを行った。 ・日本を強い国にするために、富国強兵の政策を進めた。また、経済を発展させるために、様々な取り組みを行った。 ・少人数グループで協力して調べたので、自分の調べたりないところに気が付くことができた。しっかりと学習問題の解決に向けて調べることができたと思う。</p>	<p>・明治政府は富国強兵の政策を進め、欧米の国々に追いつき、負けない国を目指した。 ・天皇中心の国づくりを行い、身分の差をなくすことで、皆が過ごしやすい世の中を目指した。 ・人々の暮らしも西洋風に変化した。 ・聖徳太子の時のように天皇中心を目指すときには決まりを作っていた。明治の場合は規模が大きいと思っ</p>	<p>・前時に調べた人々の暮らしの変化が強く印象に残っている児童が多かったため、明治政府が行った政策を確認する時間を設定した。明治政府が目指していた国づくりについて話し合うために有効な手立てであった。 ・少人数グループごとに協力して調べられるようにしたため、学習問題の解決に向けて粘り強く取り組むことができた。 ・既習単元の内容を教室に掲示しておいたことで、本実践の学習内容と比較しながら国づくりの共通点と相違点について考えることができた。</p>
<p>8 時</p>	<p>○明治の国づくりを関係図にまとめる。 ◆まとめた関係図からどのようなことが考えられるだろう。 ○学習問題に対する自分が考えた結果を書く。 ◆江戸の頃と比べて明治の頃はどのような世の中になったと言えるだろう。 ○自分が考えたことをノートに書く。 【知技②】【思考②】</p>	<p>・日本は欧米よりも産業が遅れていて、欧米に追いつき、負けない強い国をつくりたかった。 ・日本がよくなるように、西洋の文化を取り入れて、暮らしや物の考え方に大きな影響を与えた。このような改革に積極的に取り組んだ中心人物がどの時代にもいることが大事だと思う。それはこれからの時代にも言えることだと感じる</p>	<p>・明治の新しい国づくりを行った人々は、外国に勝てる強い国を目指して、国をまとめた。教育制度も整えて国の力を付けた。 ・江戸時代のころと明治時代とでは日本の様子は大きく変わった。</p>	<p>・オクリンクを使用して明治の国づくりについてまとめた。学習内容を整理することができ、明治政府がどのような国づくりを目指したのかを考えるために有効な手立てであった。</p>

考察

- ・高学年では「社会とつながり未来を創ろうとする子供」を目指す児童像としている。B児は明治政府がどのような国づくりをするのかを予想する際に、「列強の進出を空間的に捉えた上で、「自分だったら日本を強い国にした。そのためには、強い軍隊をつくる必要があると思う。」と記述し、歴史的事象を自分事として考え、時代に身を置いて考える姿が見られた。A児は明治政府の国づくりをまとめた上で「日本がよくなるように、西洋の文化を取り入れて、暮らしや物の考え方に大きな影響を与えた。このような改革に積極的に取り組んだ中心人物がどの時代にもいることが大事だと思う。それはこれからの時代にも言えることだと感じる。」と過去とこれからの国づくりについて考え、歴史を学ぶ意味を考える姿が見られた。
- ・目指す児童像の実際の背景にある指導のポイントは以下の通りである。
 - ① 教科書の資料を基にしつつ、人物を中心に必要に応じて見方・考え方が働く資料（人や地図、年表など）を加えることが、当時の人々の思いに着目し、切実感をもって歴史的事象について考えることにつながった。
 - ② 既習単元の内容を教室に掲示しておいたことが、事象や人々の相互関係に着目した国づくりの振り返りにつながり、国をつくる人の思いについて考える際の根拠につながった。

【高学年分科会の成果と課題】

目指す児童像		社会とつながり未来を創ろうとする子供	
研究内容	<p>① 主体的に問いを追究する工夫に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人々の気持ちに共感できる資料を活用する。 ○ねらいを達成するために意図的な資料を作成する。 ○単元構想図を作成する。 	<p>② 見方・考え方が働く学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な見方のできる資料を組み合わせることによって、複数の見方・考え方を働かせられるようにする。 ○単元構想図で必要な学習活動を計画的に位置付けていく。 ○単元構想図で必要に応じて「生かす」を設定する。 	<p>③ 子供の学びを確かにする評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学び方カード」を活用し、子供が自分の学びを振り返ることができるようにする。 ○また、子供の学習の様子を把握し、指導に生かしていく。 ○学習を振り返る活動を繰り返すことで、次の学びに生かせるようにする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のねらいに即して、教材開発を行い、意図的な資料を作成し、教材の提示の工夫まですることができた。このことを通して、児童が追究する問いの連続性を図ることができた。 ○人々の気持ちに共感できる資料を作成することができ、これにより、切実感をもって問いを追究することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史学習において、時間的な見方・考え方に加えて、空間的な見方・考え方ができる資料(地図)を読み取ることができたり、切実感をもって主体的に学ぶことができた。 ○既習単元の内容を教室に掲示しておいたことで、事象や人々の相互関係に着目して国造りを振り返ることができ、本実践の学習問題の予想を立てる際に一人一人が根拠が明確な考えをもつことができた。 ○学習のつながりを意識して、「生かす」段階を設定することができた。例えば、5年生の情報単元において、無人コンビニが社会に広がるかどうかを考える時間を設定することによって、これまでの既習事項を生かして考えることができ、学習に広がりがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元で「学び方カード」を活用することで、児童自身に自分の学びを振り返る習慣が身に付いてきた。児童の記述の中にも「次の学習では～をしたい」というような言葉が増え、学習のつながりを意識できるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●単元によっては関係する人々を取り扱うことが難しいものがある。そのため、人々の気持ちに共感する資料を作成することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な見方・考え方を働かせることのできる資料を扱ったが、その資料から情報を取り出し特色や意味まで考えられる児童が多くなかった。そのため、資料の読み取りや比較・分類・関連付け・総合していく方法について指導していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学び方カードのどこに何を書かせるのかを教員間で共有することが不十分であった。

おわりに

副校長 田内 利美

本校は、令和5年度の全小社研東京大会の会場校が決まり、本年度より都小社研の研究主題・副主題と同様に「社会とつながり未来を創る子供の育成～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～」をテーマに全学年で研究授業を行い、全職員一丸となって研究を進めてまいりました。

今年度も、子供たちにとって新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、様々な機関で見学をすることが厳しく、直接社会的事象に触れる機会が減少する1年間となりました。しかし、一人1台タブレット端末の配布が進み、社会科の授業場面でもタブレット端末を活用して調べる場面、話し合う場面など間接的ではありますが、新たな授業の展開も生まれました。これは、限られた環境の中でも、子供たちが主体的に学習に取り組む態度の向上という成果を得ることができたと感じています。そのような中でも、四谷地域では、可能な限り子供たちにお店で直接見学やインタビューさせていただく機会、ゲストティーチャーとして地域の安全や発展を願って直接子供たちに話をさせていただく機会をいただきました。私たちは、地域が一丸となって、子供たちの未来を明るくしたいという思いに触れ、教職員一同、「子供たちに四谷のまちをもっと好きになってほしい。」と、地域教材をしっかりと開発して社会科の授業を創り上げたいという思いを、強くもった1年間でした。

最後になりますが、本研究を進めるにあたって厳しくも温かくご指導、ご助言を賜りました前聖徳大学大学院教授 廣嶋憲一郎先生、国土舘大学体育学部教授 澤井陽介先生、文部科学省教科調査官 小倉勝登先生に心より感謝し、御礼申し上げます。

<研究に携わった教職員>

校長 石井 正広

副校長 田内利美

1年1組	◇山根 恵子	4年1組	◇柳沼 麻美	英語科家庭科	◇藤野 淳子
2組	渡邊 正美	2組	内野 まどか	養護教諭	松本 真美加
3組	長田 英恵	3組	舟山 貴博	非常勤職員	辻本 啓子
4組	大木 雅也	5年1組	瀧上 悠太		小林 裕子
2年1組	大島 なぎさ	2組	◇小松 里実		櫻井 洋子
2組	首藤 祥野	6年1組	◇坪田 真尚	事務主事	宮島 砂織
3組	◇木月 康二	2組	白澤 恵梨香	栄養士	齋藤 愛
4組	前田 亮佑	3組	馬見塚 拓也	特別支援教室専門員	安藤 範子
3年1組	◎香取 桜子	少人数算数	藤澤 舞羽	用務主事	高瀬 信一
2組	松木 貫太	音楽科	山下 恵莉		田崎 修男
		図画工作	村上 かおり		立花 園子

育休の職員 菊池 友也 塚田 麻衣 今井 陽子

◎ 研究推進委員長

◇ 研究推進委員

